野市町埋蔵文化財発掘調査報告書　第８集

KAMIOKA

上　岡　遺　跡

－上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書－

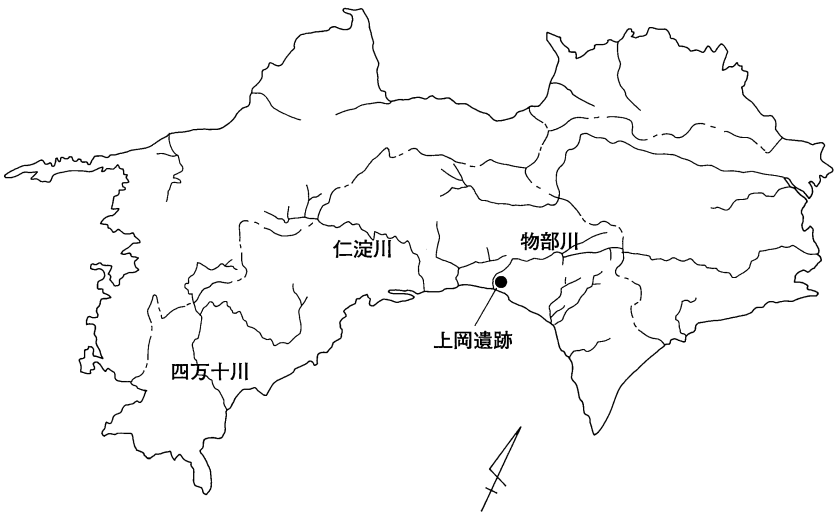
２００５．３

高知県野市町教育委員会

KAMIOKA

上　岡　遺　跡

－上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書－



２００５．３

高知県野市町教育委員会

序

野市町は、太陽、水、緑に恵まれた自然条件の中にあり、早くから先人が歴史を造ってまいりました。近年は人口が増加し、それに伴う開発も増加し続けております。開発と文化が共存し、住みやすく、心も豊かになれる町として発展していくことを願い文化財行政を進めております。

今回の調査では、弥生時代前期の土器や、後期中葉の竪穴住居跡など多数の遺構や遺物を検出いたしました。また、古代の掘立柱建物跡も検出しております。

これまでに行ってきた発掘調査の成果と併せて、上岡地区周辺をはじめとする物部川下流域の歴史を解明するためにも貴重な調査となりました。

この上岡遺跡報告書が、学術的に多くの研究者に活用されることはもちろんのこと、学校教育や、生涯学習、或いは多くの町民の方々に広く活用していただきたいと思います。

また、上岡遺跡の発掘調査が物部川下流域に広がる野市町の歴史を紐解く契機となり、１人でも多くの方々が埋蔵文化財に関心を持たれて、より一層の文化振興の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、上岡遺跡調査にあたって、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センターの調査員ならびに作業員、調査にご協力頂いた地元関係者のみなさまのお陰を持ちまして、上岡遺跡報告書を刊行する運びとなりましたこと、心より御礼申し上げます。

今後も更なる野市町の文化財行政に対するご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成17年３月

高知県野市町教育長　山　中　國　保

例　言

1　本書は、野市町教育委員会が上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴い実施した、平成８年度緊急試掘調査、平成11年度緊急発掘調査報告書である。

2　上岡遺跡は、高知県香美郡野市町上岡2712番地他に所在する。

3　調査期間

(1)　平成８年度　試掘調査

平成８年12月16日　～　平成９年２月25日

(2)　平成11年度　発掘調査

平成11年12月１日　～　平成12年３月22日

4　調査面積

(1)　平成８年度　試掘調査

調査対象面積　1260㎡

調 査 面 積　104㎡

(2)　平成11年度　発掘調査

調査対象面積　1260㎡

調 査 面 積　1000㎡

5　調査体制

(1)　平成８年度　試掘調査

小松　大洋（野市町教育委員会社会教育課　社会教育主事）

更谷　大介（野市町教育委員会社会教育課　臨 時 職 員）

(2)　平成11年度　発掘調査

木下　洋一（野市町教育委員会生涯学習課　班　　長）

更谷　大介（野市町教育委員会生涯学習課　臨 時 職 員）

6　本書の編集は更谷大介・溝渕真紀が行った。

7　遺構等の名称については、SB（掘立柱建物跡）、ST（竪穴住居跡及び竪穴状遺構）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用する。

8　発掘調査に関しては、地元野市町上岡をはじめとした町内にお住まいの方々の全面的なご理解とご協力、ならびに温かいご支援を賜り、調査を進めることができました。記して謝意を表します。

9　発掘調査及び報告書作成に際しては、出原恵三、池澤俊幸、久家隆芳（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター）にご教示、ご指導頂いた。記して謝意を表します。（敬称略）

10　発掘作業員に際しては、下記の方々の協力を得た。記して謝意を表します。
貞岡重道・佐野宣重・吉川徳子・吉川誠喜・大黒貞之・町田恵子・森田彩子（敬称略）

11　重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻しについては、平成８年度に共運工業の森岡和信、平成11年度に清藤勝秀の便宜・協力を得た。記して謝意を表します。（敬称略）

12　遺物整理、報告書作成に際しては、下記の方々の協力を得た。記して謝意を表します。
岩崎佐枝・岩貞泰代・岩本須美子・大原喜子・尾崎富貴・川久保香・浜田雅代
東村知子・松木富子・森　綾子・矢野　雅・山中美代子・山本由里（敬称略）

13　出土遺物については、「96-34NK」（平成８年度 試掘調査）「99-NK」（平成11年度発掘調査）と註記し、関連図面、写真とともに野市町教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章　遺跡周辺の地理・歴史的環境 …… 1
1．地理的環境 …… 1
2．歴史的環境 …… 3

第Ⅱ章　調査の経過及び方法 …… 5
1．調査の経過 …… 5
2．調査の方法 …… 5

第Ⅲ章　調査の成果 …… 6
1．試掘調査 …… 6
2．試掘トレンチ概要 …… 6
3．本調査 …… 17
(1)　調査区の概要と基本層準 …… 17
(2)　弥生時代の検出遺構と遺物 …… 24
(3)　古代の検出遺構と遺物 …… 46
(4)　その他の検出遺構と遺物 …… 51
(5)　包含層出土遺物 …… 56

第Ⅳ章　まとめ …… 64

挿図目次

Fig. 1　上岡遺跡の位置と周辺の遺跡
Fig. 2　調査区位置図
Fig. 3　試掘トレンチ位置図及びTR 1 ～TR 4 セクション
Fig. 4　TR 5 ～TR12セクション
Fig. 5　TR 1 出土遺物（1）
Fig. 6　TR 1 出土遺物（2）
Fig. 7　TR 1 出土遺物（3）
Fig. 8　TR 1 出土遺物（4）
Fig. 9　TR 1 出土遺物（5）
Fig. 10　TR 1 （66～71），TR 7 （72～83）出土遺物
Fig. 11　TR 7 （84～92・94），TR 8 ・10（93），TR 8 （96・97），TR 9 （95）出土遺物
Fig. 12　遺構全体図
Fig. 13　東壁，北壁（c-c'），北壁（d-d'）セクション
Fig. 14　北壁（b-b'），西壁セクション
Fig. 15　ST 1 平面・セクション及び出土遺物
Fig. 16　ST 1 出土遺物
Fig. 17　ST 2 平面・セクション及び出土遺物
Fig. 18　ST 2 出土遺物
Fig. 19　SK 3 ，11平面・セクション及びSK11出土遺物
Fig. 20　SK12，13平面・セクション及びSK12出土遺物
Fig. 21　SK15，16，18，20～22，26，28平面・エレベーション及びSK21出土遺物
Fig. 22　SK30，32，SD 1 平面・エレベーション及びSD 1 出土遺物
Fig. 23　SD 2 出土遺物
Fig. 24　SD 5 ， 8 平面・エレベーション及びSD 5 出土遺物
Fig. 25　SX 1 平面・エレベーション及び出土遺物（1）
Fig. 26　SX 1 出土遺物（2）
Fig. 27　SX 1 出土遺物（3）
Fig. 28　P21平面・エレベーション及び出土遺物
Fig. 29　P50平面・エレベーション及び出土遺物
Fig. 30　P169(219)，P177(214)，P217(209)，P221(207・216)，P225(210・212)，P234(208・211・213・215)，P267(217)，P290(218)出土遺物
Fig. 31　集石 2 ， 3 及び集石 2 出土遺物
Fig. 32　集石 3 出土遺物

Fig. 33　SB 1 平面・エレベーション
Fig. 34　SB 2，P256平面・エレベーション及びP256出土遺物
Fig. 35　SK 1，2，14平面・エレベーション及びSK14出土遺物
Fig. 36　SK 4 ～ 8，17平面・セクション・エレベーション及びSD 4 (240)，SX 3 (241)出土遺物
Fig. 37　SK 9，10，23～25，29，33，34平面・エレベーション
Fig. 38　SD 3，4 平面・エレベーション
Fig. 39　SD 9 平面・エレベーション
Fig. 40　包含層出土遺物 (1)
Fig. 41　包含層出土遺物 (2)
Fig. 42　包含層出土遺物 (3)
Fig. 43　包含層出土遺物 (4)
Fig. 44　包含層出土遺物 (5)

表目次

表 1　遺跡名一覧
表 2　ST 1 ピット計測表
表 3　ST 2 ピット計測表

写真図版目次

PL. 1　調査区全景，TR 1 西壁
PL. 2　TR 1 遺物検出状況，TR 1 遺物検出状況
PL. 3　TR 3 南壁，TR 4 西壁
PL. 4　TR 7 遺物検出状況，TR 8 南壁
PL. 5　TR 9 遺構検出状況，TR 9 遺物検出状況（SK12）
PL. 6　本調査北壁，本調査西壁
PL. 7　ST 1 検出状況，ST 1 完掘状況
PL. 8　ST 2 検出状況，ST 2 完掘状況
PL. 9　SD 2 検出状況，SD 2 完掘状況
PL. 10　SX 1 掘削状況，SX 1 完掘状況
PL. 11　調査区西側遺構全景，集石 3 遺構検出状況
PL. 12　調査区西側遺構（SB 2），SB 2 ・P256遺物出土状況
PL. 13　調査区北側遺構全景（東より撮影），調査区北側遺構全景（西より撮影）
PL. 14　調査区南東側遺構全景，集石 2 検出状況
PL. 15　P50遺物検出状況，P21遺物検出状況
PL. 16　ST 2 床面遺物検出状況，調査風景
PL. 17　SK12，TR 1 出土遺物
PL. 18　ST 2，SK12，P21，P50出土遺物
PL. 19　SK13，SX 1，TR 1，包含層出土遺物
PL. 20　SK12，TR 1，SD 2，SX 1，P234，包含層出土遺物
PL. 21　TR 1，包含層出土遺物
PL. 22　TR 1，包含層出土遺物
PL. 23　TR 1，TR 8，包含層出土遺物
PL. 24　SB 2，P256，P50，TR 1，TR 7，TR 8，TR 8 -10，TR 9，包含層出土遺物
PL. 25　ST 2，SX 1，包含層出土遺物

第Ⅰ章　遺跡周辺の地理・歴史的環境

１．地理的環境

上岡遺跡のある野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にあり、南北約６㎞、東西約４㎞、面積23.15㎢、人口17,000人を超える町である。西は物部川をほぼ境として南国市、東は香我美町と隣接し、北は烏ケ森山系により土佐山田町と分けられる。南は赤岡町、吉川村の２町村と境を接し、野市町南端より約1.3㎞南で土佐湾にのぞむ。

北部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を活かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には北東部に聞楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する、古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この聞楽山系は、秋葉山系と烏ケ森山系の２つからなり野市町の約３分の１強の面積をしめる。

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある聞楽山（標高368.2m）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9m）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ケ森山系があり同じく、南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地性の氾濫源であり、現在の市街地をのせ、海抜高度約40～10mと北から南へ高さを減じている。また、台地の西端部分は５mほどの段丘崖となって沖積平地となっている。上岡遺跡は、この沖積平地上にあり海抜11m前後を測る。

これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎられた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用によりつまっていき、大きな自然堤防が形成され現在の流路になったと考えられる。

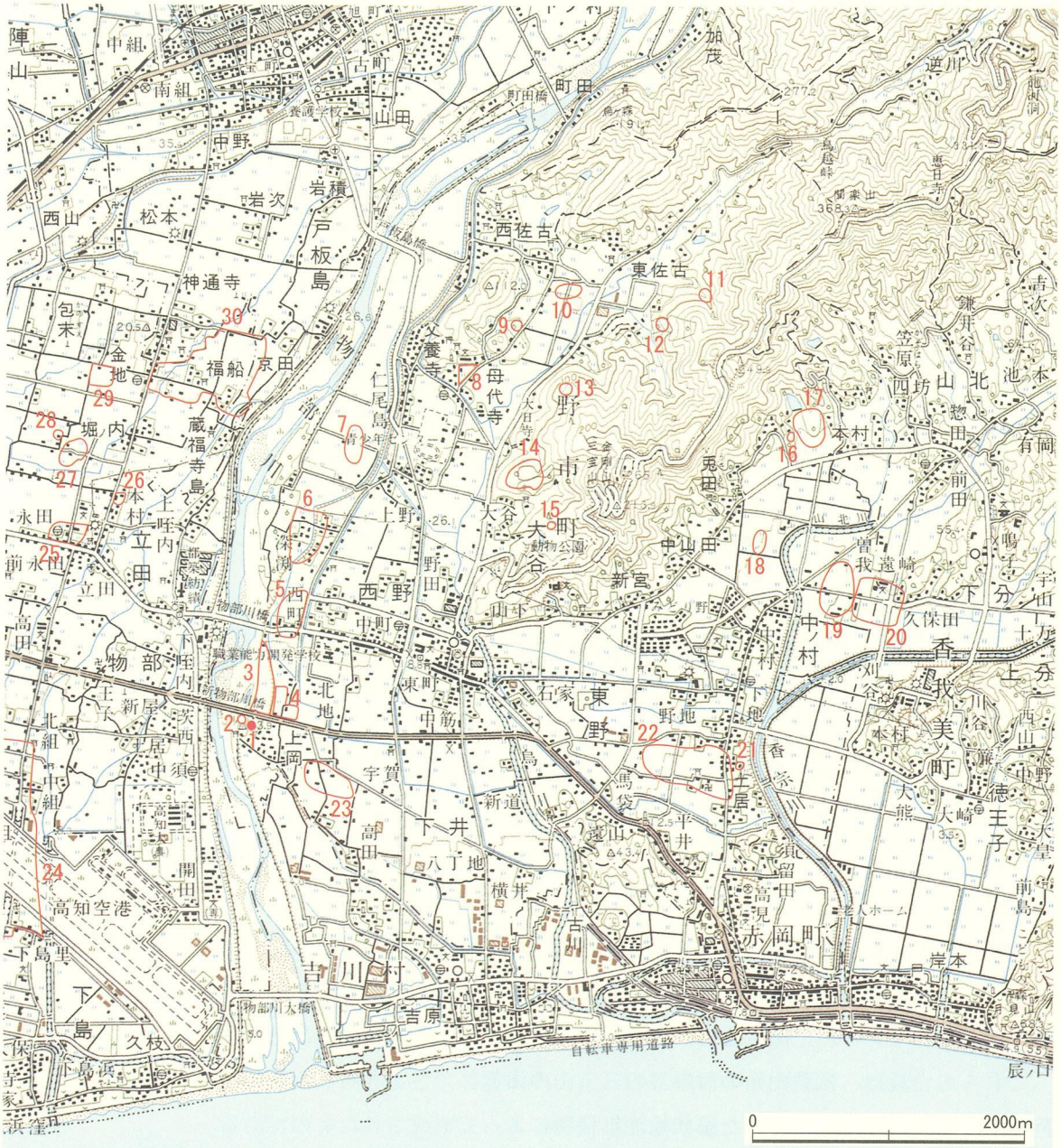


表１　遺跡名一覧

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	上岡遺跡	弥生・古代	11	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	弥生	21	宝鏡寺跡	中世
2	上岡北遺跡	弥生・近世	12	アゴデン白岩窯跡	平安・中世	22	東野土居遺跡	古墳～平安
3	下ノ坪遺跡	弥生～奈良	13	溝渕山古墳	古墳	23	高田遺跡	平安
4	北地遺跡	弥生～奈良	14	大谷城跡	中世	24	田村遺跡群	縄文～近世
5	西野遺跡群	弥生・古墳・平安	15	大谷古墳	古墳	25	寺ノ内遺跡	弥生～中世
6	深渕遺跡	弥生～近世	16	大崎山古墳	古墳	26	立田土居城跡	中世
7	深渕北遺跡	弥生～中世	17	本村遺跡	弥生	27	古流曽遺跡	古墳～平安
8	母代寺土居屋敷遺跡	弥生・平安～中世	18	兎田柳ヶ本遺跡	弥生～古墳	28	石神遺跡	弥生～古墳
9	亀山窯跡	平安・中世	19	曽我遺跡	弥生～中世	29	芝田遺跡	古墳～中世
10	東佐古遺跡	弥生	20	下分遠崎遺跡	弥生	30	岩村遺跡群	弥生～中世

Fig. 1　上岡遺跡の位置と周辺の遺跡（S：1/5000）

2．歴史的環境

上岡遺跡のある野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れており下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、田村遺跡は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られており、上岡遺跡から西へ約２㎞の地点に位置している。

また、その北部の上流右岸の土佐山田町にはひびのき遺跡[1]（弥生時代～古墳時代前期）、その対岸には林田遺跡[2]（弥生時代～室町時代）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代初期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡[3]や十万遺跡[4]がある。

町内にも数多くの遺跡があり、弥生時代には集落数が飛躍的に増加し町内全域に分布する。特に物部川流域は増加が著しく、上岡遺跡をはじめ、国道55号線を挟んですぐ北側に、多くのガラス製品や鉄器を所持していた集落として注目が集まっている下ノ坪遺跡[5]（弥生時代～奈良時代）がある。

またその北側には西野遺跡群（弥生時代・古墳時代・平安時代）・深渕遺跡[6]（弥生時代～近世）・深渕北遺跡（弥生時代～中世）と、物部川左岸の河岸段丘部に広く分布している。

東部には先に述べた香我美町の下分遠崎遺跡と同一遺跡と考えられる曽我遺跡[7]が香宗川流域に広がっており、その北側聞楽山地の麓にはガラス製の勾玉等が出土した、弥生時代中期の微高地性集落の性格をもつ本村遺跡[8]がある。聞楽山地には弥生時代中期末の笹ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獣骨、魚骨などが出土した弥生時代後期末の鬼ヶ岩屋洞穴遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も聞楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝渕山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存しており、横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも二次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳[9]をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、町内北部の佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在等により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡では、全国的にも出土例の少ない四仙騎獣八稜鏡が出土したほか、硯・丸鞆などが出土し、官衙的性格をもつ遺跡である下ノ坪遺跡がある。そこから北約１㎞に弥生時代からの複合遺跡で、二彩陶器、緑釉陶器、墨書土器、硯、鉈尾等が出土した深渕遺跡がある。深渕遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面硯や風字硯も発見され、官衙的性格をもつ遺跡であったと考えられる。また佐古地区の亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかっており、このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持ち重要な地であったことがうかがえる。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ヶ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺

跡に歴代の墓と観音堂がたっている。また、戦国時代の城では佐古地区に前ノ山城、また土佐山田町との境に烏ケ森城がある。

(1) 岡本健児・廣田典夫「高知県ひびのき遺跡」　土佐山田町教育委員会　1997年
(2) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏「林田遺跡」　土佐山田町教育委員会　1985年
(3) 高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」　香我美町教育委員会　1987年
高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」　香我美町教育委員会　1989年
(4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遺跡発掘調査報告書」　香我美町教育委員会　1988年
(5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「深渕遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1989年
(6) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし「下ノ坪遺跡Ⅰ」　野市町教育委員会　1997年
出原恵三・池澤俊幸・小松大洋「下ノ坪遺跡Ⅱ」　野市町教育委員会　1998年
(7) 高橋啓明・吉原達生「曽我遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1989年
(8) 坂本憲昭「本村遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1993年
(9) 山本哲也「大谷古墳」（財）高知県文化財団　1991年

第Ⅱ章　調査の経過及び方法

1．調査の経過

野市町上岡遺跡は、「上岡地区農業集落排水緊急整備事業」に伴う緊急発掘調査として、平成８年度に試掘調査を行い、平成11年度に発掘調査を行ったものである。

試掘調査は平成８年12月16日から実施し、処理場施工予定地に、２×４ｍを基本とした試掘トレンチを12ヶ所設定した。調査の結果、調査対象地全体に良好な遺物包含層が遺存し、遺構もわずかながら検出した。調査区の全域で遺物は出土しているが、特に調査対象地南西部のトレンチ１では、弥生時代前期の土器が１ｍ以上積み重なるように出土した。

これを受けて関係部局が検討した結果、事業区域内の埋蔵文化財の記録保存を目的に発掘調査に望んだ。

しかし、処理場建設に地元の方々と話し合いができておらず発掘調査も中断された。

平成11年12月１日、地元の方々のご理解を得て発掘調査を再開した。遺跡に影響を及ぼす建物と永久構造物となる通路部分を、埋蔵文化財の記録保存を行うことを目的として調査を実施し、弥生時代の竪穴住居跡や古代の掘立柱建物跡、多数の遺構や遺物を検出した。

平成12年３月22日に機材等を撤収し、発掘調査を終了した。

2．調査の方法

調査の手順としては、耕作土、旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進めた。

本遺跡は土を搬出する場所がないために、調査対象地をⅠ～Ⅳ区に分け、土を移動させながらの調査となったが本報告書では一括して扱う。

遺構の実測については、任意に設定した座標軸に基づいて、４ｍ方眼をかけ、グリッドNo.を付して、地点の記録及び実測を行った。平面実測及び土層断面図については、20分の１を基本に、適宜任意の縮尺を用いた。

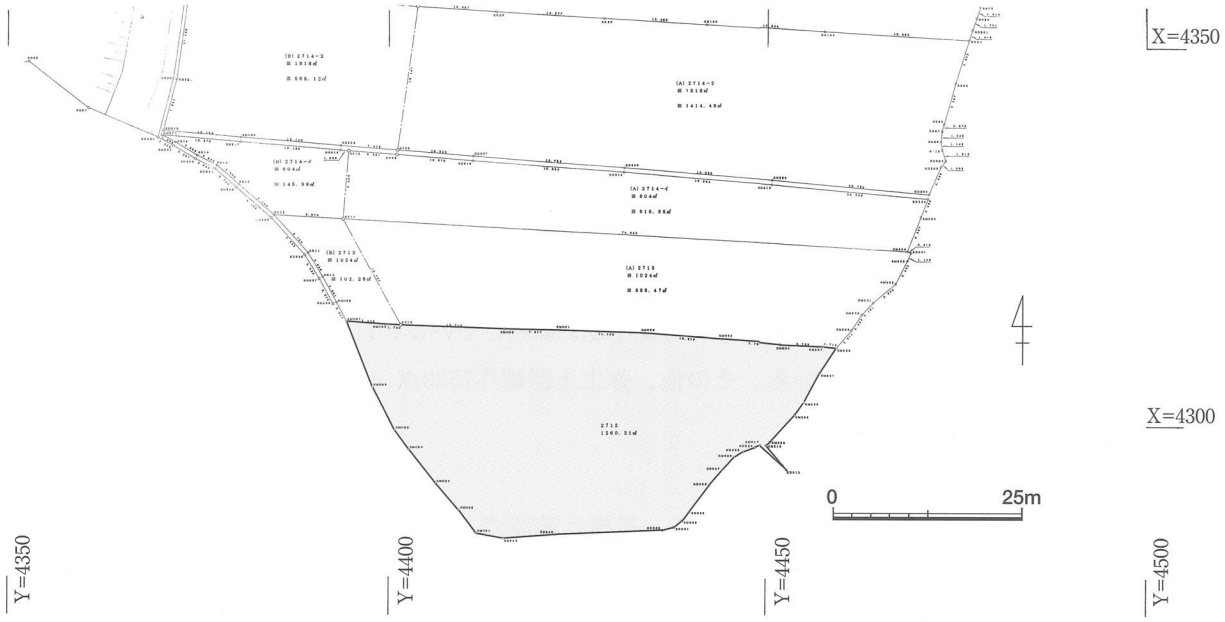


Fig. 2　調査区位置図（Ｓ：1/1000）

第Ⅲ章　調査の成果

1．試掘調査

(1)　基本層準

試掘調査時の基本層準であるが、本調査の１～９層までは同じであるが、10層から本調査では２層多く分層している。試掘調査時の包含層（11層）は、本調査では13層となる。

１層：表土
２層：明黄褐色シルト質土
３層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
４層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
５層：灰茶褐色シルト質土
６層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
７層：淡灰色粘質土
８層：黄茶褐色シルト質土
９層：濃灰色シルト質土
10層：暗黄褐色シルト質土（赤土が混じる）
11層：濃灰黒色粘質土
12層：黄褐色シルト質土
13層：暗灰茶砂質土
14層：黄褐色シルト質土

2．試掘トレンチ概要

(1)　TR１（fig.３・５～10）

調査対象地南西部に位置し、南壁に沿うように設定をしたトレンチである。遺構は確認できなかったが、包含層（11層）に多量の遺物が含まれていた。その下12層から下には、弥生時代前期の土器が１m以上積み重なるように出土している。

出土遺物は、壷（2・3・9～10・13～21)、壷頸部（4・8・12)、壷胴部（22・23)、壷底部（56～62・65)、甕(1・5～7・24～50・63)、甕底部(51～54・64)、鉢（66・67)、蓋（68～71)、石鏃（69)が図示できた。66は被熱赤変している。68は外面が被熱している。71は内外面が被熱赤変している。20・23・31は赤彩が施されている。その他、弥生土器細片7583点、石製品16点が出土している。

(2)　TR２（Fig.３）

TR１の東側に設定したトレンチである。遺構は確認できなかった。９層より弥生時代前期末・後期の土器細片が77点、11・12層より弥生時代前期末の土器細片514点が出土している。図示できる遺物はない。

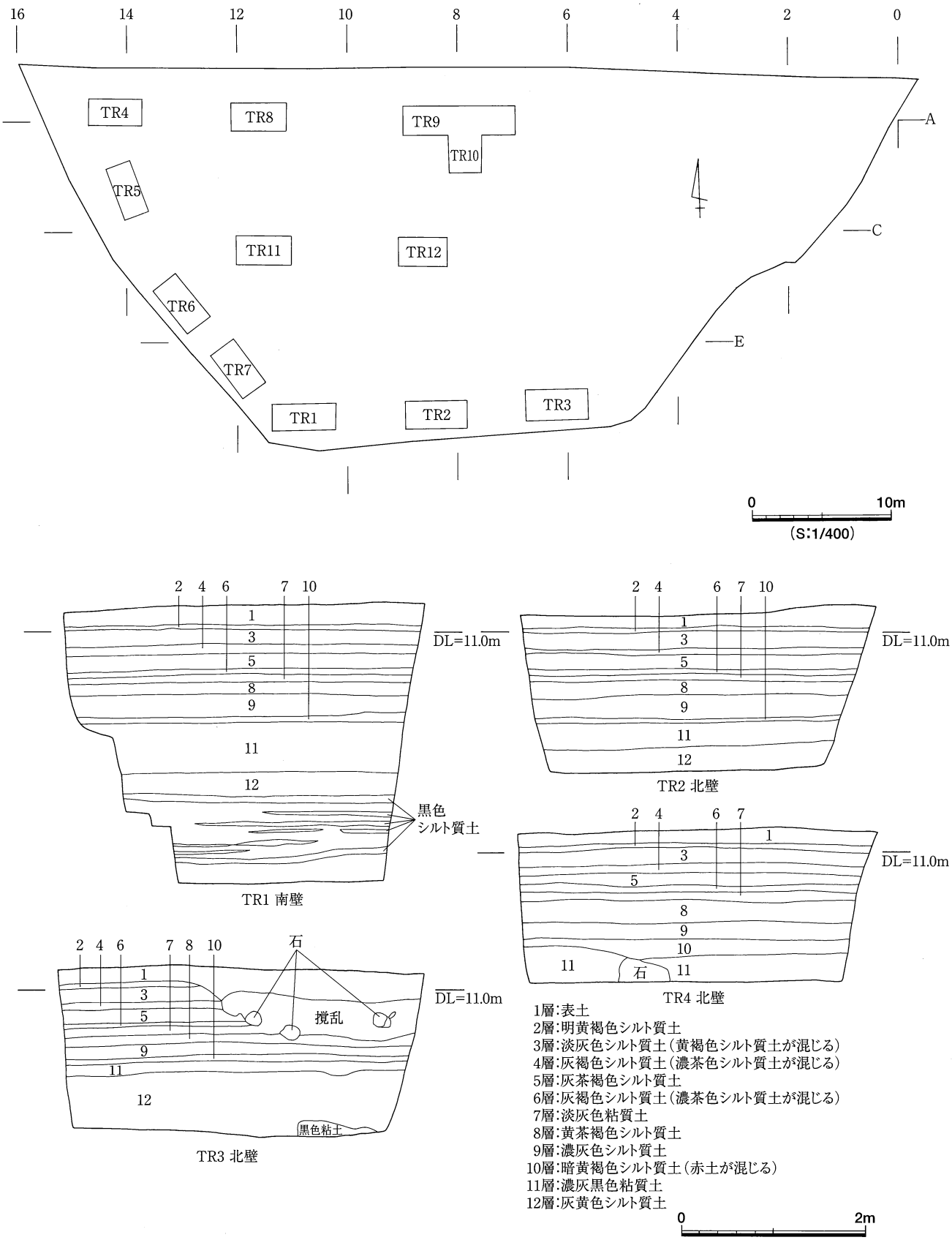


Fig. 3　試掘トレンチ位置図及びTR 1 ～TR 4 セクション

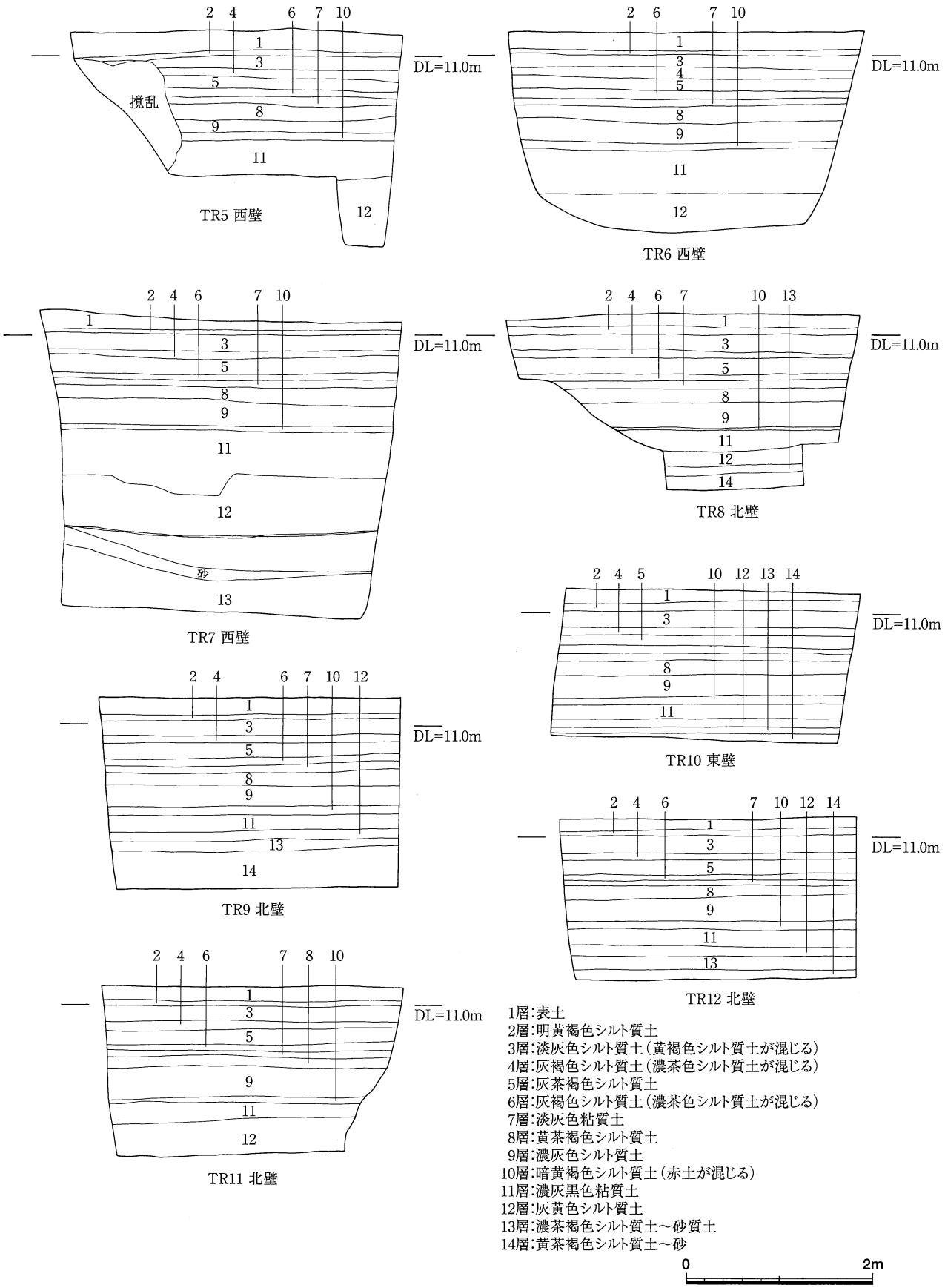


Fig. 4　TR 5 ～TR12セクション

(3)　TR 3 （fig. 3 ）

TR 2 の東側に設定したトレンチである。遺構は認められなかった。近世と思われる撹乱より弥生土器細片10点と須恵器細片 1 点が出土し、図示できる遺物はない。

(4)　TR 4 （fig. 3 ）

調査対象地西端に位置する。 3 層に須恵器壷細片 1 点が出土するが、遺構は確認できなかった。 9 層より弥生土器細片 4 点、須恵器細片 1 点、土師質土器細片10点が出土した。10層より下に人頭大の山石が数個あり、上岡山からの落下と思われる。図示できる遺物はない。

(5)　TR 5 （fig. 4 ）

TR 4 の南、上岡山裾野部に沿うように設定をしたトレンチである。 3 ・ 4 層に井戸らしきものがあり、近世陶磁器や瓦の破片が出土しているが、全容は不明である。 8 層より中世に属する備前すり鉢細片、10層より弥生土器細片 4 点、12層より弥生土器細片10点や近世陶磁器細片 3 点出土している。近世の撹乱も認められたが、遺構は確認できなかった。図示できる遺物はない。

(6)　TR 6 （fig. 4 ）

TR 5 の南側に設定したトレンチである。遺構は確認できなかったが、 9 層から弥生土器細片 7 点、土錘 1 点が出土している。図示できる遺物はない。

(7)　TR 7 （fig. 4 ・10・11）

TR 1 の北側、上岡山裾野部に沿うように設定したトレンチである。TR 1 との関連で遺物が集中して出土する。

出土遺物は、壷（74・75・81・89）、壷底部（73・90）、甕（72・76～80・82～88）、甕底部（91・92）、坏（94）が図示できた。その他、弥生土器細片1710点、須恵器細片 1 点、石製品 1 点、陶磁器 1 点が出土している。

(8)　TR 8 （fig. 4 ・11）

TR 4 の東側に設定をしたトレンチである。昭和の撹乱が認められた。11層下にピットがセクションにより確認され、中に遺物も認められた。

出土遺物は、坏（96）、小坏（93）、白磁Ⅳ類（97）が図示できた。その他、弥生土器細片 2 点、須恵器 5 点、土師質土器69点が出土している。

(9)　TR 9 （fig. 4 ・11）

調査対象地、中央付近北側に設定をしたトレンチである。12層に弥生時代の土坑が検出する。この土坑SK12については本調査の項で扱う。

出土遺物は、坏（95）が図示できた。その他、弥生土器細片173点が出土している。

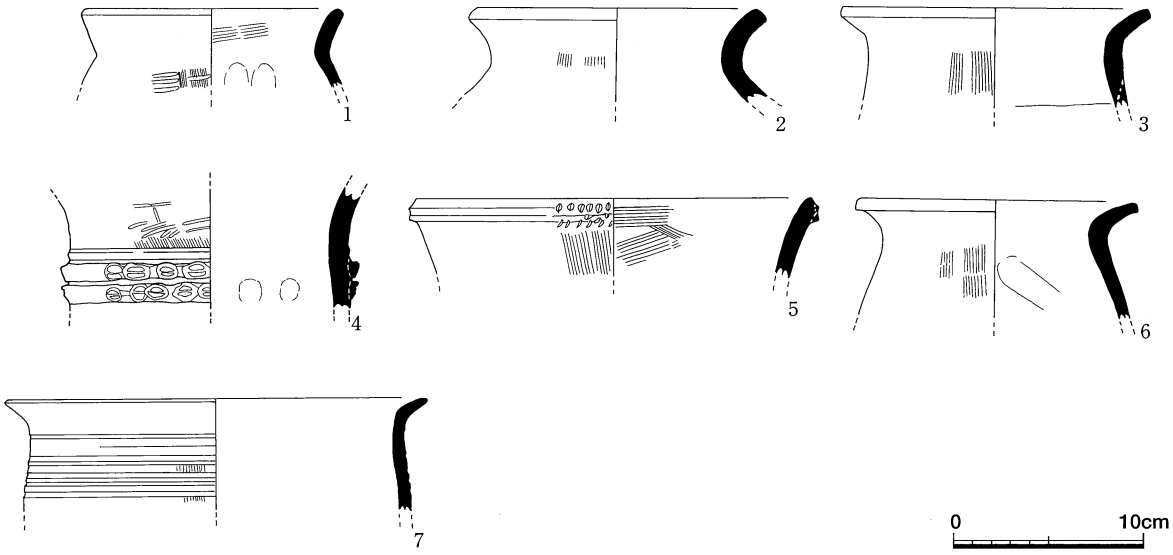


Fig.5　TR 1 出土遺物（1）

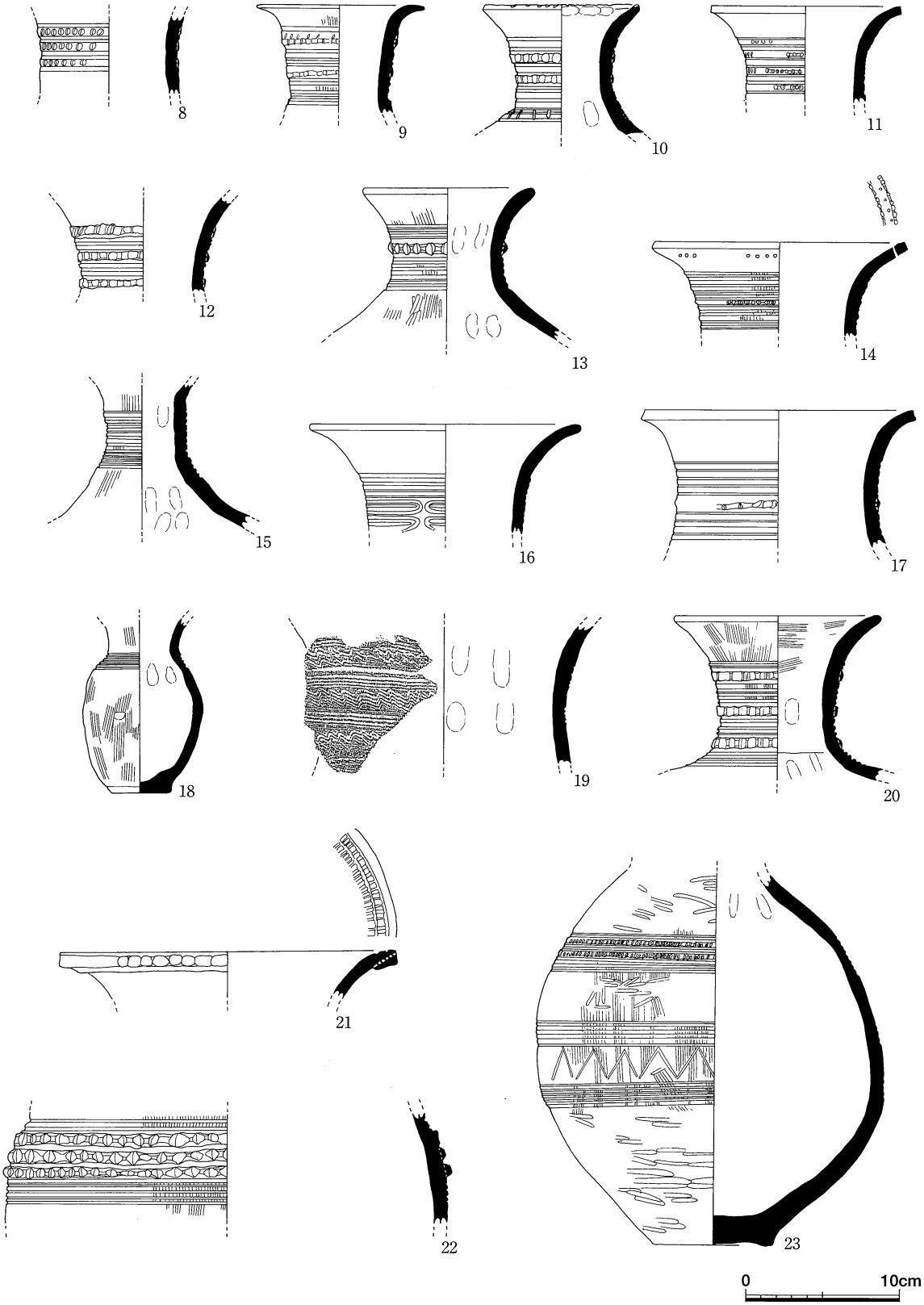


Fig. 6　TR 1 出土遺物（2）

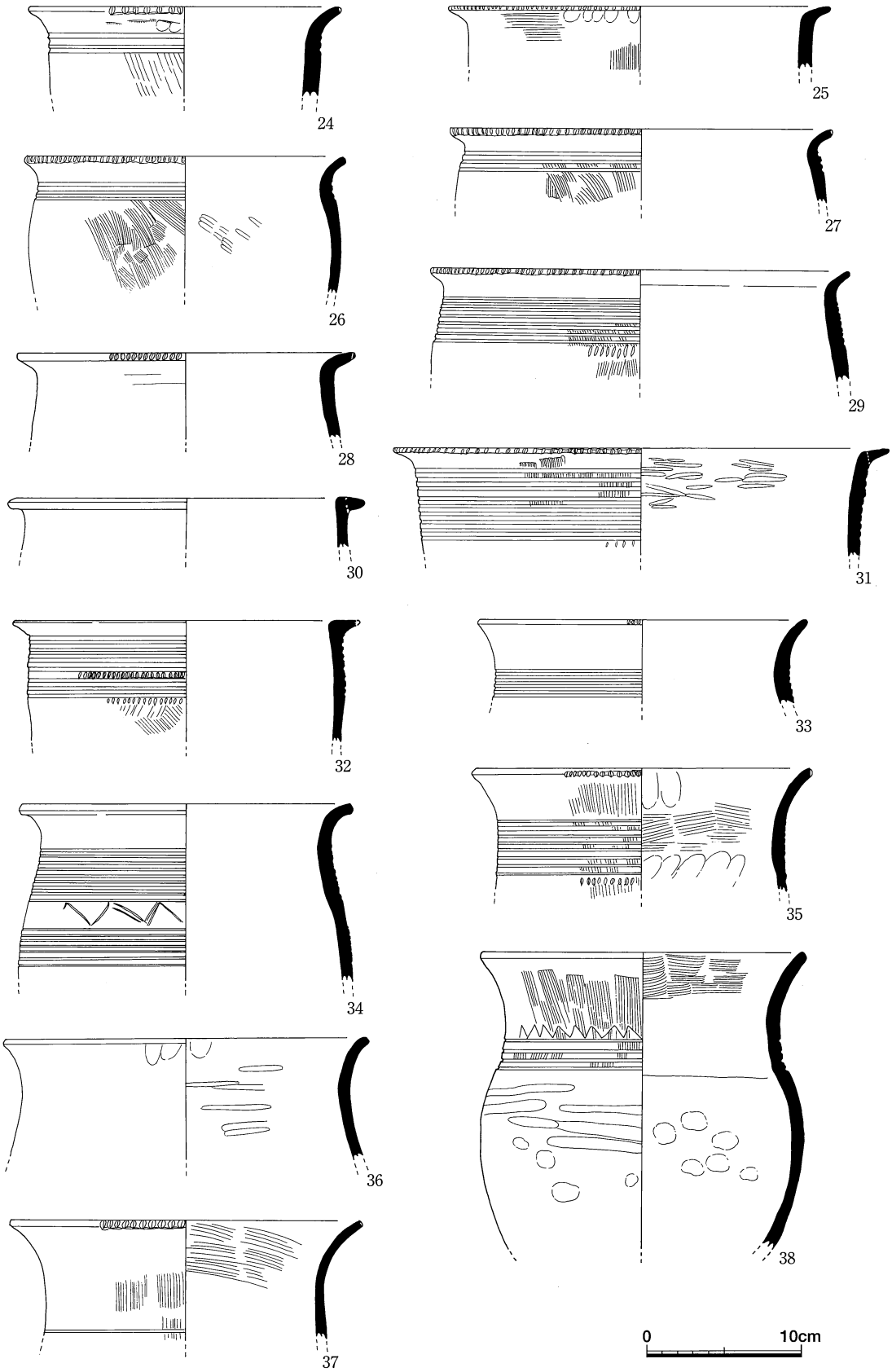


Fig. 7　TR 1 出土遺物（3）

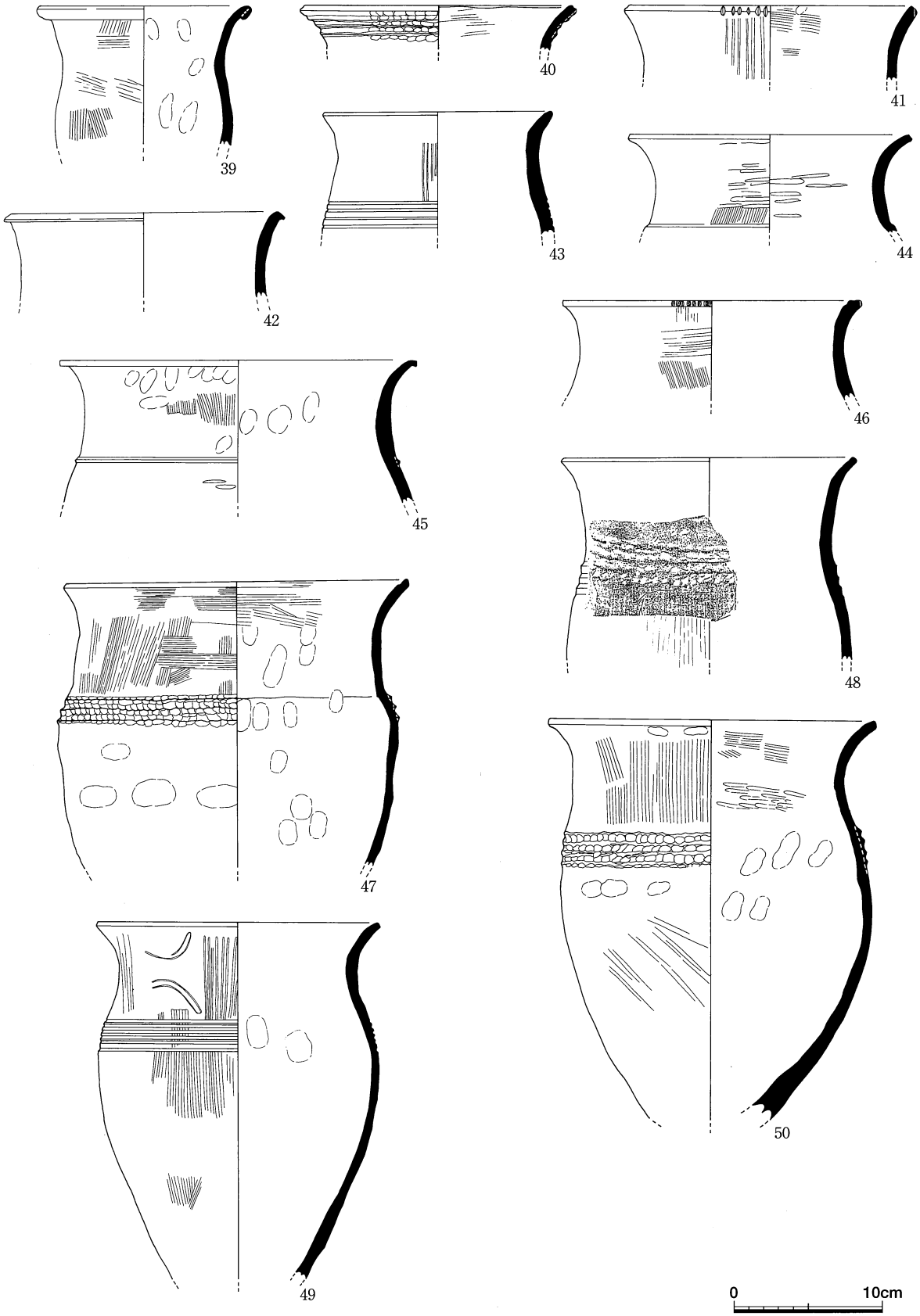


Fig. 8　TR 1 出土遺物（4）

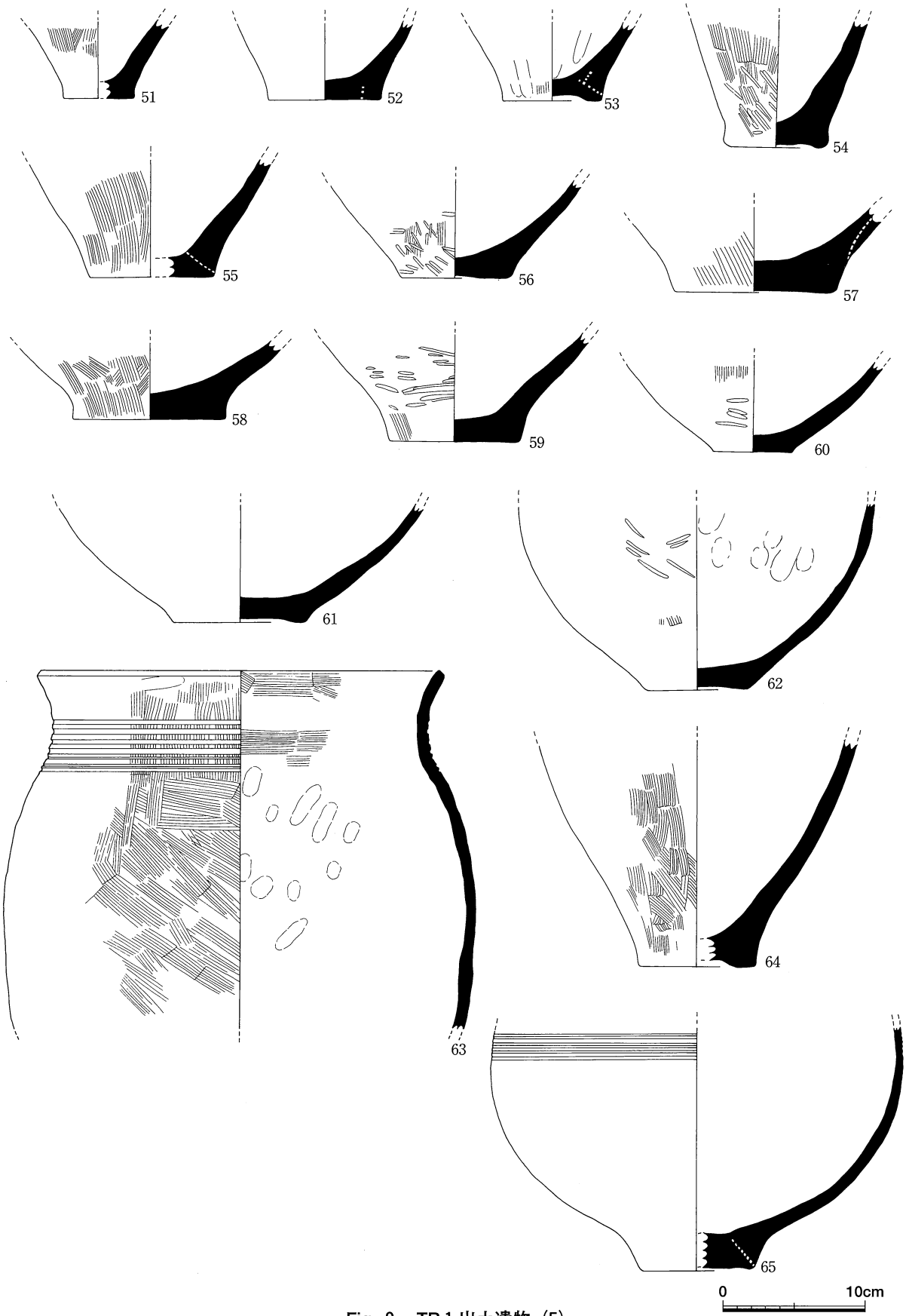


Fig. 9　TR 1 出土遺物（5）

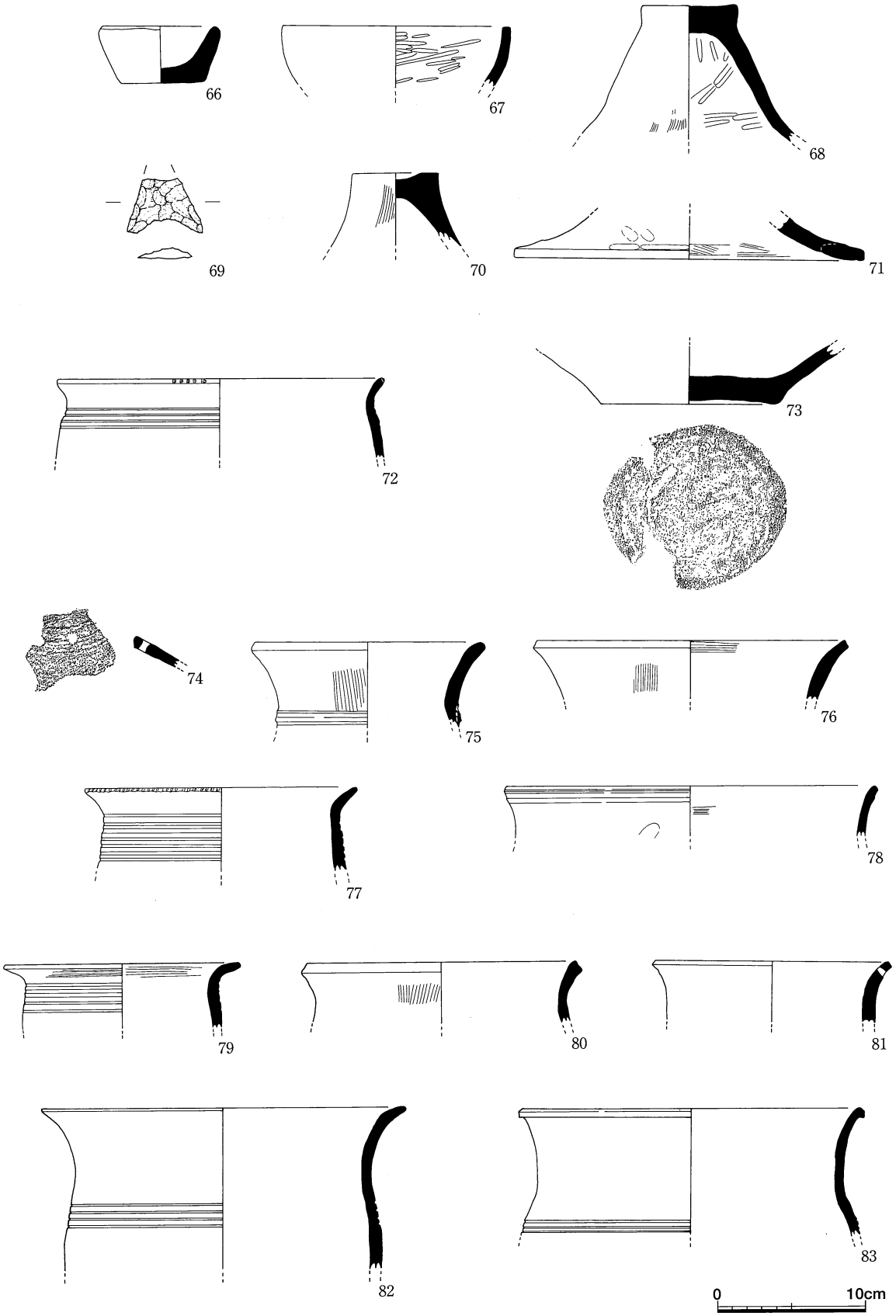


Fig.10　TR 1 （66～71），TR 7 （72～83）出土遺物

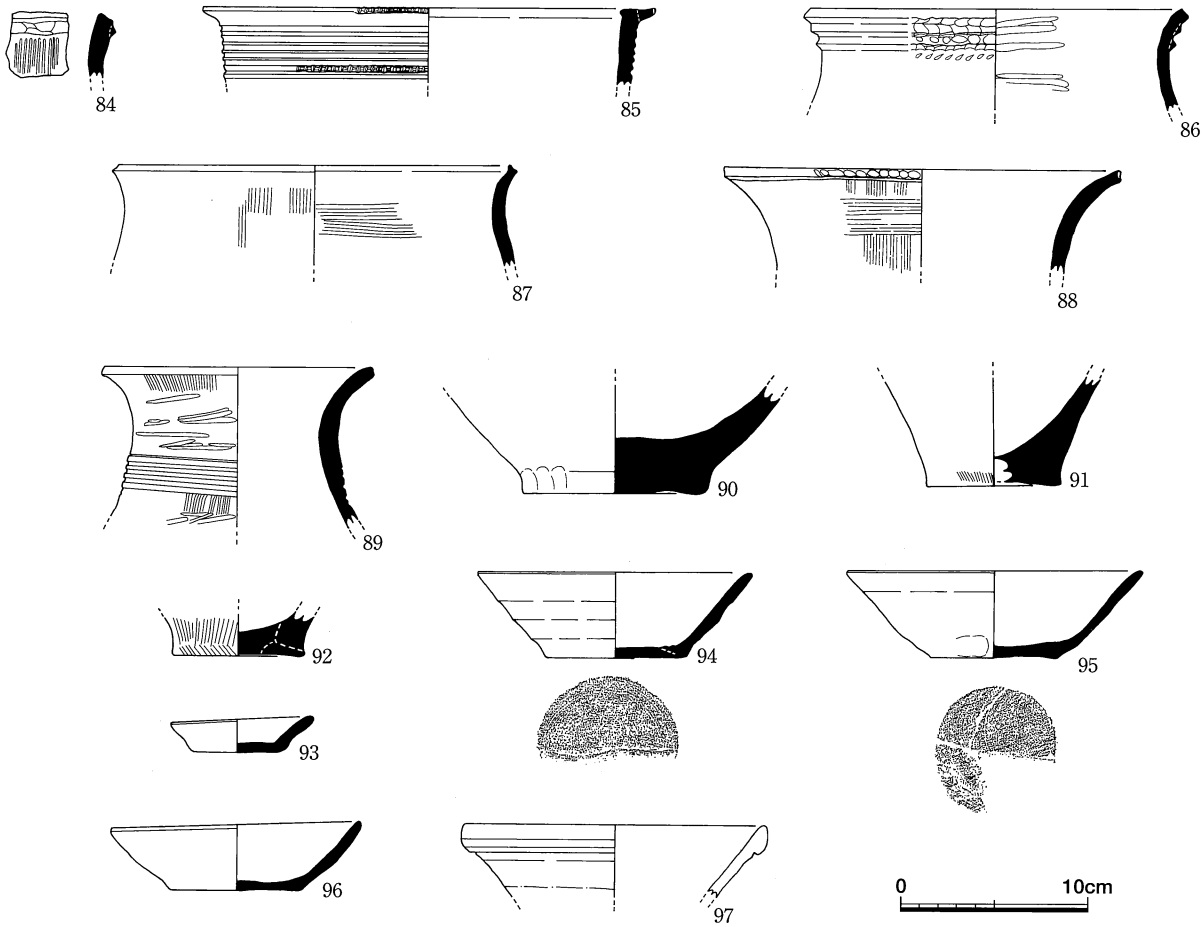


Fig.11　TR 7（84～92・94），TR 8・10（93），TR 8（96・97），TR 9（95）出土遺物

⑽　TR10（fig. 4・11）

TR 9 に接する、南北方向に長いトレンチである。12層より弥生土器細片56点、須恵器細片 3 点、土師質土器細片 7 点と遺構が検出する。遺構SK13については本調査の項で扱う。

出土遺物は、小坏（93）が図示できた。その他、弥生土器細片81点、須恵器細片 7 点、土師質土器細片 9 点、近世陶磁器細片 8 点が出土している。

⑾　TR11（fig. 4）

調査対象地、中央西よりに設定をしたトレンチである。12層にTR 8 のピットと同じ埋土の遺構が検出する。10層より弥生土器細片11点が出土している。図示できる遺物はない。

⑿　TR12（fig. 4）

調査対象地、ほぼ中央に設定したトレンチである。TR11と同様に遺構がひとつ検出する。11・12層より弥生土器細片217点が出土し、図示できる遺物はない。

3．本調査

(1)　調査区の概要と基本層準

①調査区の概要

本調査対象地は半楕円形を呈し、東西約65m、南北約27m、面積1260㎡を測る。北部は隣接する畑に接し、南部は一段高い畑がありコンクリート壁で隔てられている。東側は水路を挟んで道路に接し、その東側には民家が建ち並ぶ。西側は上岡山の裾野部が境となっている。

調査区内には、任意の杭（A-1）を設定し、北から南に４m毎、東西に４m毎に杭を設定した。その中で先にも述べたとおり、排土を置く場所がなかったため、調査対象地をⅠ～Ⅳ区に分割して調査を行ったが本項では一括して扱う。

②基本層

東壁（fig. 13）

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土（１～10cm大の礫を少量含む）
10層：淡橙色シルト質土
11層：灰黄色シルト質土
12層：灰色砂（１～５cm大の礫が混じる）
13層：濃橙色シルト質土
14層：灰褐色砂
15層：灰茶褐色砂質土

a層：濃橙色シルト質土
b層：濃橙色シルト質土
c層：濃黒色シルト質土

北壁 b-b'（fig. 13）

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土

10層：淡橙色シルト質土
11層：灰黄色シルト質土
12層：濃橙色シルト質土
13層：濃茶黒褐色粘質土
14層：灰黄色シルト質土

北壁c-c'（fig. 13）

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土（1～5㎝大の礫を少量含む）
10層：淡橙色シルト質土（赤土が混じる）
11層：灰黄色シルト質土
12層：濃橙色シルト質土
13-1層：濃茶黒褐色粘質土
13-2層：濃茶褐色シルト質土
14層：灰黄色シルト質土

北壁d-d'（fig. 13）

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土（小礫が混じる）
10層：橙色シルト質土
11層：灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
12層：灰黄色シルト質土
13-1層：濃茶褐色シルト質土～粘質土
13-2層：濃黒褐色粘質土
14層：灰黄色シルト質土

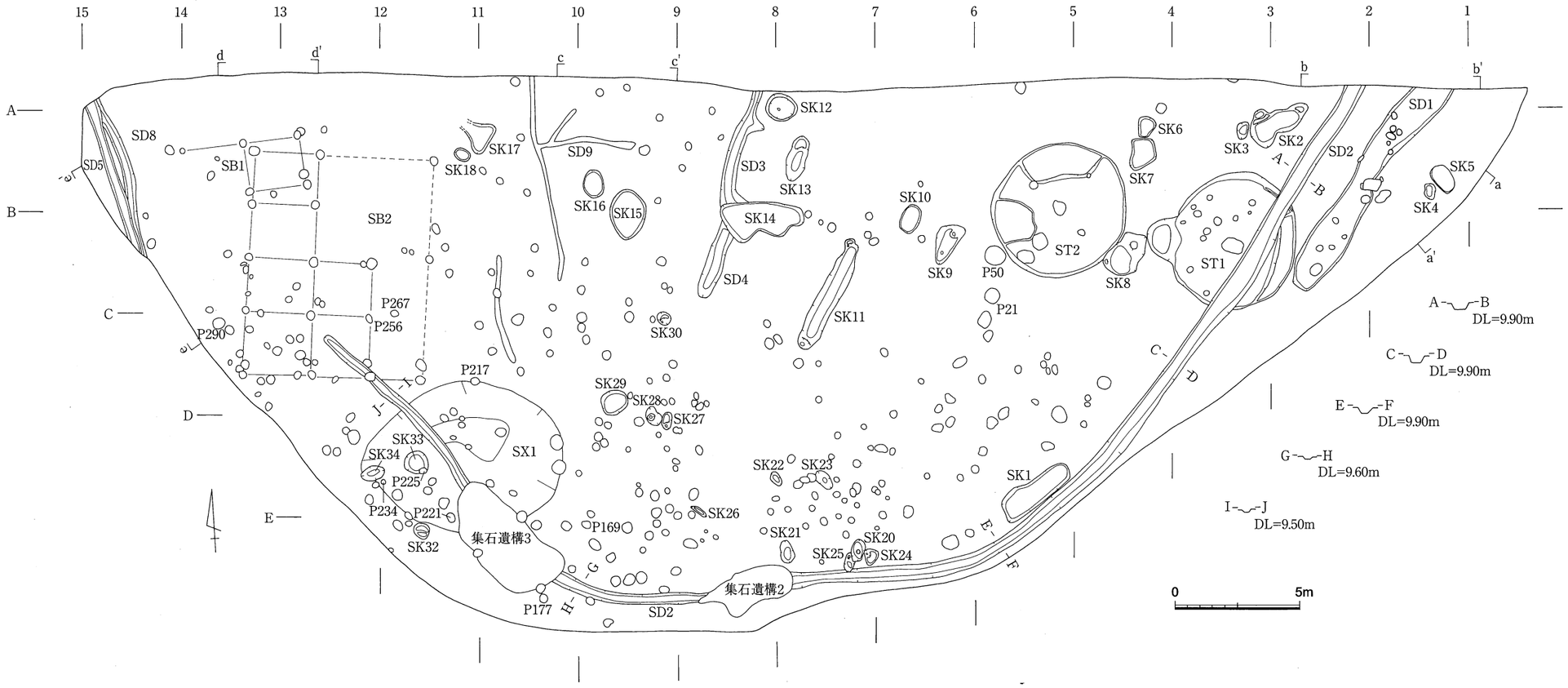
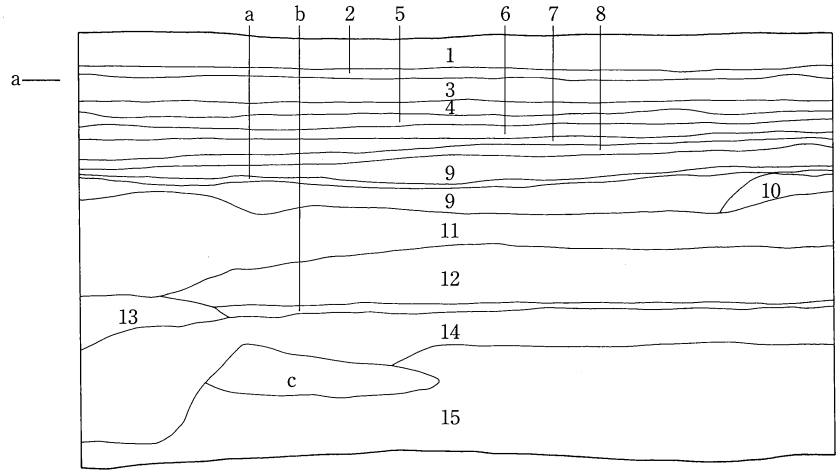


Fig.12　遺構全体図（S：1/200）

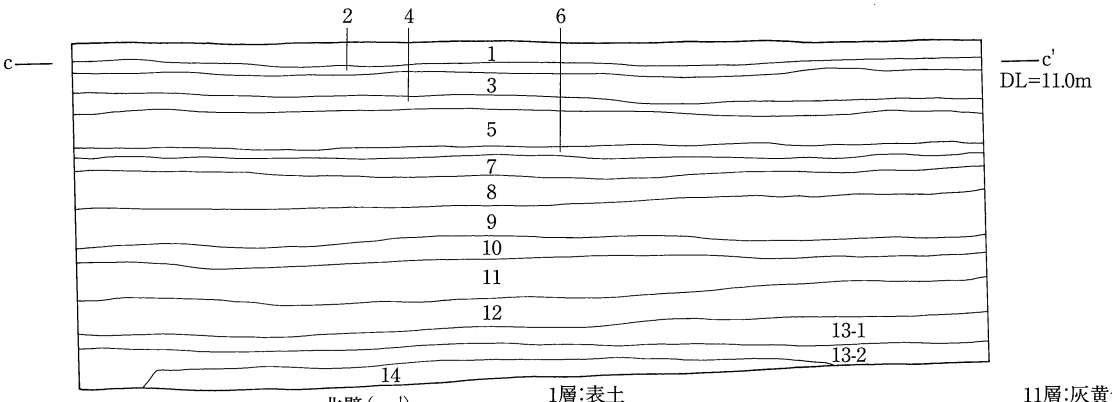
Ⅳ区西壁（fig. 14）

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土
10層：濃橙色シルト質土
11層：灰色質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
12-1層：濃黒褐色シルト質土
12-2層：濃灰茶褐色シルト質土
13-1層：灰黄色シルト質土
13-2層：灰黄色シルト質土～砂質土
13-3層：灰黄色シルト質土（茶褐色シルト質土～砂質土が混じる）
a層：撹乱
b層：黄灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
c層：灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
d層：灰色シルト質土



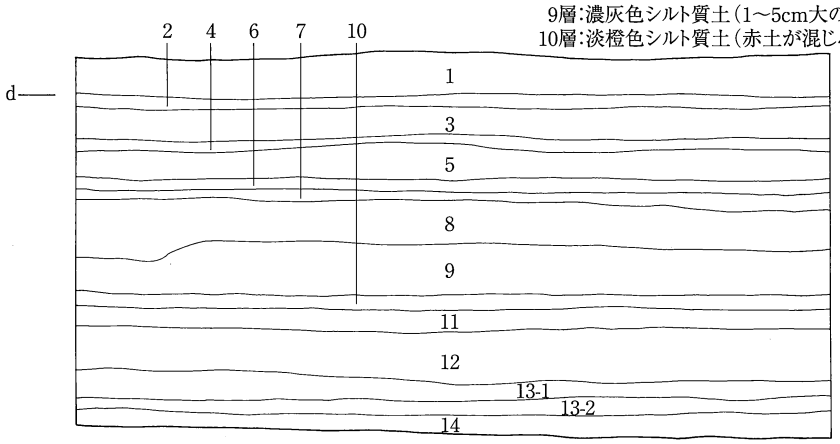
東壁

1層:表土
2層:明黄褐色シルト質土
3層:淡灰色シルト質土(黄褐色シルト質土が混じる)
4層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
5層:灰茶褐色シルト質土
6層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
7層:淡灰色粘質土
8層:黄茶褐色シルト質土
9層:濃灰色シルト質土(1～10cm大の礫を少量含む)
10層:淡褐色シルト質土
11層:灰黄色シルト質土
12層:灰色砂(1～5cm大の礫が混じる)
13層:濃橙色シルト質土
14層:灰褐色砂
15層:灰茶褐色砂質土
a 層:濃橙色シルト質土
b 層:濃橙色シルト質土
c 層:濃黒色シルト質土



北壁(c-c')

1層:表土
2層:明黄褐色シルト質土
3層:淡灰色シルト質土(黄褐色シルト質土が混じる)
4層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
5層:灰茶褐色シルト質土
6層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
7層:淡灰色粘質土
8層:黄茶褐色シルト質土
9層:濃灰色シルト質土(1～5cm大の礫を少量含む)
10層:淡橙色シルト質土(赤土が混じる)
11層:灰黄色シルト質土
12層:濃橙色シルト質土
13-1層:濃茶黒褐色粘質土
13-2層:濃茶褐色シルト質土
14層:灰黄色シルト質土



北壁(d-d')

1層:表土
2層:明黄褐色シルト質土
3層:淡灰色シルト質土(黄褐色シルト質土が混じる)
4層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
5層:灰茶褐色シルト質土
6層:灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
7層:淡灰色粘質土
8層:黄茶褐色シルト質土
9層:濃灰色シルト質土(小礫が混じる)
10層:橙色シルト質土
11層:灰色シルト質土(茶褐色シルト質土がブロック状に混じる)
12層:灰黄色シルト質土
13-1層:濃茶褐色シルト質土～粘質土
13-2層:濃黒褐色粘質土
14層:灰黄色シルト質土

0 1m

Fig.13　東壁，北壁（c-c'），北壁（d-d'）セクション

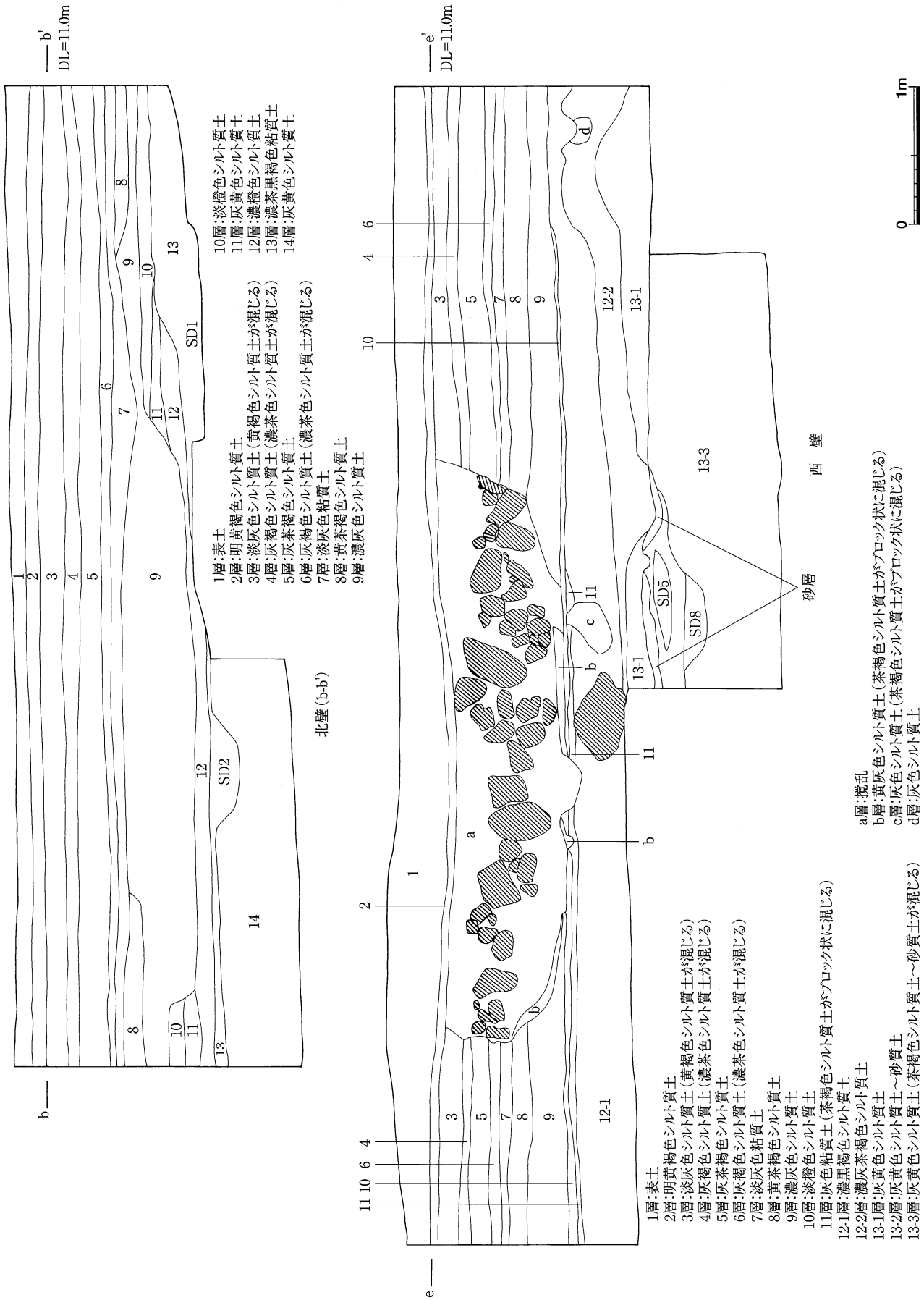


Fig.14　北壁（b-b'），西壁セクション

(2) 弥生時代の検出遺構と遺物

①竪穴住居

ST１（fig.15・16）

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸5.40m、短軸5.00m、深さ約40cm、面積約23.7㎡を測る。東側はSD２に切られている。壁は僅かに斜めに立ち上がり、北東壁には幅10～15cm、深さ4.5～７cm前後の壁溝が認められる。埋土は１層：灰黄色シルト質土、２層：灰茶褐色シルト質土、３層：濃茶褐色シルト質土、４層：砂層、５層：灰茶褐色シルト質土（炭化物を含む）、６層：灰黄橙色シルト質土～砂質土、７層：灰黄色シルト質土である。北東部に炭化物の混じった広がりが見られる。

北西部に長軸1.70m、短軸1.40mの落ち込みがあるが、住居との関係は不明である。床面からは14個のピットが確認できた。中央ピット（P2-2）は隅丸長方形を呈し、長軸0.78m、短軸0.56m、深さ45cmを測る。北西部に１段の落ち込みがあり、側面がオーバーハングしている。10～20cm大の河原石が４つ置かれていたが、使用痕は確認できなかった。位置関係から主柱穴を求めればP1-1・3-2・4-4の３つを挙げることができる。柱穴間の長さは、P1-1・3-2間2.4m、P3-2・4-4間2.5mを測る。主柱は４本と想定できるが、精査したにもかかわらず、南東の柱穴に該当するものは検出できなかった。

住居東側に盛土成形と考えられるベッド状遺構を有する。高床部の幅は20～85cmで、南に行くほど狭くなっていく。底床部との比高差は20cm前後を測る。図示した遺物は弥生土器壷（101・109）、甕（100・107・108）、高坏（104～106）、P2-2より高坏脚部（102・103）、叩石（110）である。109は黒斑がある。弥生土器細片がP1-3から４点、P2-2から３点、P2-4から５点、P2-5から５点、P4-4から10点出土しており、タタキが施されるものも認められる。この他、弥生前期末の土器も混入しているが、ST１は弥生時代後期中葉に属するものと考えられる。

表２　ST１ピット計測表

ピットNo.	平面規模（cm）	深さ（cm）	平面形態
P1-1	径　22	28	円　　形
P1-2	径　12	21	円　　形
P1-3	22×26	22	楕　円　形
P2-4	22×18	23	楕　円　形
P2-5	径　20	20	円　　形
P3-1	径　22	16	円　　形
P3-2	径　18	18	円　　形
P3-3	径　28	11	円　　形
P3-4	26×36	16	楕　円　形
P4-1	20×12	7	楕　円　形
P4-2	24×28	10	不整楕円形
P4-3	22×24	12	楕　円　形
P4-4	径　24	35	円　　形

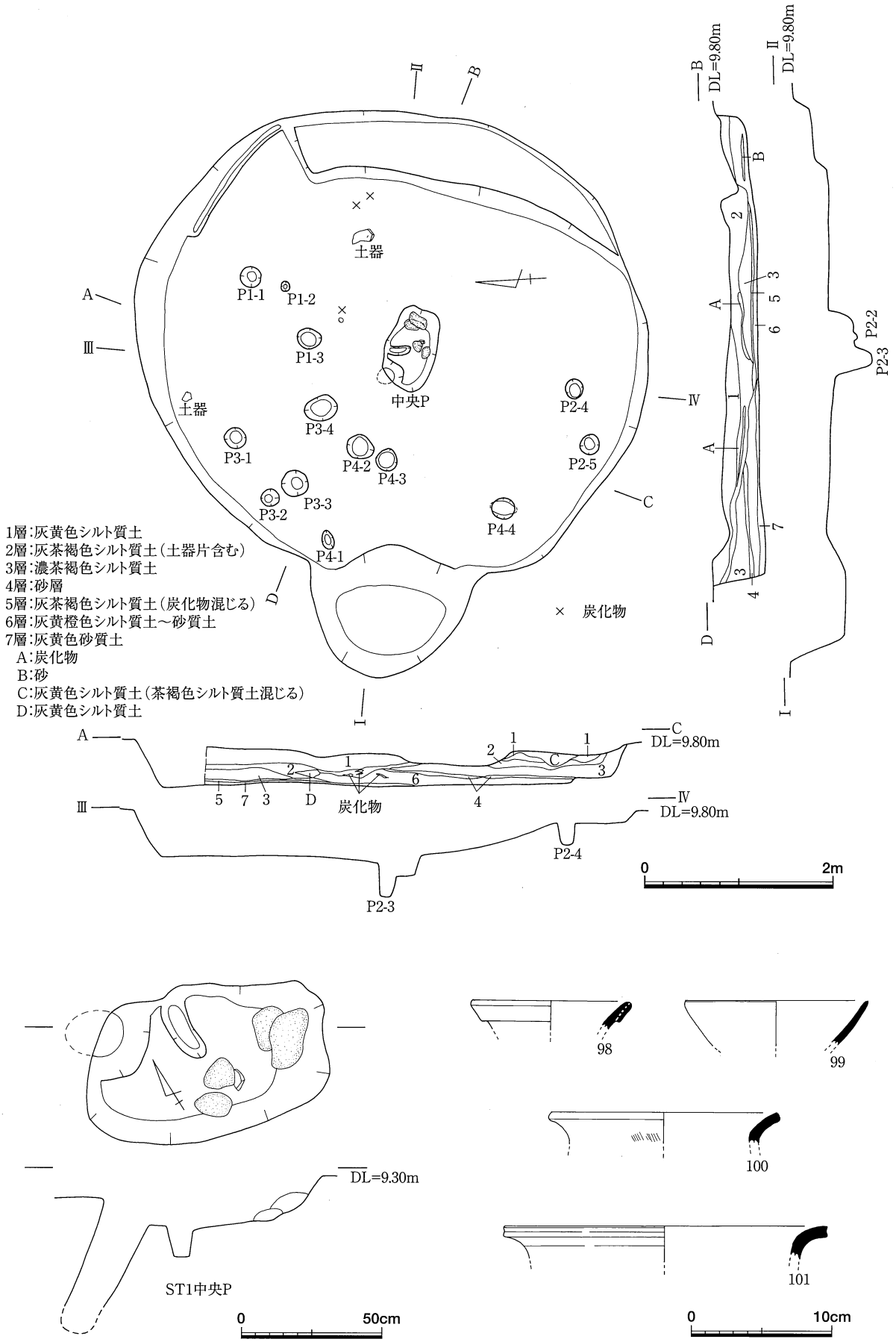


Fig.15　ST 1 平面・セクション及び出土遺物

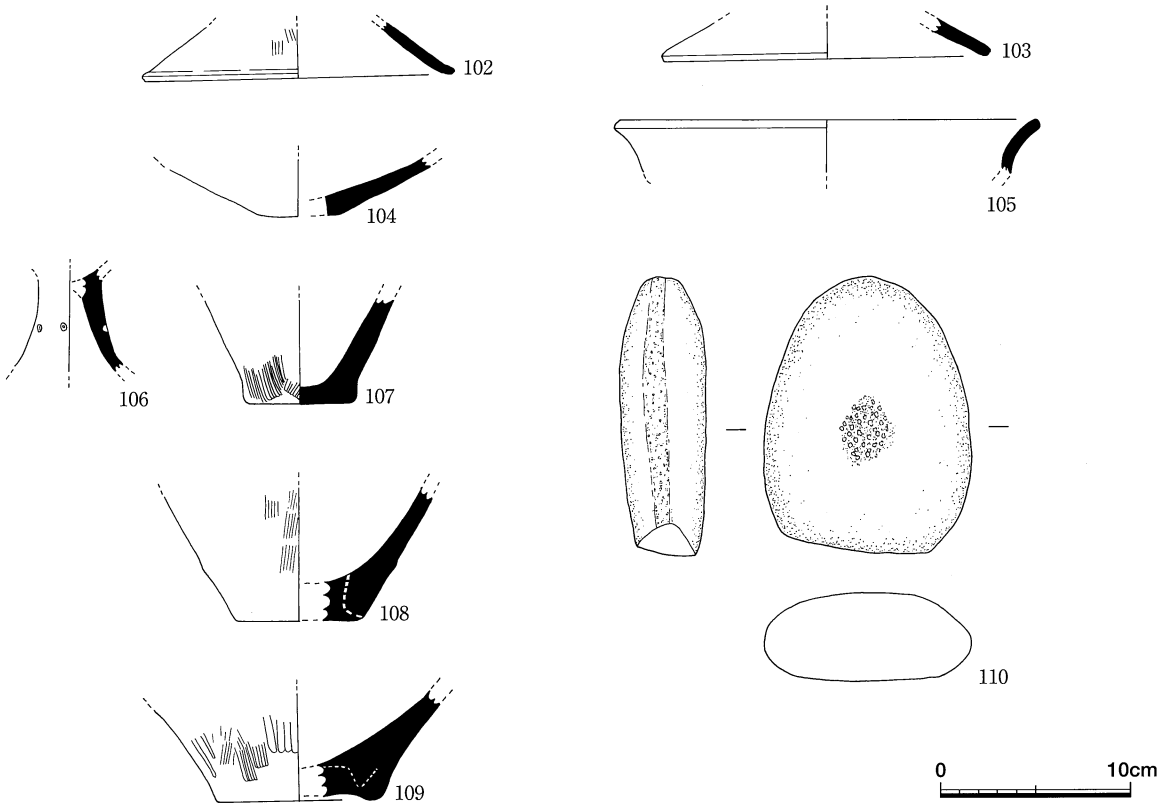


Fig.16　ST 1 出土遺物

ST2（fig.17・18）

調査区西部ST１の西側に位置する。平面形は円形を呈し、長軸5.40m、短軸5.30m、深さ約47cm、面積約21.2㎡を測る。埋土は１層：灰茶色粘質土、２層：灰茶色粘質土（１層）に黄色シルト質土がブロック状に混じる、３層：黄色シルト質土、４層：黄灰色土、５層：カーボンの混入した粘土層である。

床面からは６個のピットが確認できた。中央ピットは不整楕円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.50m、深さ12cmを測り、北西隅に１段の落ち込みがある。主柱穴はP53・54・56・57で、柱穴間の長さは、P53・54間2.3m、P53・56間2.3m、P56・57間1.8m、P54・57間2.3mを測る。南西隅のP58は長軸0.70m、短軸0.50m、深さ32cmを測り、土坑状を呈する。

住居北側と西側に盛土成形と考えられるベット状遺構を有する。前者は高床部の幅1.2mを測り、底床部との比高差は５cm前後を測る。後者は高床部の幅1.1m-1.7mを測り、底床部との比高差は14cm前後を測る。

出土遺物は、弥生土器壷（116）、甕（112・114・115）、鉢（113）、高坏（117～119）、石包丁（120・121）である。壷（111）が北側・西側ベット間の床面より出土する。111は被熱している。112は被熱赤変している。115は被熱しており、底部に黒斑がある。

ST２はST１とほぼ同時期であり、弥生後期中葉に属すると考えられる。

表３　ST２ピット計測表

ピットNo.	平面規模（cm）	深さ（cm）	平面形態
P53	14×16	20	不整楕円形
P54	36×30	15	楕円形
P56	22×30	11	楕円形
P57	62×68	44	楕円形
P58	52×70	33	長楕円形

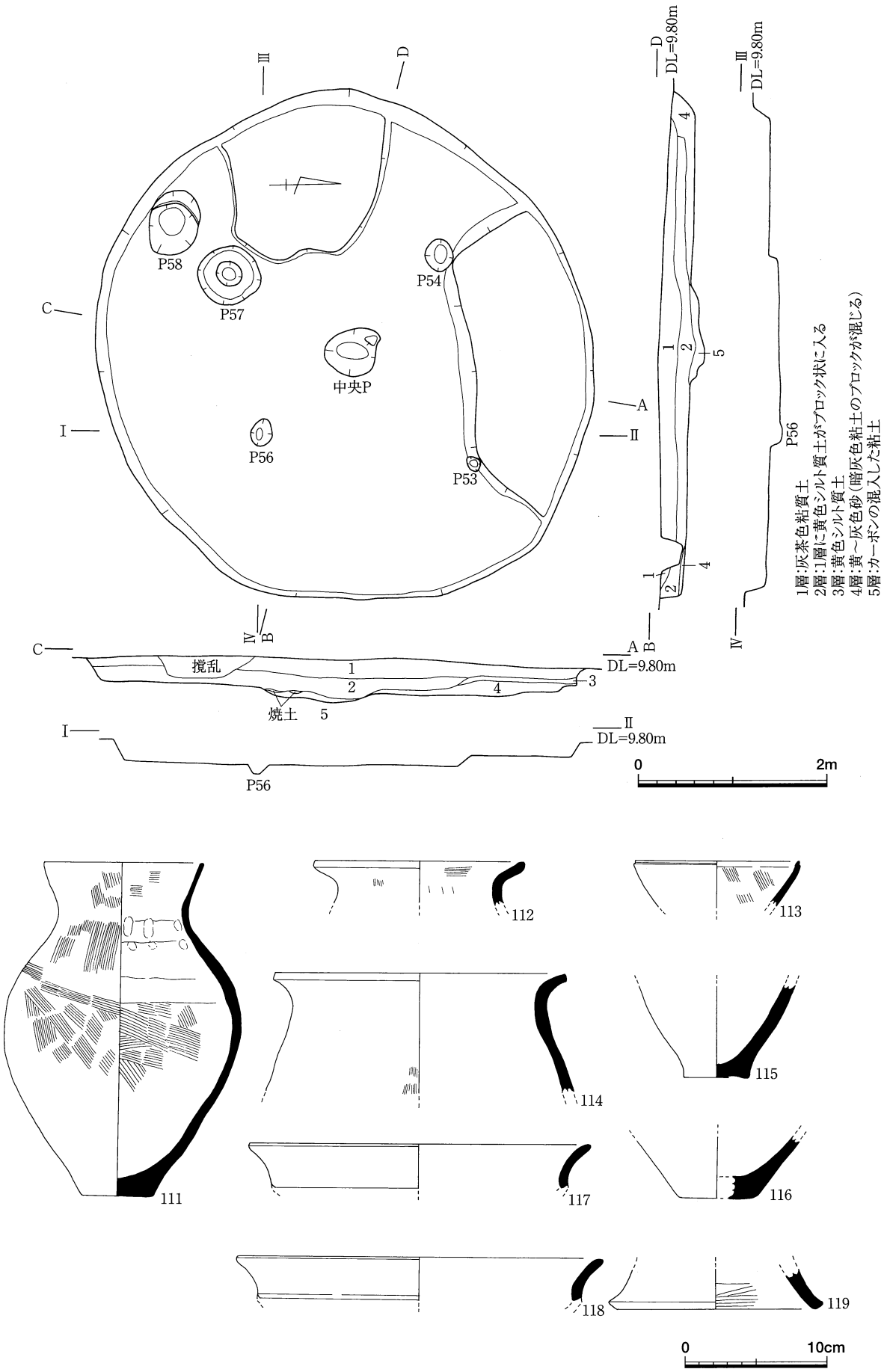


Fig.17　ST 2 平面・セクション及び出土遺物

②土坑

SK3（fig.19）

調査区東部ST１の北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.45m、深さ約15cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片14点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物はない。

SK11（fig.19）

調査区中央部に位置する。平面形は長丸形で溝状を呈し、長軸4.60m、短軸0.84m、深さ約58cmを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は１層：濃茶褐色粘質土、２層：１層に黄褐色粘質土が混じる、３層：濃灰茶色シルト質土（弥生土器混じる）、４層：３層に黄褐色シルト質土が混じる、５層：灰黒色シルト質土である。

出土遺物は弥生土器壷底部（123・124）、鉢（122）が図示できた。その他、弥生土器細片48点が出土しており、弥生後期に属する。

SK12（fig.20）

調査区中央部北端に位置する。試掘トレンチ９で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.10m、深さ約42cmを測る。断面形はすり鉢状に落ち込み舟底状である。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器壷（125・126・129）、甕（127・130）、高坏（131）が図示できた。その他、弥生土器細片26点が出土しており、弥生後期前半に属する。

SK13（fig.20）

調査区中央部SK12の南側に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.10m、深さ約41cmを測る。断面形は舟底状で北側に１段の段を呈している。埋土は１層：濃茶褐色粘質土（13層と類似、土器片含む）、２層：明橙色粘質土（１層がブロック状に混じる）、３層：灰黒色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）である。

出土遺物は弥生土器甕（128）が図示できた。その他、弥生土器細片15点が出土しており、弥生後期後半に属する。

SK15（fig.21）

調査区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸2.02m、短軸1.40m、深さ約９cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片２点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

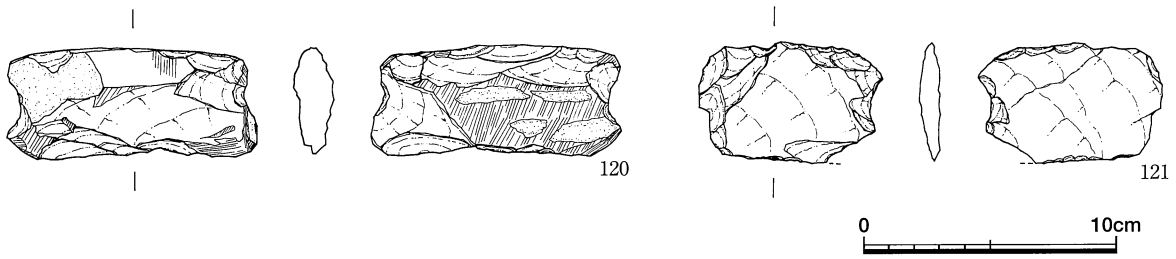


Fig.18　ST 2 出土遺物

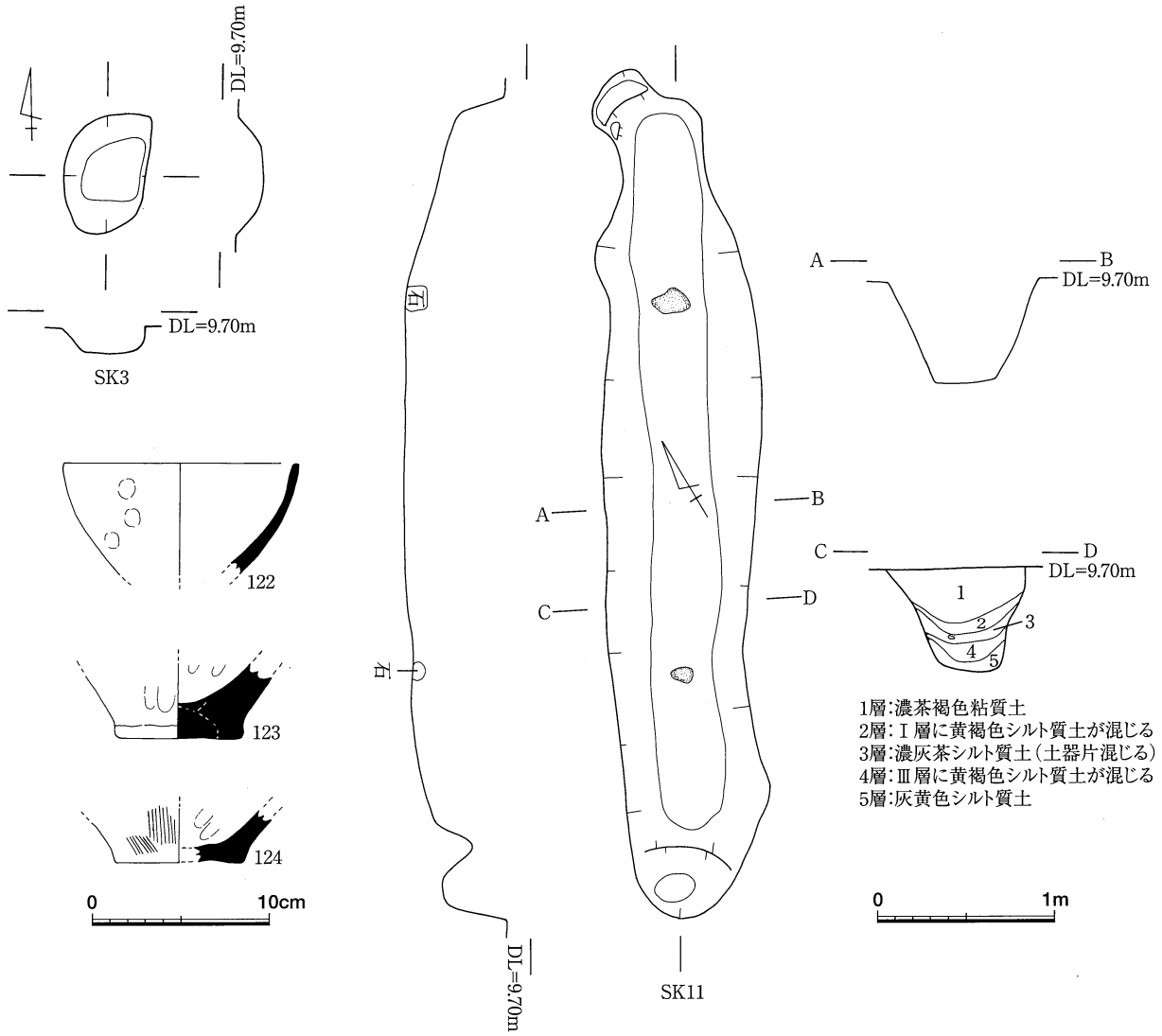


Fig.19　SK 3，11平面・セクション及びSK11出土遺物

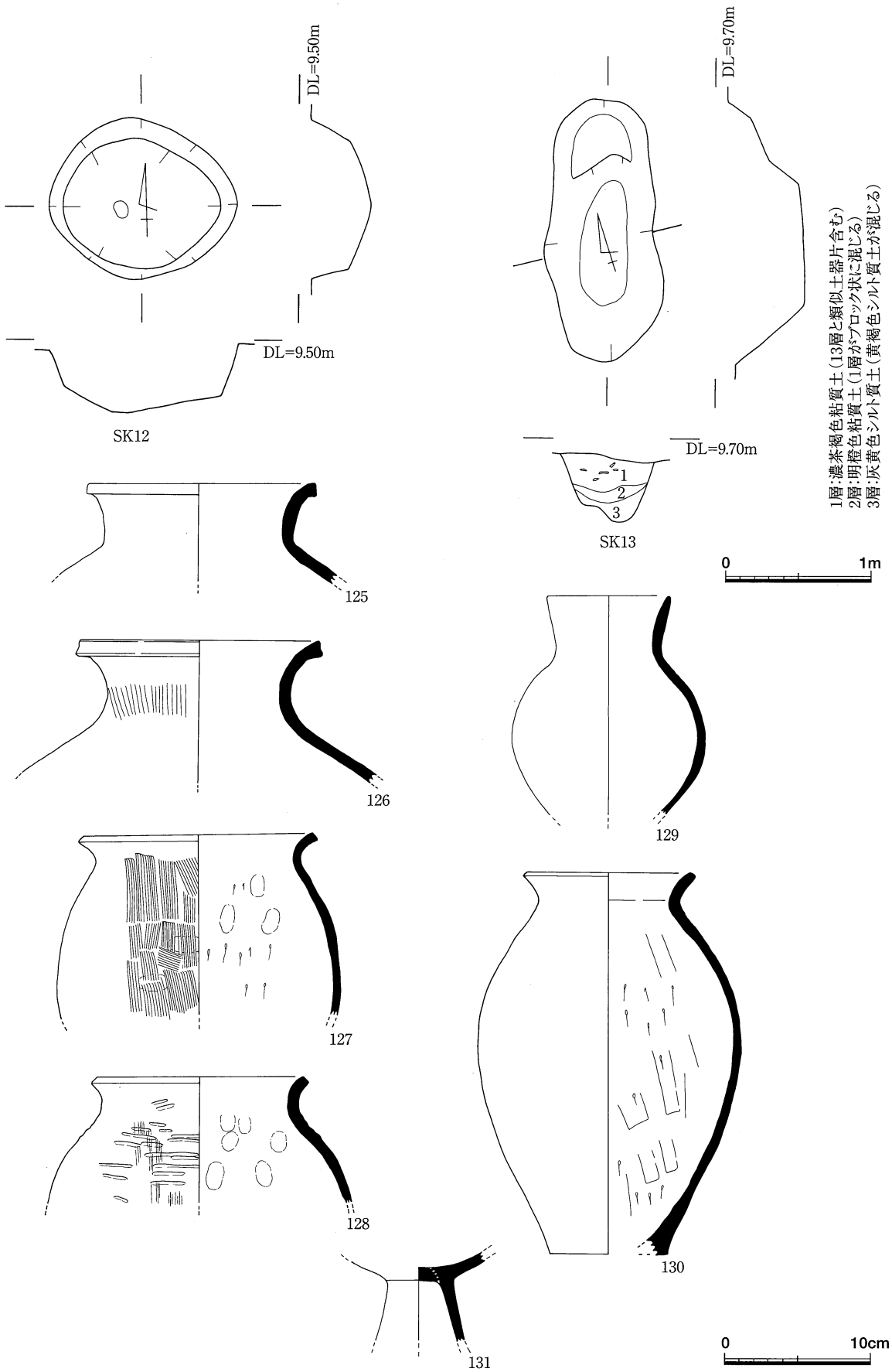


Fig.20　SK12，13平面・セクション及びSK12出土遺物

SK16（fig. 21）

調査区中央部SK15の西隣に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.82m、深さ約12cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片７点が出土みられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK18（fig. 21）

調査区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.64m、短軸0.48m、深さ約13cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片２点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK20（fig. 21）

調査区南端中央部に位置する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.87m、短軸0.52m、深さ約57cmを測る。中央部に一段のピット状の落ち込みが認められる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片23点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK21（fig. 21）

調査区南端中央部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.86m、短軸0.56m、深さ約28cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北側壁はなだらかに立ち上がり、南側壁はほぼ直線的立ち上がる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は甕底部（132）が図示できた。その他、弥生土器細片４点が出土しており、弥生前期に属する。

SK22（fig. 21）

調査区南部に位置する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.57m、短軸0.34m、深さ約16cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片４点が出土しており、図示できる遺物はない。弥生後期に属する。

SK26（fig. 21）

調査区南部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.21m、深さ約11cmを測る。平面形は逆台形状を呈し、床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片４点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK27（fig. 21）

調査区中央部に位置し、SK28に隣接する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.70m、短軸0.34m、深さ約33cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片７点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK28（fig. 21）

SK27の西側に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.59m、深さ約32cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。出土遺物はない。

SK30（fig. 22）

調査区中央部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.52m、短軸0.50m、深さ約18cmを測る。断面は舟底状を呈し、北側に段がみとめられる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片２点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物ない。

SK32（fig. 22）

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.60m、深さ約25cmを測る。断面は逆台形を呈し、南側に段がみとめられる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片５点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物はない。

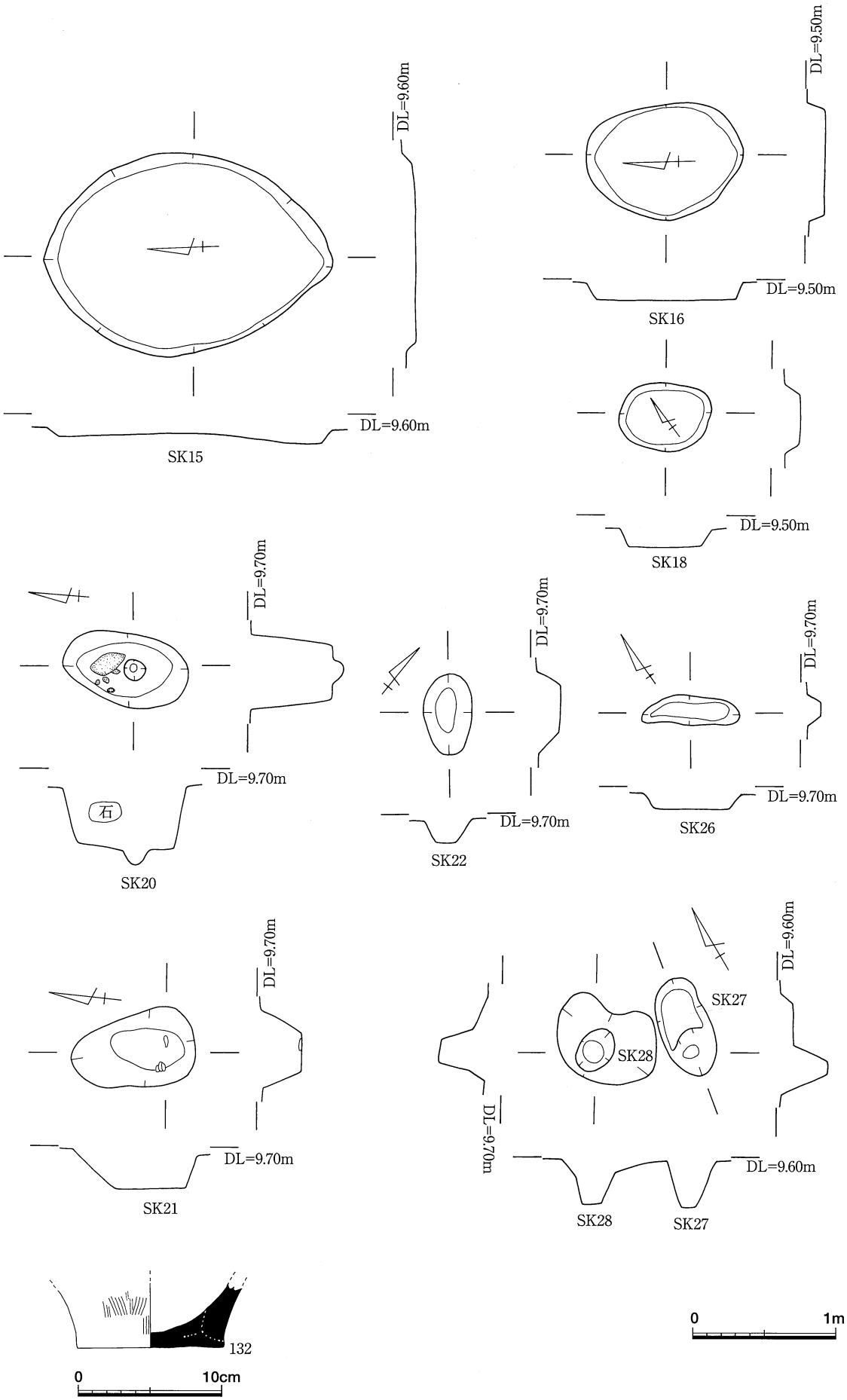


Fig.21　SK15，16，18，20～22，26，28平面・エレベーション及びSK21出土遺物

③溝

SD１（fig.22）

調査区東側に位置し、南西向けに延びる溝である。溝北側は調査区外に延びており全体の規模は不明である。南西側は撹乱による削平を受けている。確認延長9.05m、幅約1.03m、深さは約15cmを測る。小ピットが数個存在しているが、SD１との関係は不明である。

出土遺物は壷底部（135）、甕（134）、ミニチュア土器（133）が図示できた。その他、弥生土器細片19点が出土している。

SD２（fig.12・23）

SD１の西側に位置する。調査地の形状に沿うような形で半円を描くように延びている。溝の北東部は調査区外に延びる。確認延長約55.00m、幅約0.40m、深さ12～30cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、弥生土器壷（136～140・150～154・156）壷底部（143・147・149・160～162）、甕（141・142・155・157）、甕底部（144～146・148・158・159）が図示できた。148は外面が煤け、被熱赤変している。その他、弥生土器細片1697点、須恵器細片２点、石製品４点、近世陶磁器２点が出土している。

SD５（fig.24）

調査区西端に位置する。南北に延びる直線的な溝である。北側、南側ともに調査区外へ延びており、SD８を切っている。確認延長5.80m、幅約0.40m、深さ８cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は弥生土器甕（164）が図示できた。その他、弥生前期末の土器細片を含む59点、石製品１点が出土している。

SD８（fig.24）

調査区西端に位置する。南北に延びる曲線的な溝で、北側、南側とも調査区外へ延びている。確認延長6.00m、幅約0.45m、深さ12cmを測る。断面形は逆台形である。埋土は濃黒褐色粘質土であり、出土遺物はない。

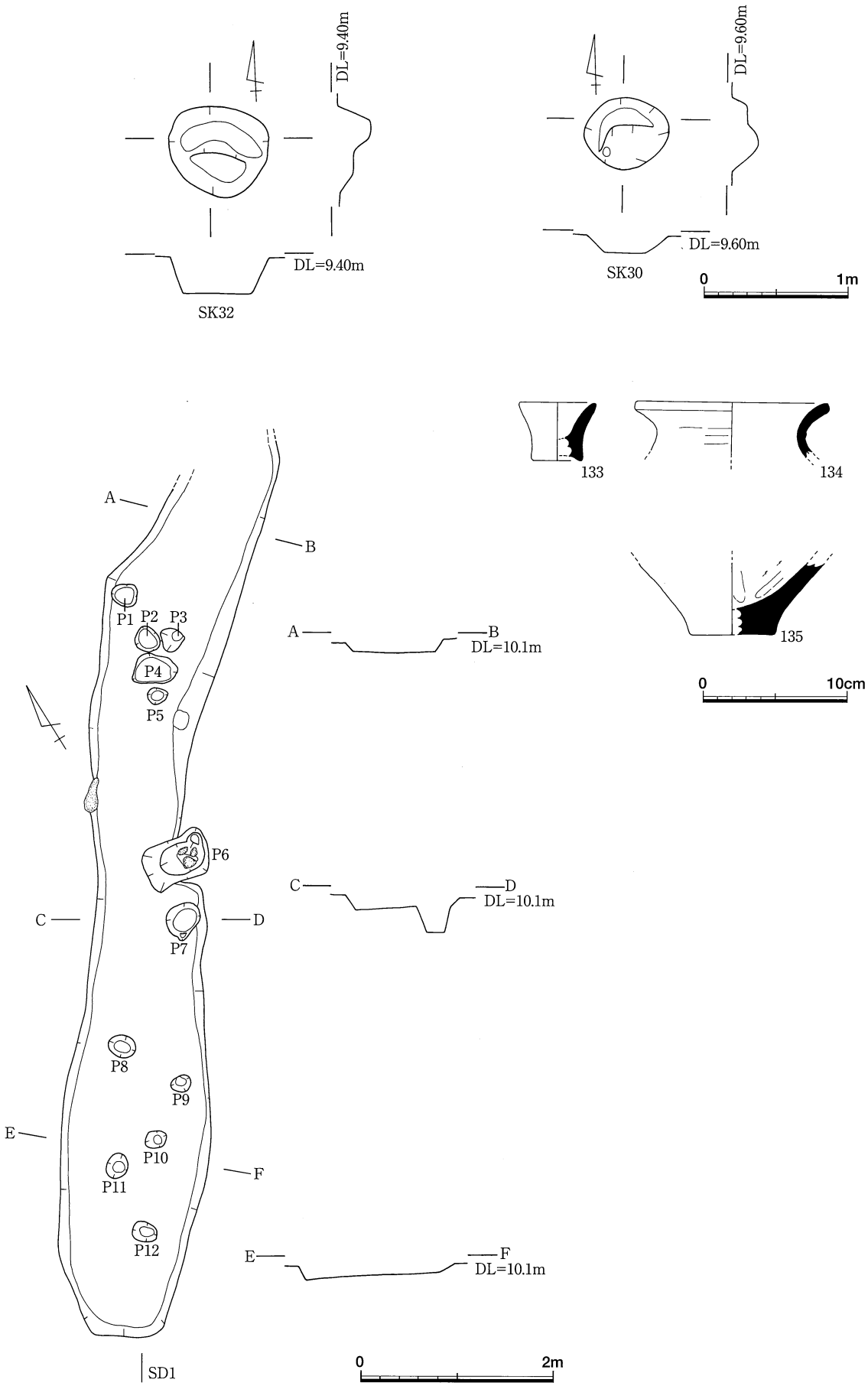


Fig.22　SK30，32，SD 1 平面・エレベーション及びSD 1 出土遺物

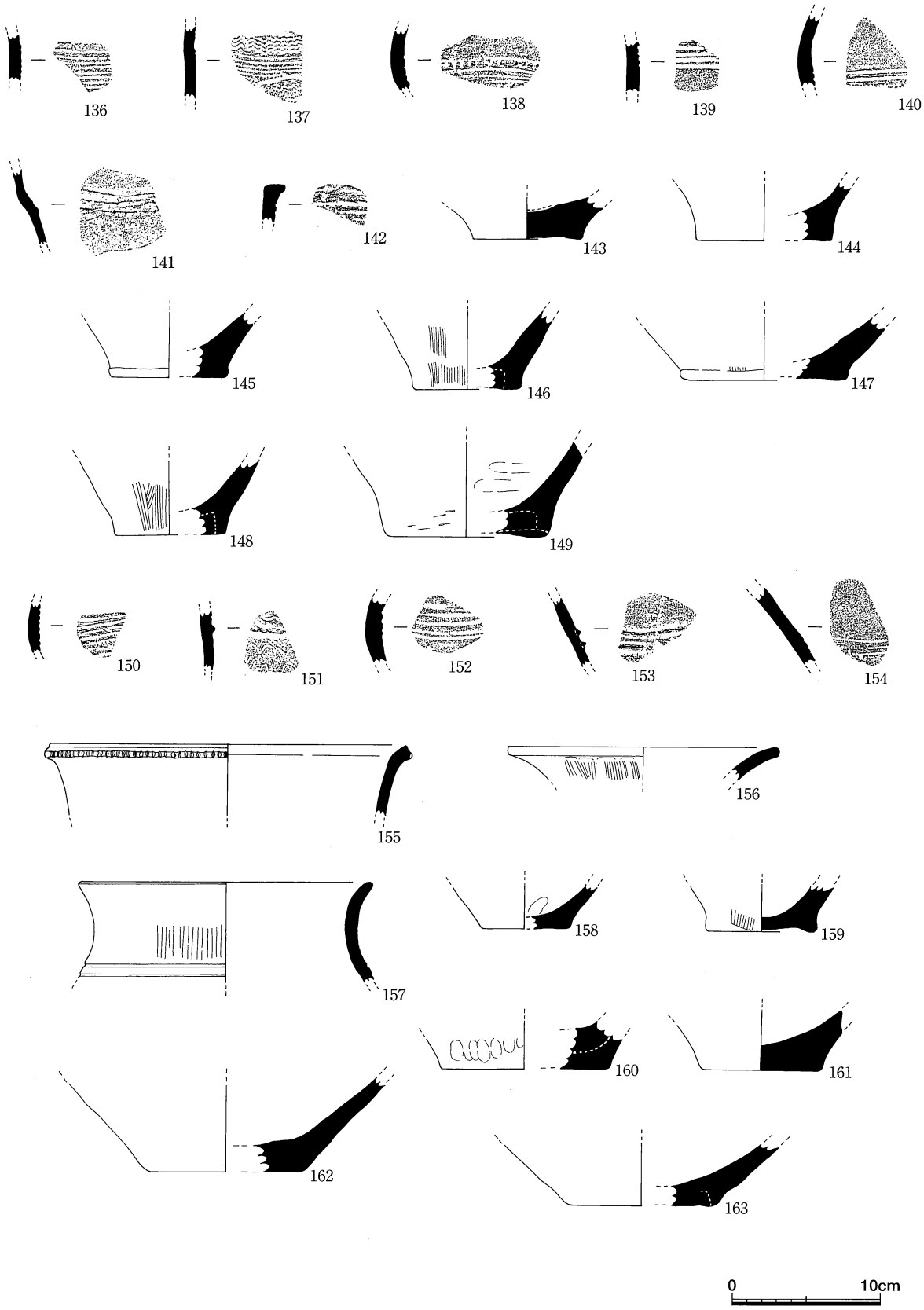


Fig.23　SD 2 出土遺物

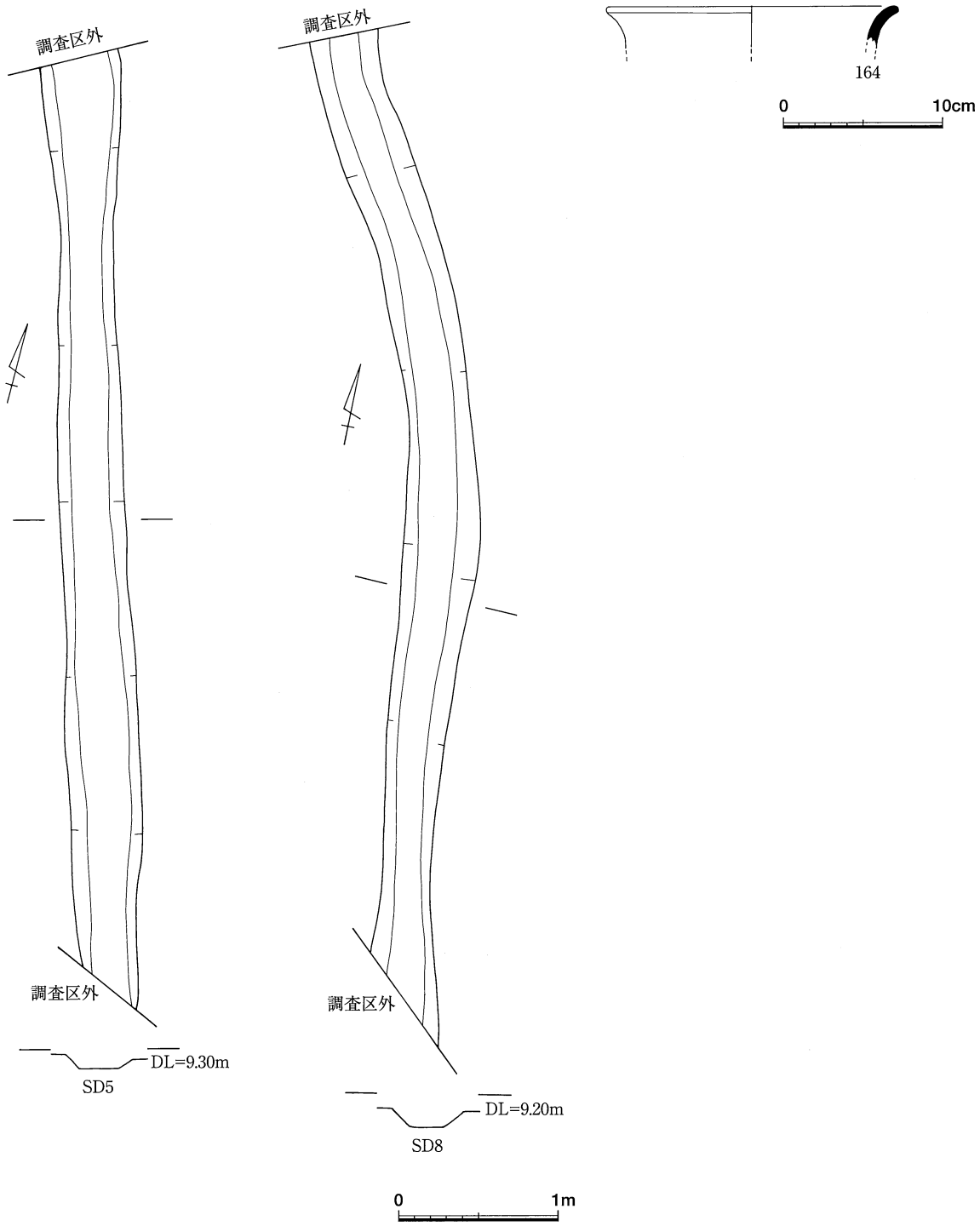


Fig.24　SD 5，8 平面・エレベーション及びSD 5 出土遺物

④性格不明遺構

SX 1 (fig. 25・26・27)

調査区南西側に位置する。平面形は卵形を呈し、中央に向けてなだらかに落ち込んでいる。長軸8.00m、短軸5.82m、深さ約40～52cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、弥生土器壷（165～170・172～174)、壷底部（194・196・199～201)、甕（171・175～189)、甕底部（191～193・195・197・198)、高坏脚部（190)、石包丁（202)、叩石（203）が図示できた。180・183・185は外面が煤けている。186は内外面が煤けている。195は外面が被熱赤変している。197は内外面が煤けている。201は内外面が僅かに煤けている。その他、弥生土器細片1580点、石製品４点が出土している。

⑤ピット

P21 (fig. 28)

調査区東部ST２の南西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.59m、短軸0.58m、深さ約６cmを測る。断面形は逆台形状を呈するが遺構本来の肩は削平されていると思われる。埋土は濃黒褐色粘質土である。壷棺（204）が置かれてあった。弥生後期中葉後半と考えられる。

P50 (fig. 29)

調査区東部ST２の南西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.85m、短軸0.70m、深さ約19cmを測る。断面は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。壷（206）が置かれてあり、高坏坏身（205）を蓋にして壷の口にかぶせてあった。その他、弥生土器細片61点、土師質土器細片12点が出土している。

P169 (fig. 12・30)

調査区中央南端に位置する。長軸0.50m、短軸0.36m、深さ約８cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺底部（219）が図示できた。その他、弥生土器細片４点が出土している。

P177 (fig. 12・30)

調査区中央南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.40m、短軸0.33m、深さ約10cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、甕（214）が図示できた。外面に黒斑がある。その他、弥生土器細片３点が出土している。

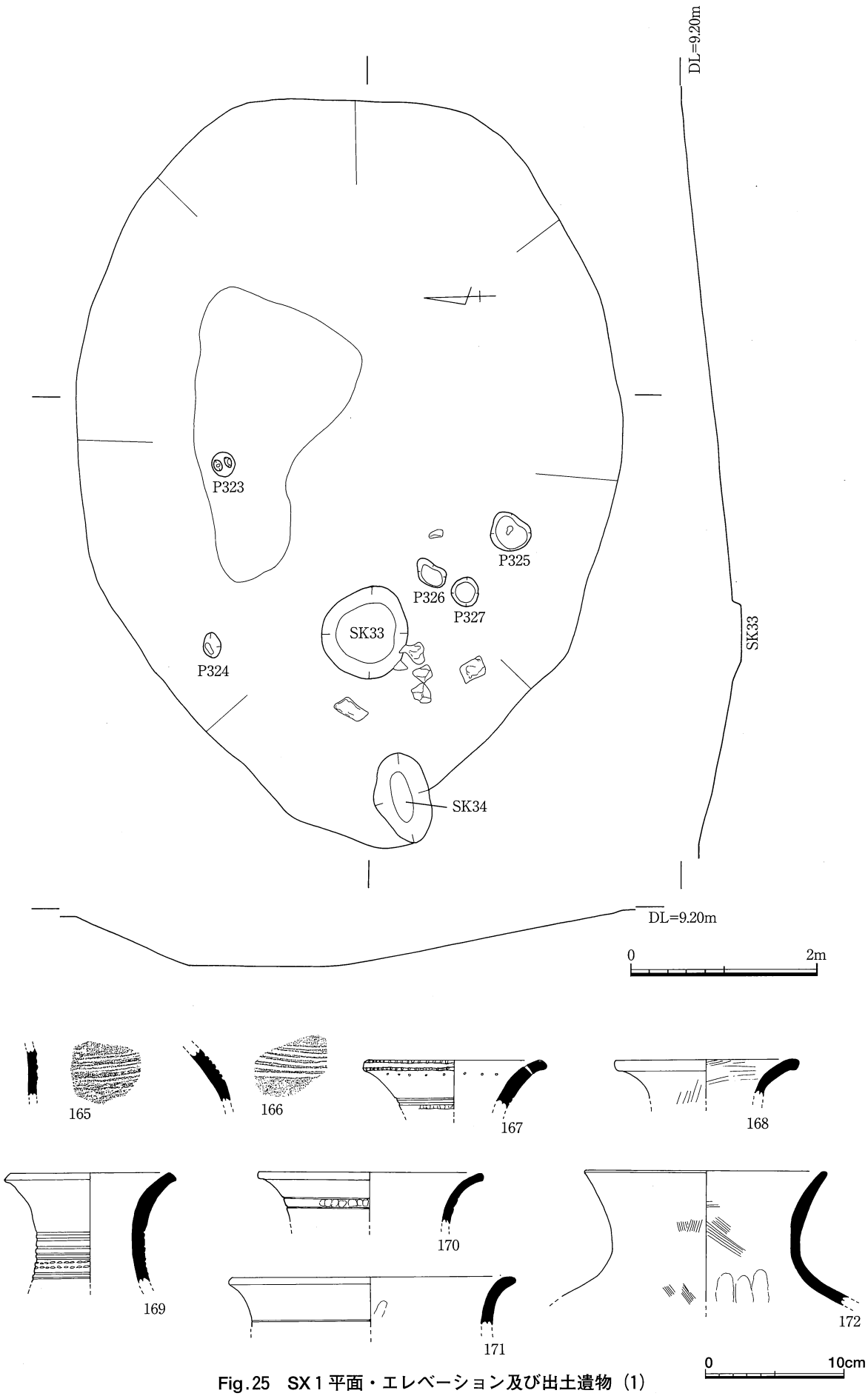


Fig.25　SX 1 平面・エレベーション及び出土遺物（1）

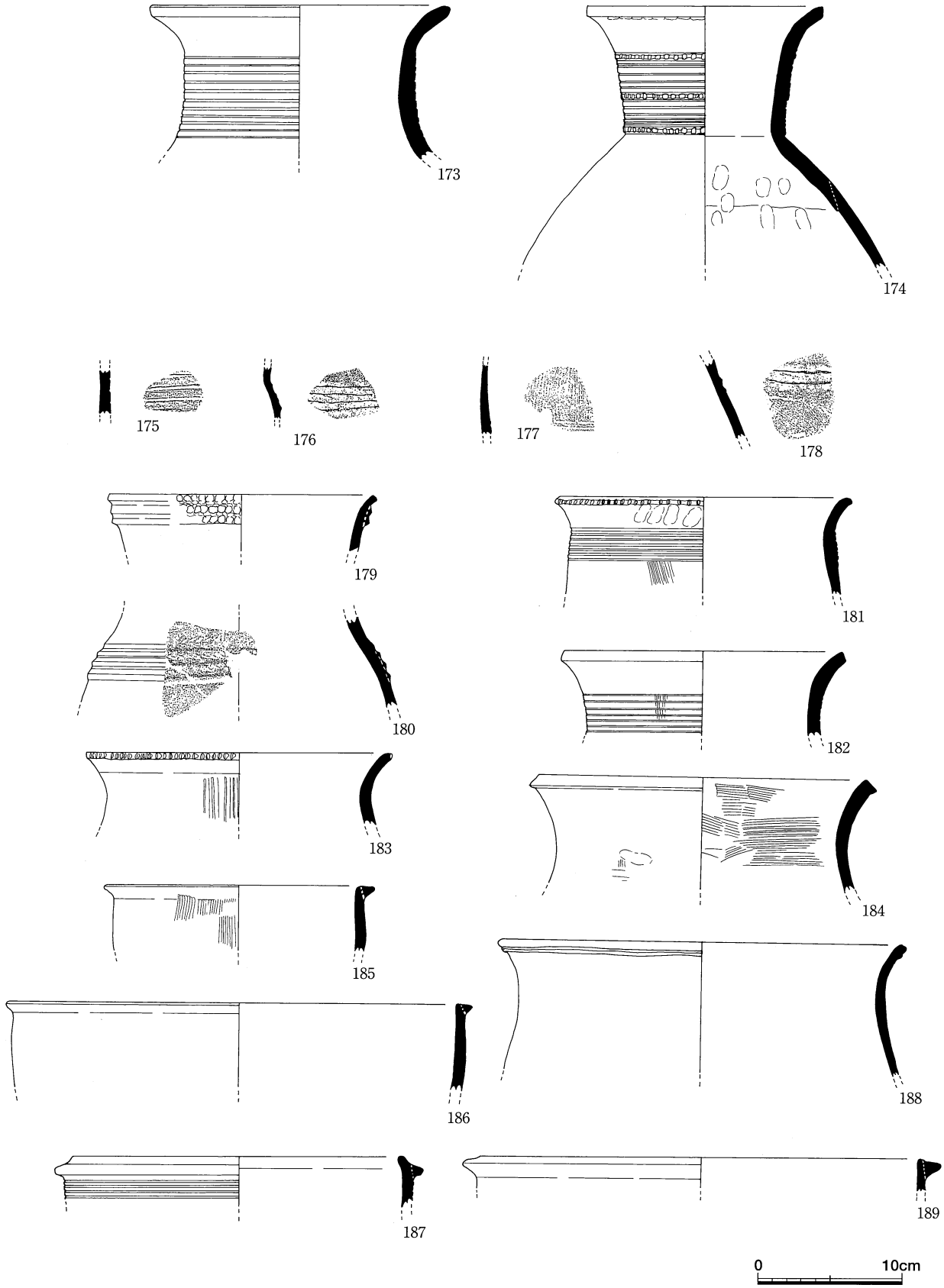


Fig.26　SX 1 出土遺物（2）

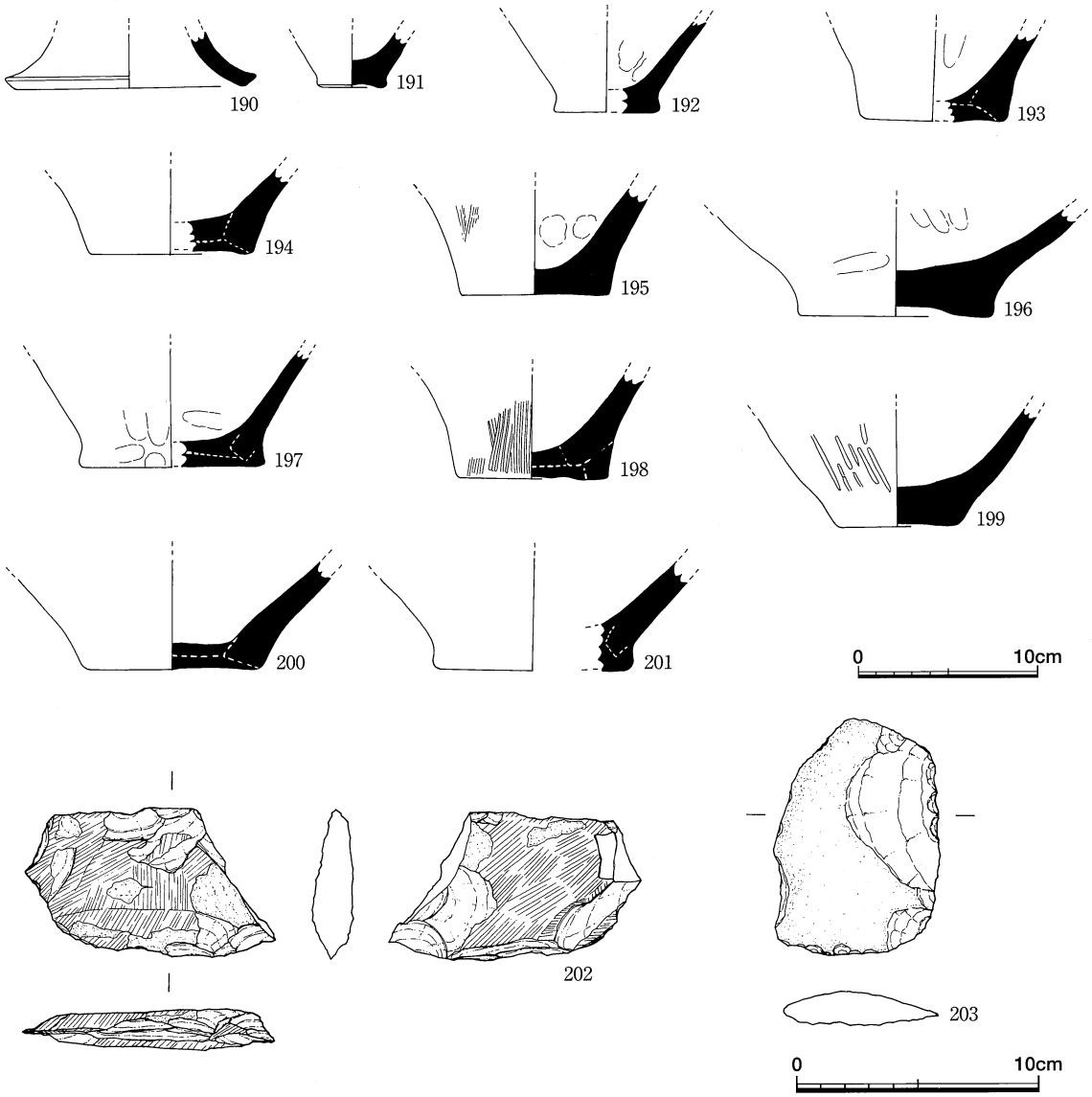


Fig.27　SX 1 出土遺物（3）

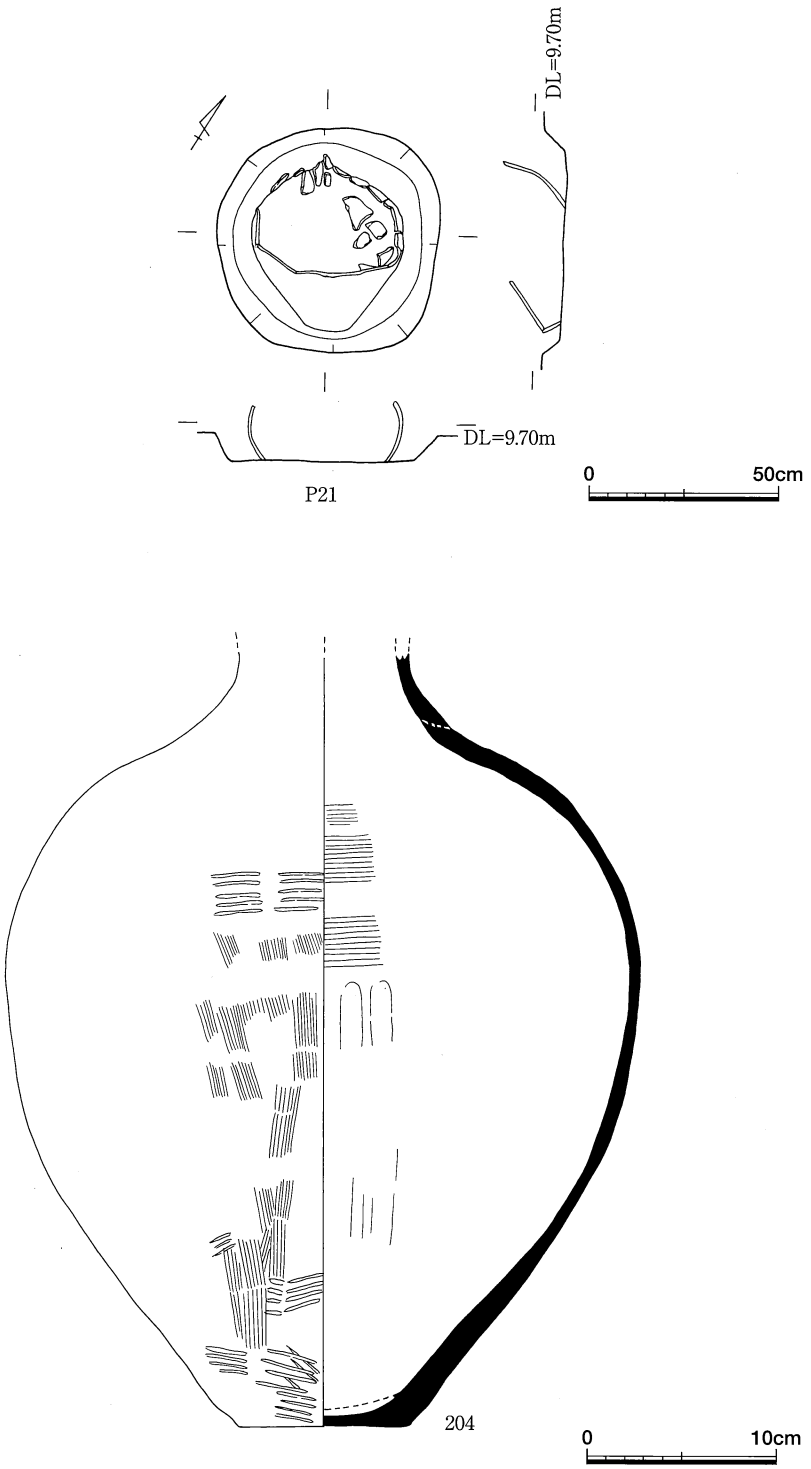


Fig.28　P21平面・エレベーション及び出土遺物

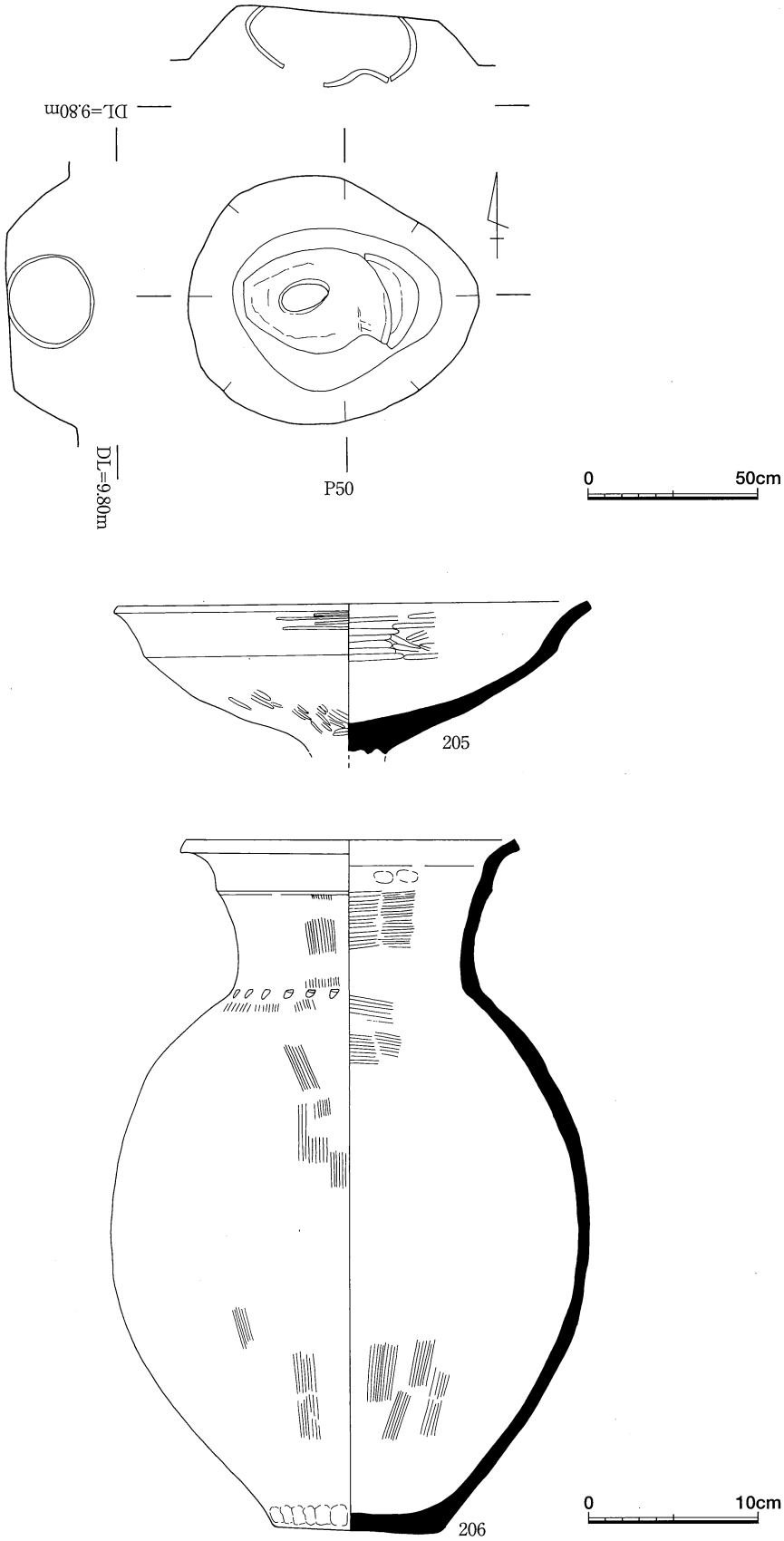


Fig.29　P50平面・エレベーション及び出土遺物

P217（fig.12・30）

調査区西部SX１の北端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.36m、短軸0.30m、深さ約12cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺（209）が図示できた。

P221（fig.12・30）

調査区西部SX１内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.42m、短軸0.36m、深さ約25cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺（207）、甕底部（216）が図示できた。216は外面が煤けている。その他、弥生土器細片13点が出土している。

P225（fig.12・30）

調査区西部SX１内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.48m、短軸0.45m、深さ約32cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺（212）、甕（210）が図示できた。その他、弥生土器細片14点が出土している。

P234（fig.12・30）

調査区西部SX１内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.24m、短軸0.19m、深さ約17cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺（208・211・213）、甕（215）が図示できた。その他、弥生土器細片149点が出土している。

P267（fig.12・30）

調査区西部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.28m、短軸0.26m、深さ約12cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、甕底部（217）が図示できた。外面が被熱赤変している。その他、弥生土器細片１点が出土している。

P290（fig.12・30）

調査区西部端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.49m、短軸0.42m、深さ約19cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺底部（218）が図示できた。外面が被熱赤変している。その他、弥生土器細片４点が出土している。

⑥集石遺構

集石遺構２（fig.31）

調査区南端中央部に位置する。SD２埋没後つくられたものである。範囲は長軸4.40m、短軸1.60mを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。拳～人頭大の石が間を割るように２群にわかれる可能性もあるがここでは１群のものとした。石底のレベルは中央へいく程低くなっており、中央部には何らかの落ち込みのあった可能性も指摘できる。

出土遺物は、弥生土器壷（220）、壷底部（221・222）が図示できた。集石にともなうものでなく、SD２埋土中にあったものが混入した可能性がある。時期は不明であるが、祭祀行為に関係する遺構の可能性が高い。

集石遺構３（fig.31・32）

調査区南西部端に位置する。SD２埋没後つくられたものである。範囲は長軸5.00m、短軸2.50mの範囲である。埋土は濃黒褐色粘質土である。５～15cm大の石が比較的均等に散在しており、中央部に石のない空間が認められるが、その意味は不明である。

出土遺物は、弥生土器壷（223～225・227・228）、壷底部（230・232・233）、甕（226・229）、甕底部（231・234・235）が図示できた。222は被熱赤変している。その他、弥生土器細片744点、産地不明の搬入土器２点が出土している。集石２と同様に集石にともなうものでなく、SD２埋土中にあったものが混入した可能性がある。時期は不明であるが、祭祀行為に関係する遺構の可能性が高い。

(3) 古代の検出遺構と遺物

①掘立柱建物

SB１（fig.33）

調査区の西部に位置する。掘立柱建物を構成する柱の一部と考えられるが規模等は不明である。柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径20～40cm、深さは20～35cm前後を測る。出土遺物はない。

SB２（fig.34）

調査区西部に位置する。SB１と切り合い関係にあるが、前後関係は不明である。

主軸方向はN-5°5′-Eである。桁行４間（8.7m）×梁間３間（7.2m）で、総柱の南北棟と考えられる。東側と北側の大部分では柱穴を確認することができなかった。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、径20～30cmを測る。柱穴の深さは20～90cmと深度の差が大きい。柱間寸法は桁行2.0～2.5m前後、梁間2.0～2.8m前後を測る。出土遺物はP250より弥生土器細片１点、P254より弥生土器細片１点、P257より弥生土器細片４点、P258より弥生土器細片１点が出土し、P256の掘方床面より、土師器小皿完形品（236）が１点うつ伏せの状態で出土している。柱を建てる際の祭祀行為と考えられる。

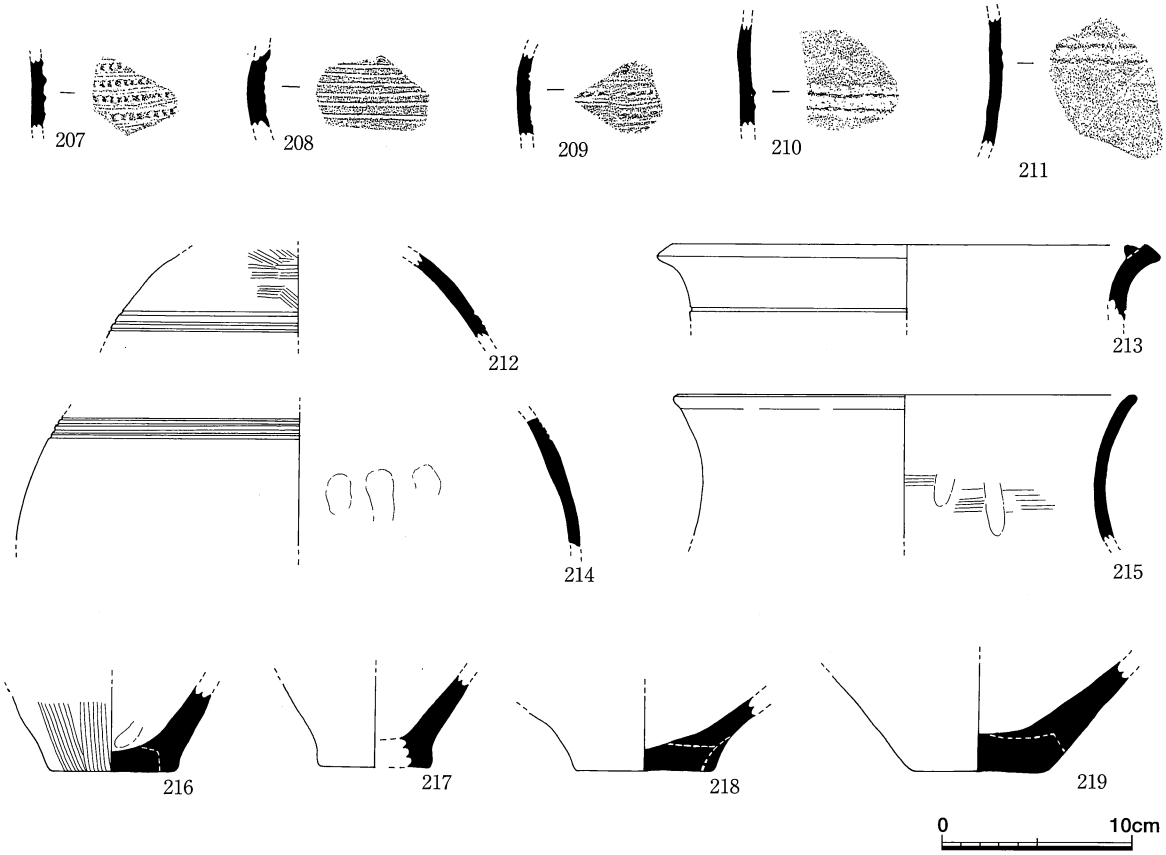


Fig.30　P169(219)，P177(214)，P217(209)，P221(207・216)，P225(210・212)，P234(208・211・213・215)，P267(217)，P290(218)出土遺物

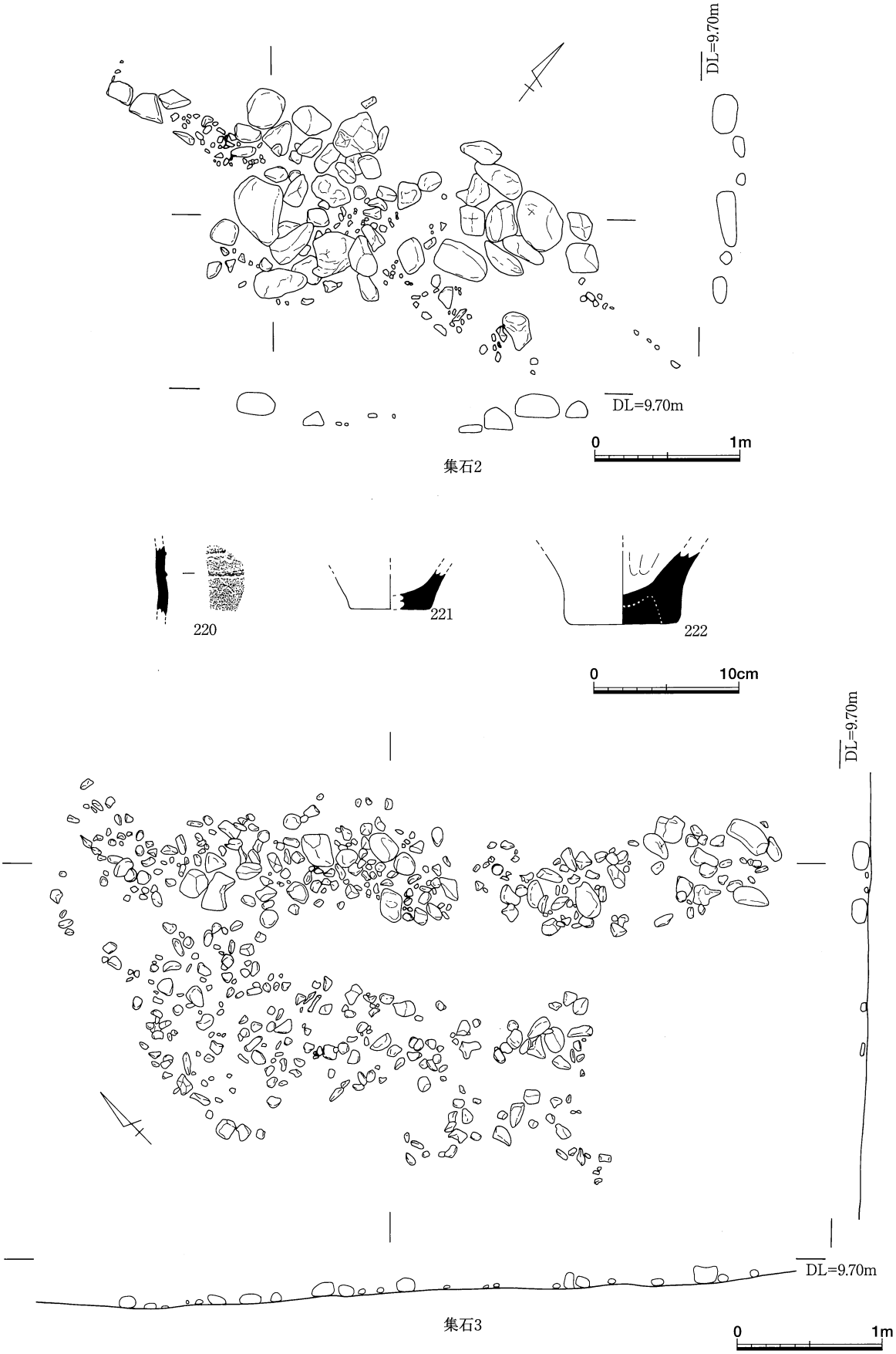


Fig.31　集石２，３及び集石２出土遺物

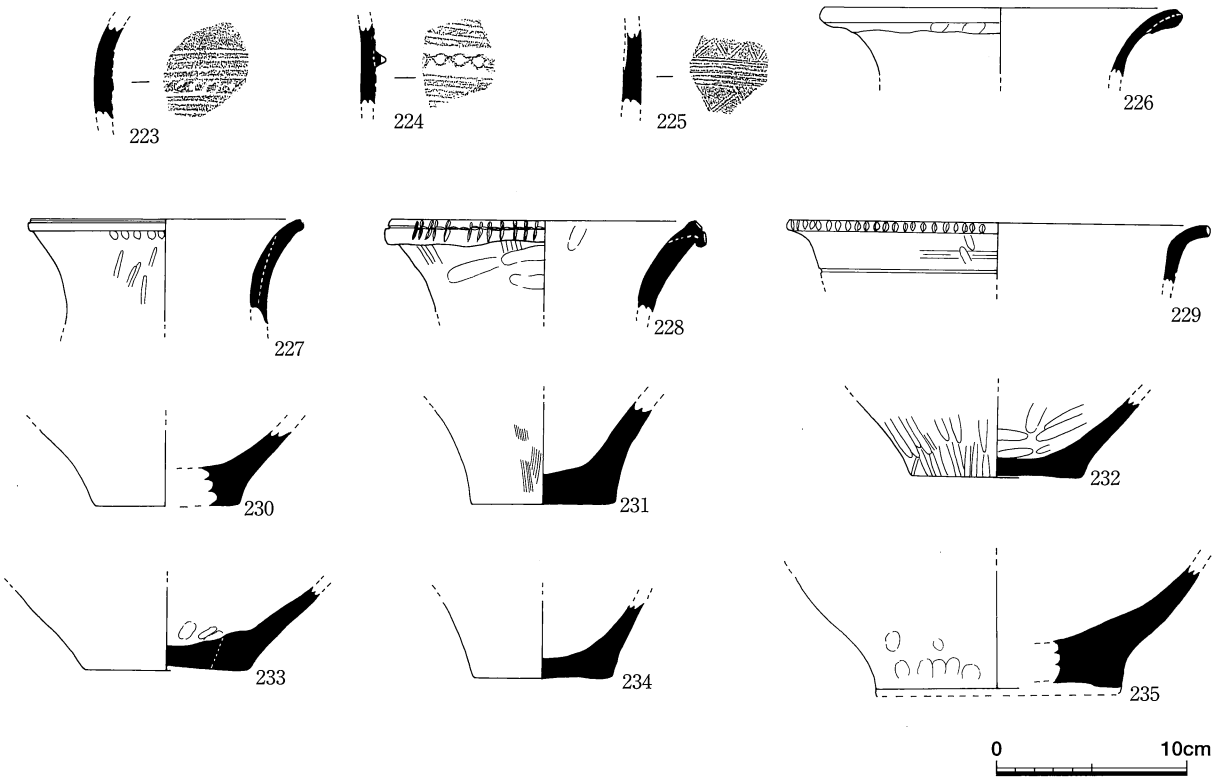


Fig.32　集石３出土遺物

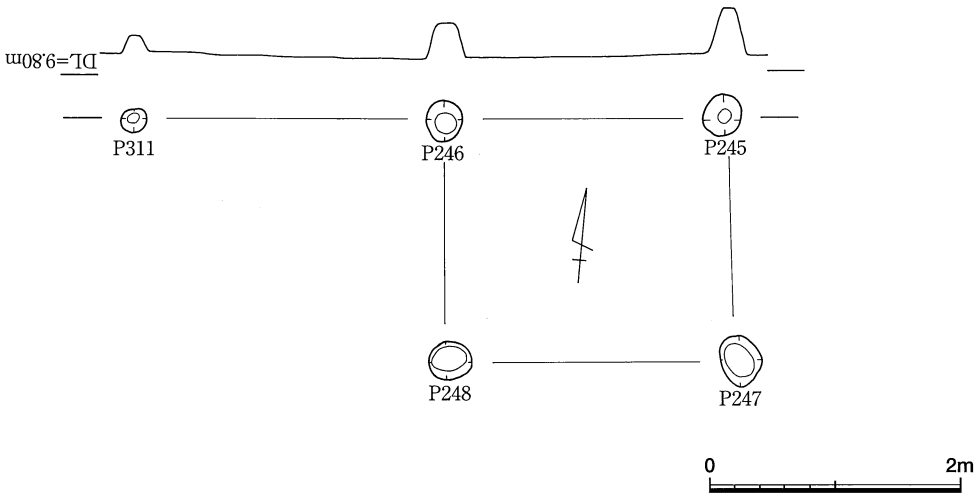


Fig.33　SB１平面・エレベーション

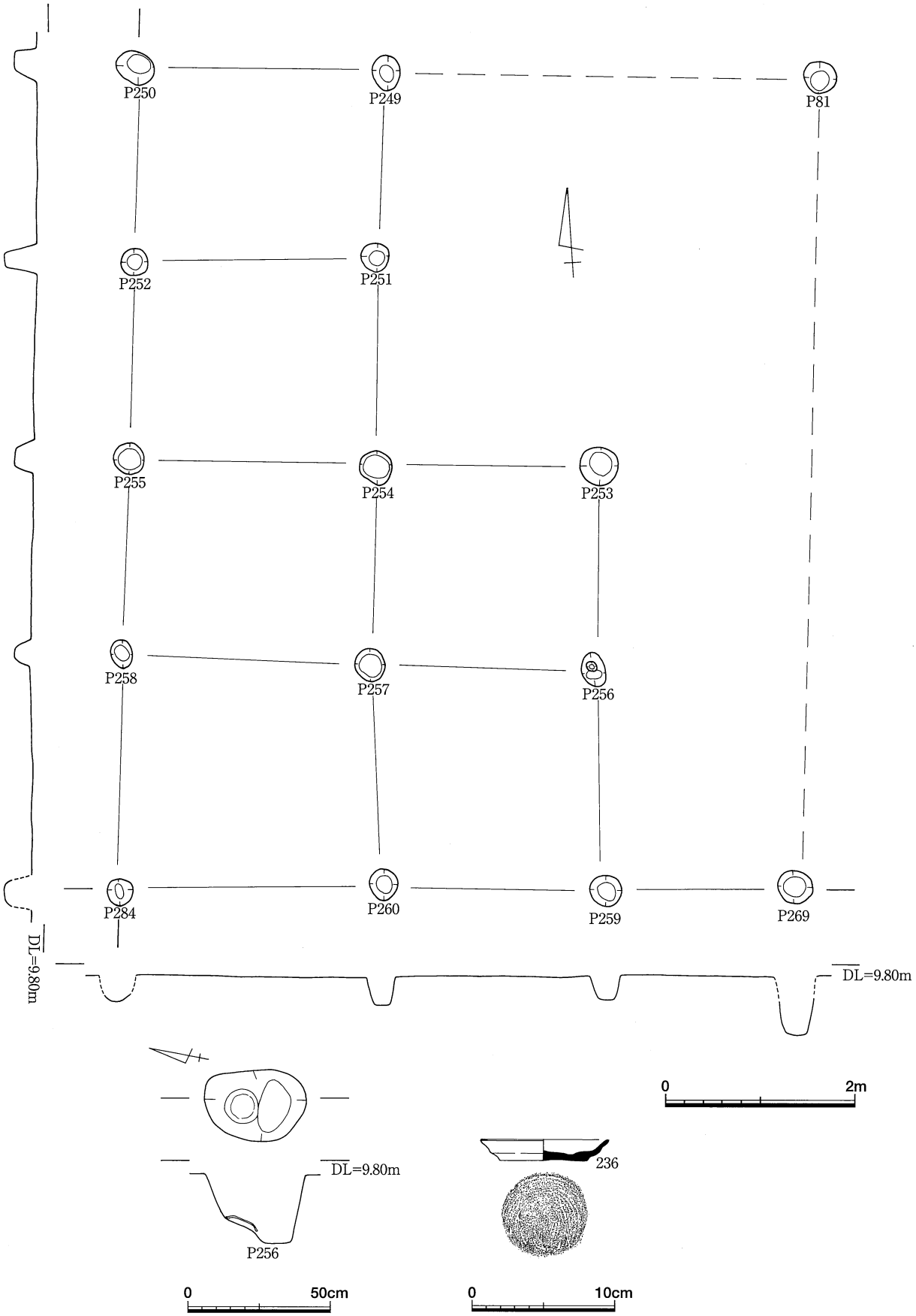


Fig.34　SB 2，P256平面・エレベーション及びP256出土遺物

(4)　その他の検出遺構と遺物

①土坑

SK 1　(fig. 35)

調査区南東部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸3.12m、短軸1.15m、深さ約17cmを測る。床面からは人頭大の河原石が集中して検出されている。この河原石は床全面に並べてあり、意図的に置かれた可能性が強い。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 2　(fig. 35)

調査区東部に位置する。平面形は瓢箪形を呈し、長軸2.57m、短軸1.32m、深さ38cmを測る。東側にテラス状の平坦部を有し、北西側に落ち込みが認められる。落ち込み内には、河原石が１個置かれていた。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 4　(fig. 36)

調査区東端に位置し、SK 5 に隣接する。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は舟底状を呈する。長軸0.55m、短軸0.39m、深さ10cmを測る。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 5　(fig. 36)

調査区東端に位置し、SK 4 に隣接する。平面形は四角楕円を呈し、長軸1.14m、短軸0.74m、深さ15cmを測る。床面は緩やかに東へ落ち、東壁はオーバーハングしている。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 6　(fig. 36)

調査区東部に位置し、SK 7 の北側にある。平面形は楕円形を呈し、長軸0.83m、短軸0.67m、深さ 9 cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 7　(fig. 36)

調査区東部に位置し、SK 6 の南側にある。平面形は不規則な楕円形を呈し、長軸1.26m、短軸1.00m、深さ12cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 8　(fig. 36)

調査区東部に位置する。平面形は四角楕円を呈し、長軸1.96m、短軸1.30m、深さ33cmを測る。東側にテラス状の平坦部を有している。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

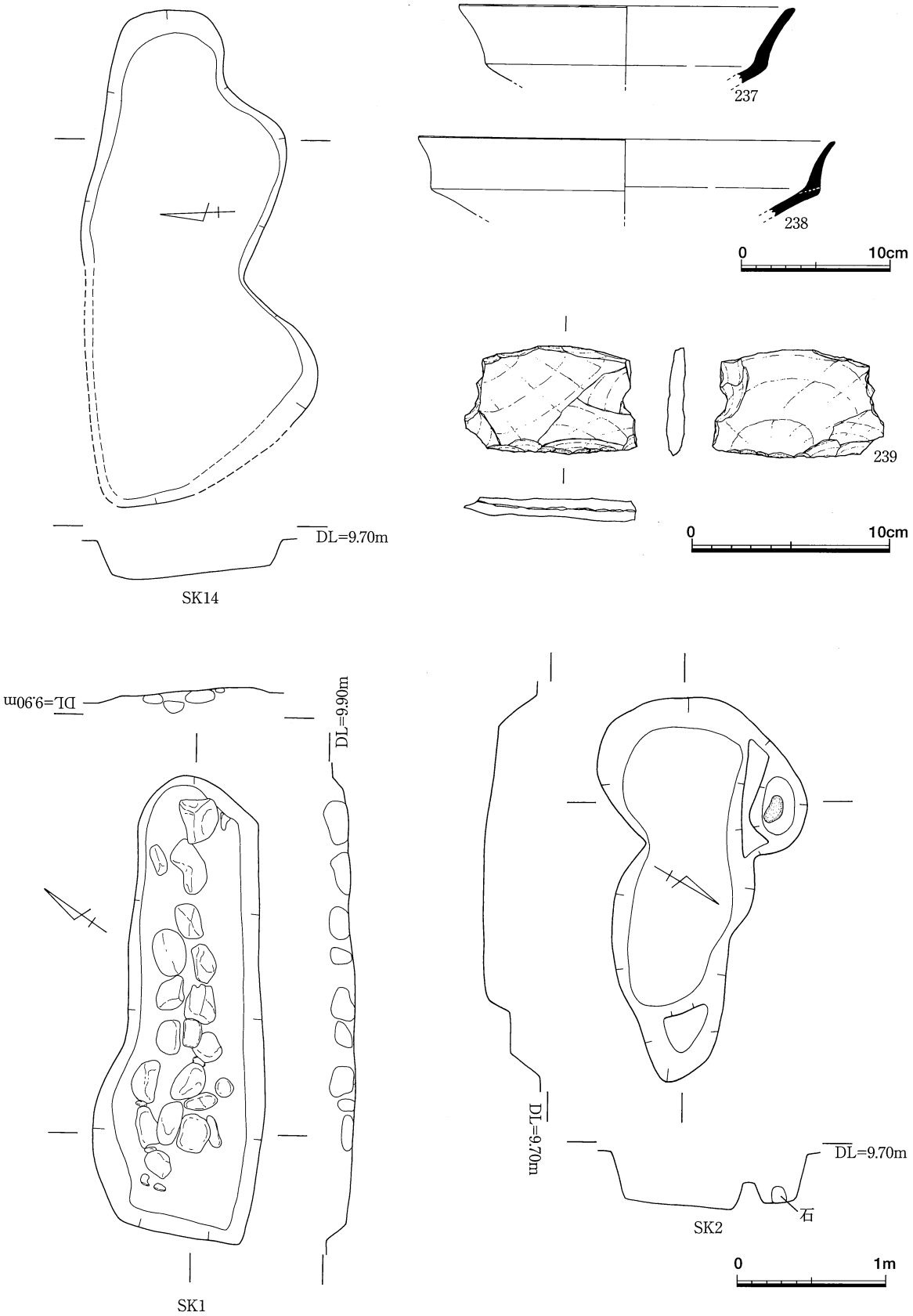


Fig.35　SK1，2，14平面・エレベーション及びSK14出土遺物

SK 9 (fig. 37)

調査区中央部に位置する。平面形は三角楕円形を呈し、長軸1.64m、短軸0.66m、深さ37cmを測る。断面形は逆台形を呈し、中央と北部に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK10 (fig. 37)

調査区中央部SK 9 西側に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸1.14m、短軸0.75m、深さ23cmを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK14 (fig. 35)

調査区中央部に位置する。平面形は不規則な楕円形を呈し、長軸3.32m、短軸1.25m、深さ24cmを測る。床面は北から南に向かって傾斜している。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は、弥生土器高坏 (237・238)、石包丁 (239) が図示できた。その他、弥生土器細片34点が出土している。

SK17 (fig. 36)

調査区西部に位置する。試掘時に一部破壊を受ける。平面形は三角楕円形を呈し、長軸 (0.96) m、短軸1.33m、深さ10cmを測る。床面は平坦面をなしている。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK23 (fig. 37)

調査区南部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.81m、短軸0.47m、深さ19cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK24 (fig. 37)

調査区中央部南端に位置する。平面形は三角形を呈し、長軸0.61m、短軸0.56m、深さ17cmを測る。北側に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK25 (fig. 37)

調査区中央部南端に位置する。平面形は四角楕円形を呈し、長軸0.74m、短軸0.36m、深さ34cmを測る。北側に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK29 (fig. 37)

調査区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.95m、深さ 8 cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

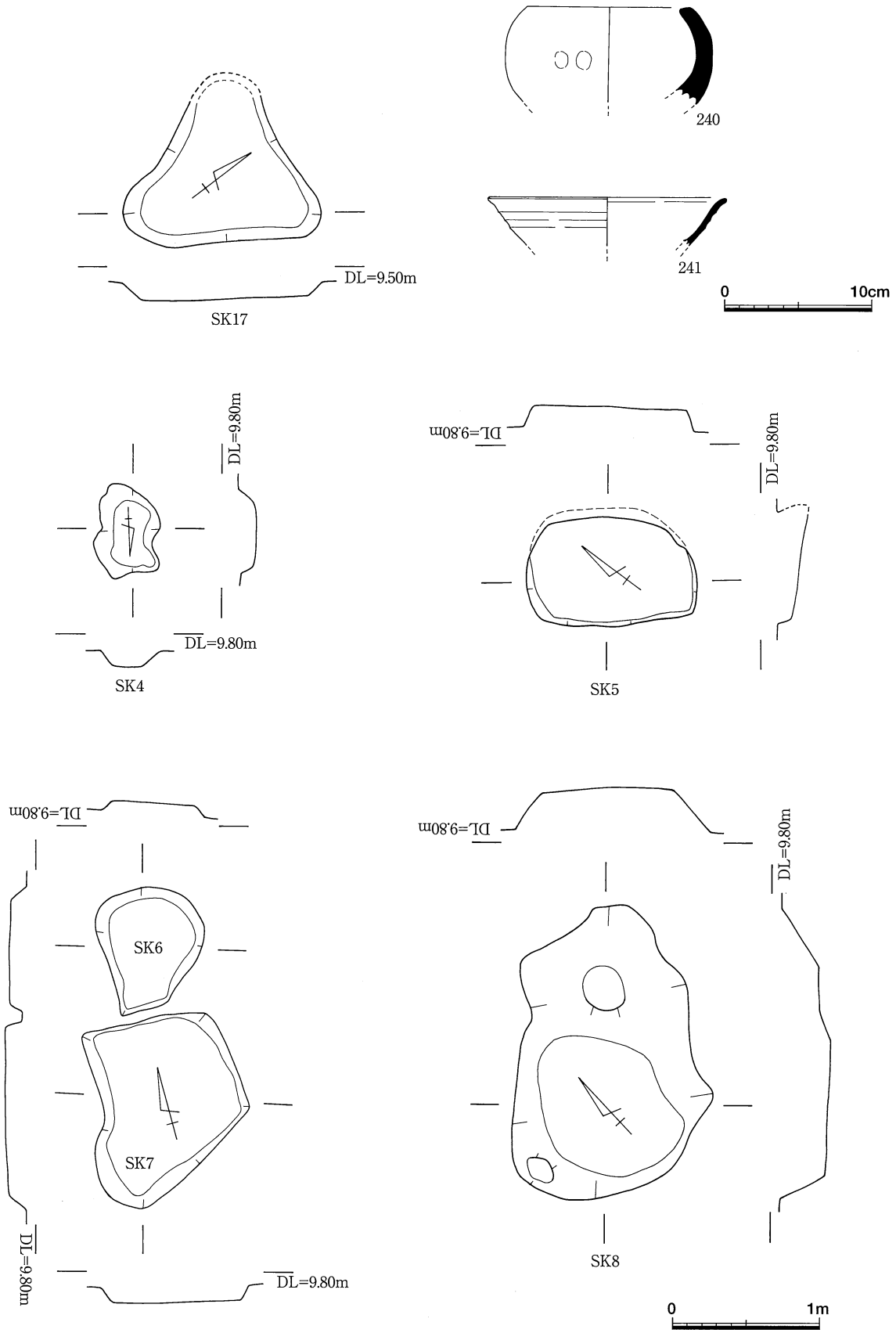


Fig.36　SK 4 ～ 8，17平面・セクション・エレベーション及びSD 4 (240)，SX 3 (241) 出土遺物

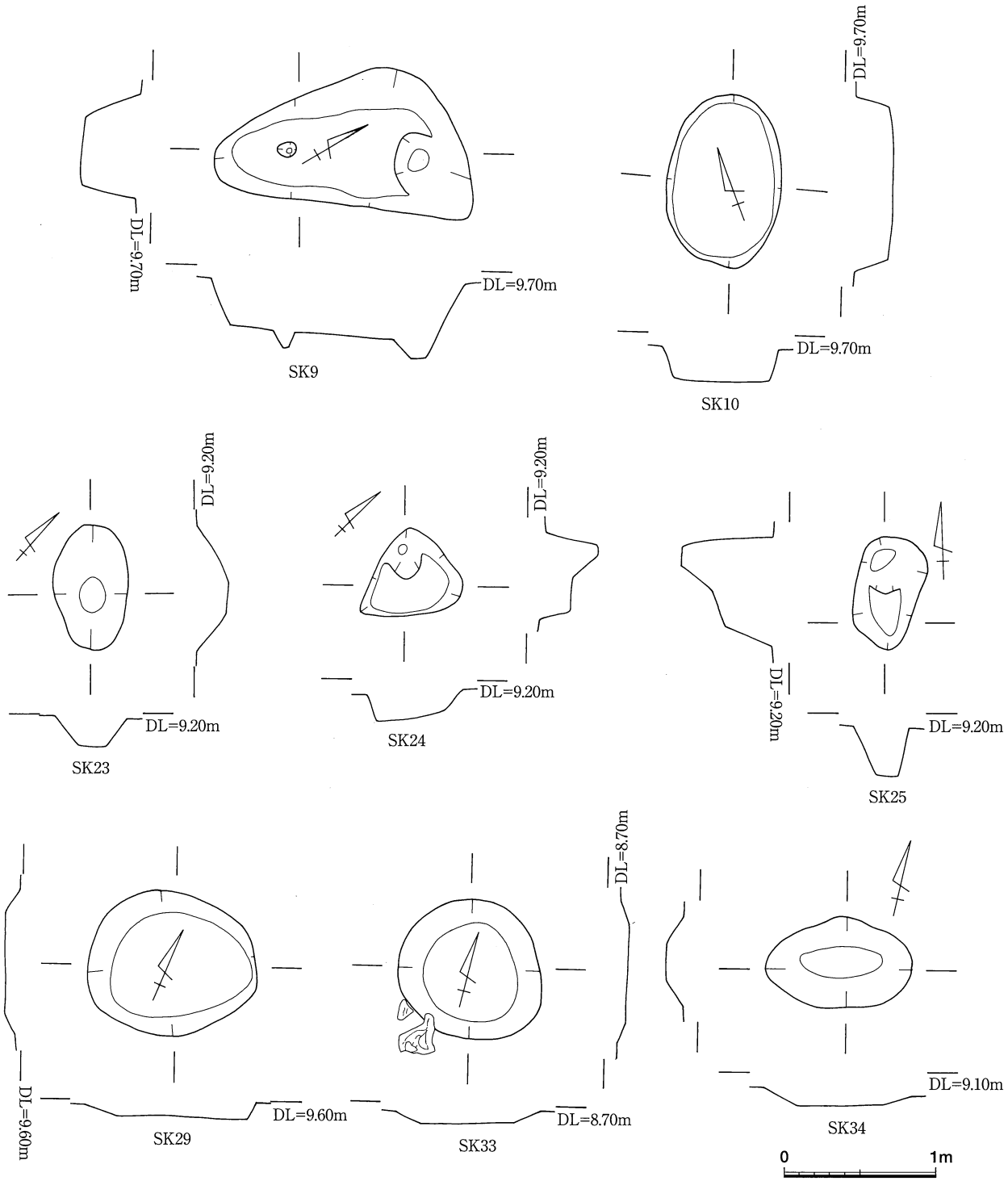


Fig.37　SK 9，10，23～25，29，33，34平面・エレベーション

SK33（fig. 37）

調査区西部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.93m、短軸0.58m、深さ6cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK34（fig. 37）

調査区西部端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.96m、短軸0.58m、深さ10cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

②溝

SD 3（fig. 38）

調査区北部に位置する。北側は調査区外へ延びており、南側はSK14に切られている。確認延長約7.00m、幅0.30～0.55m、深さ30～55cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は弥生土器細片43点がみられるが、詳細な時期は不明である。

SD 4（fig. 38）

調査区中央部に位置する。北側はSK14に切られている。平面形は楕円形を呈し、確認延長3.50m、幅約0.63～0.70m、深さ63～70cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、床面は北へいく程低くなっている。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は、瓦器火鉢（240）が図示できた。その他、弥生土器細片3点が出土している。

SD 9（fig. 39）

調査区北西部に位置する。北側は調査区外へ延びている。平面形は不規則な形を呈する溝状の遺構で、確認延長南北8.00mを測り、途中東へ3.90m、北東へ1.70mと枝分かれしている。深さ3.9～6.2cmを測る。出土遺物は、土師器坏（241）が図示できた。

(5) 包含層出土遺物（fig.40～44）

図示した遺物は、弥生土器壷（242～266・278・279）、壷底部（315・319・322～329）、甕（267～277・280～300）、甕底部（305～314・316・320・321）、手づくね土器（301）、蓋（302～304）、小坏（335）、坏（336）、高坏（337）、石包丁（330・331）、太形蛤刃石斧（332）、柱状片刃石斧（333）が図示できた。266は被熱赤変しており、内面に黒色物が付着している。274・310・311・317・321・323は外面が被熱赤変している。257・260は赤彩が施されている。246は産地は不明ながらも搬入品と考えられる。その他、弥生土器細片5915点、搬入土器細片3点、須恵器細片2点、瓦器碗細片1点、近世陶磁器19点、鉄製品1点が出土している。

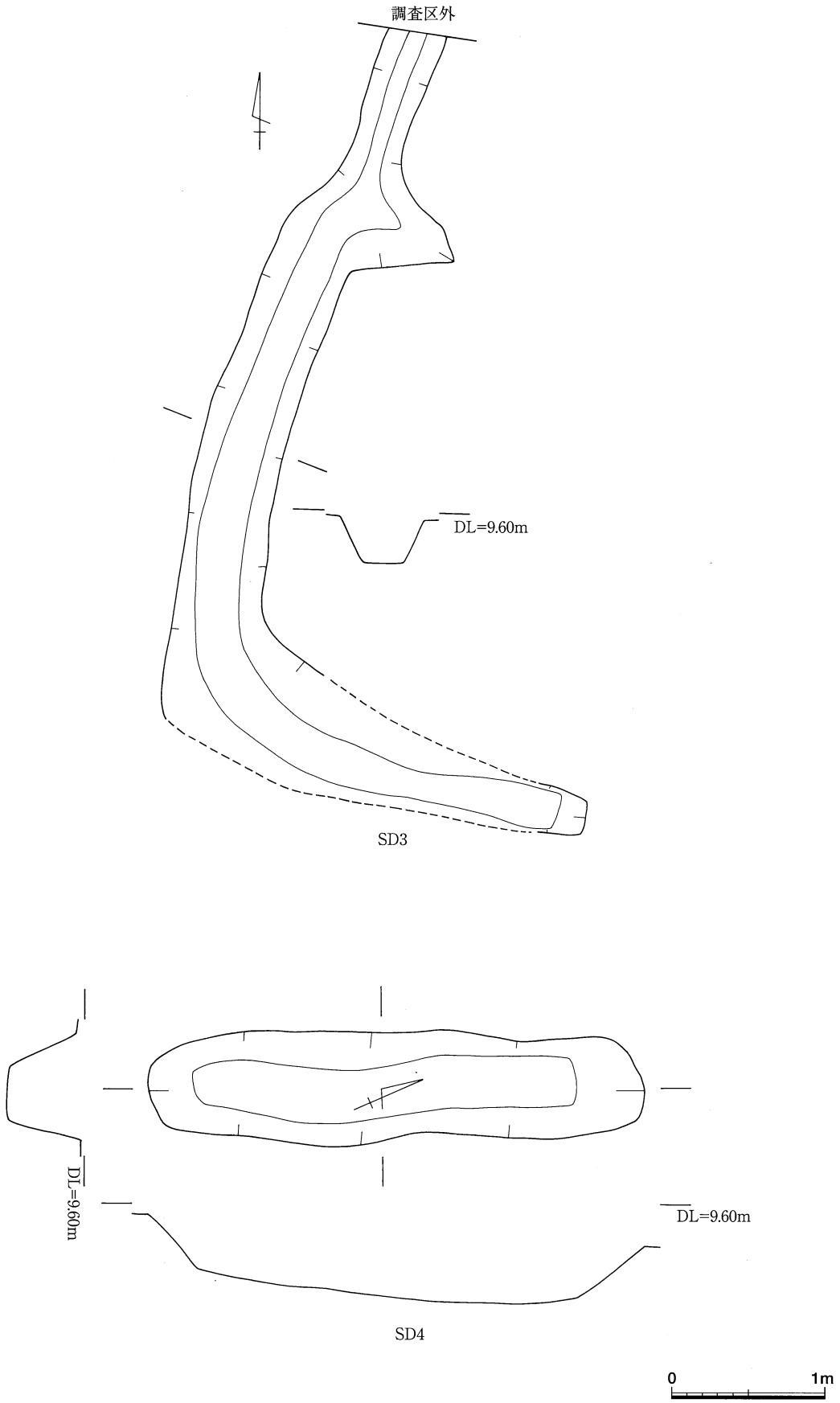


Fig.38　SD 3，4 平面・エレベーション

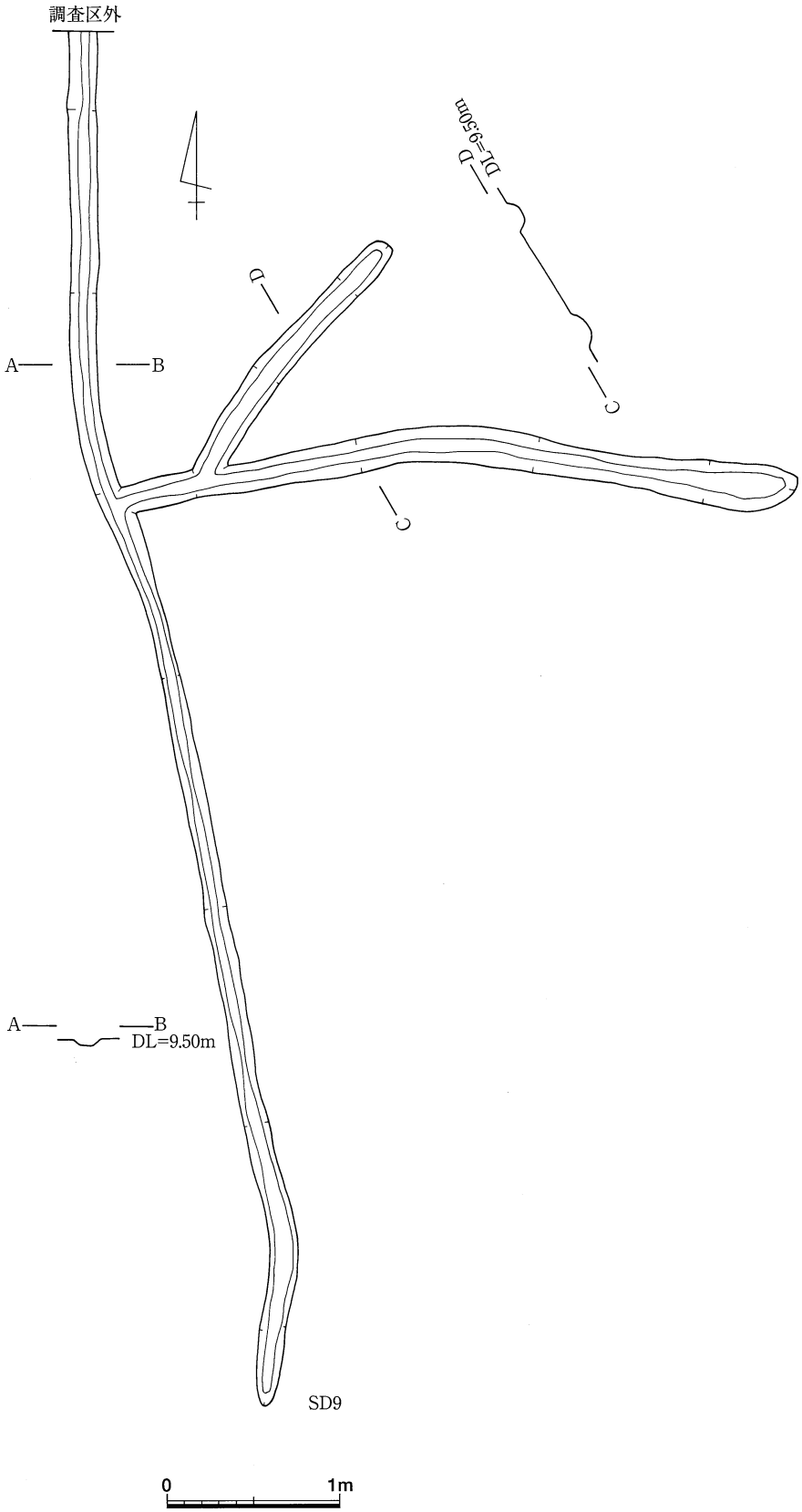


Fig.39　SD 9 平面・エレベーション

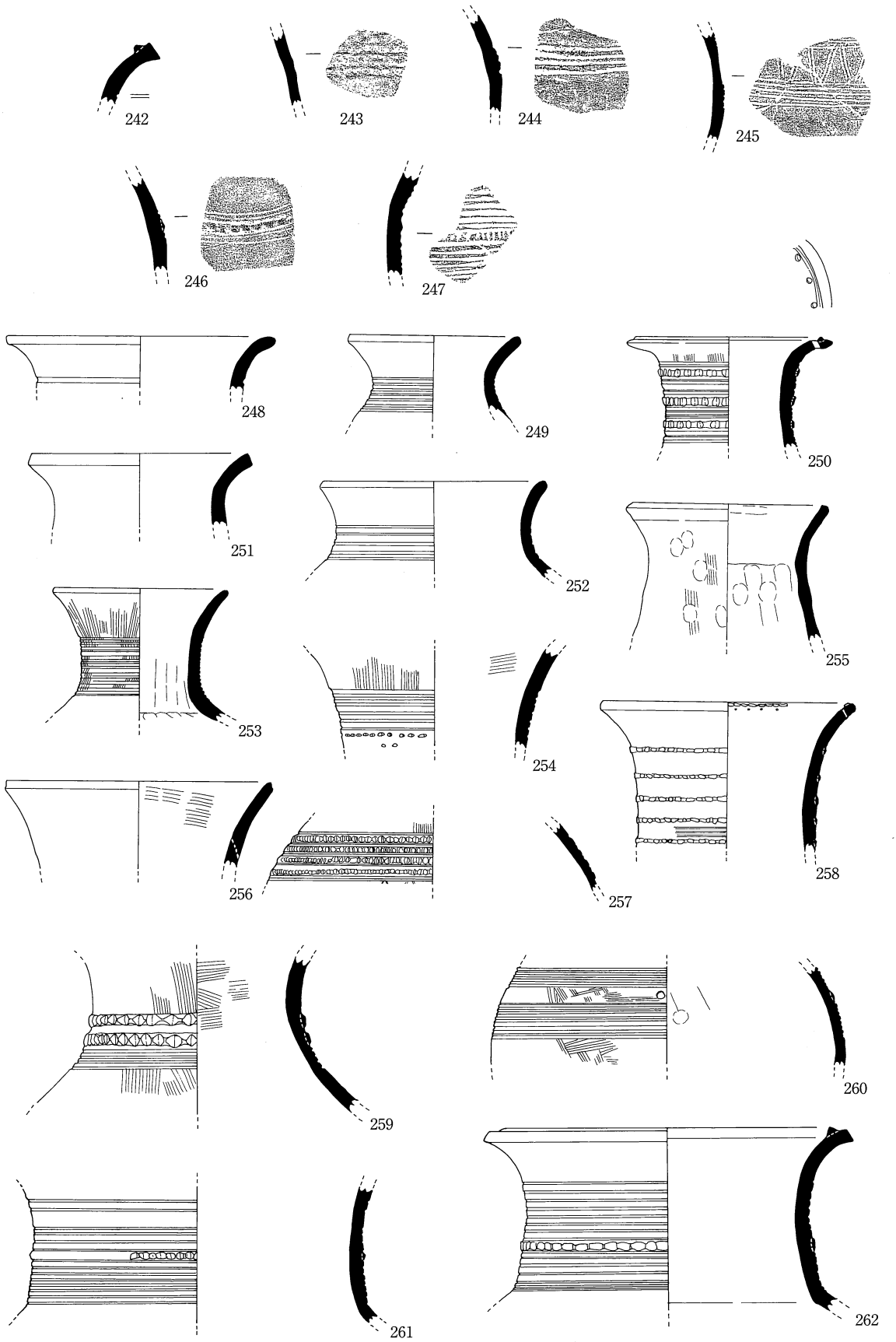


Fig.40　包含層出土遺物（1）

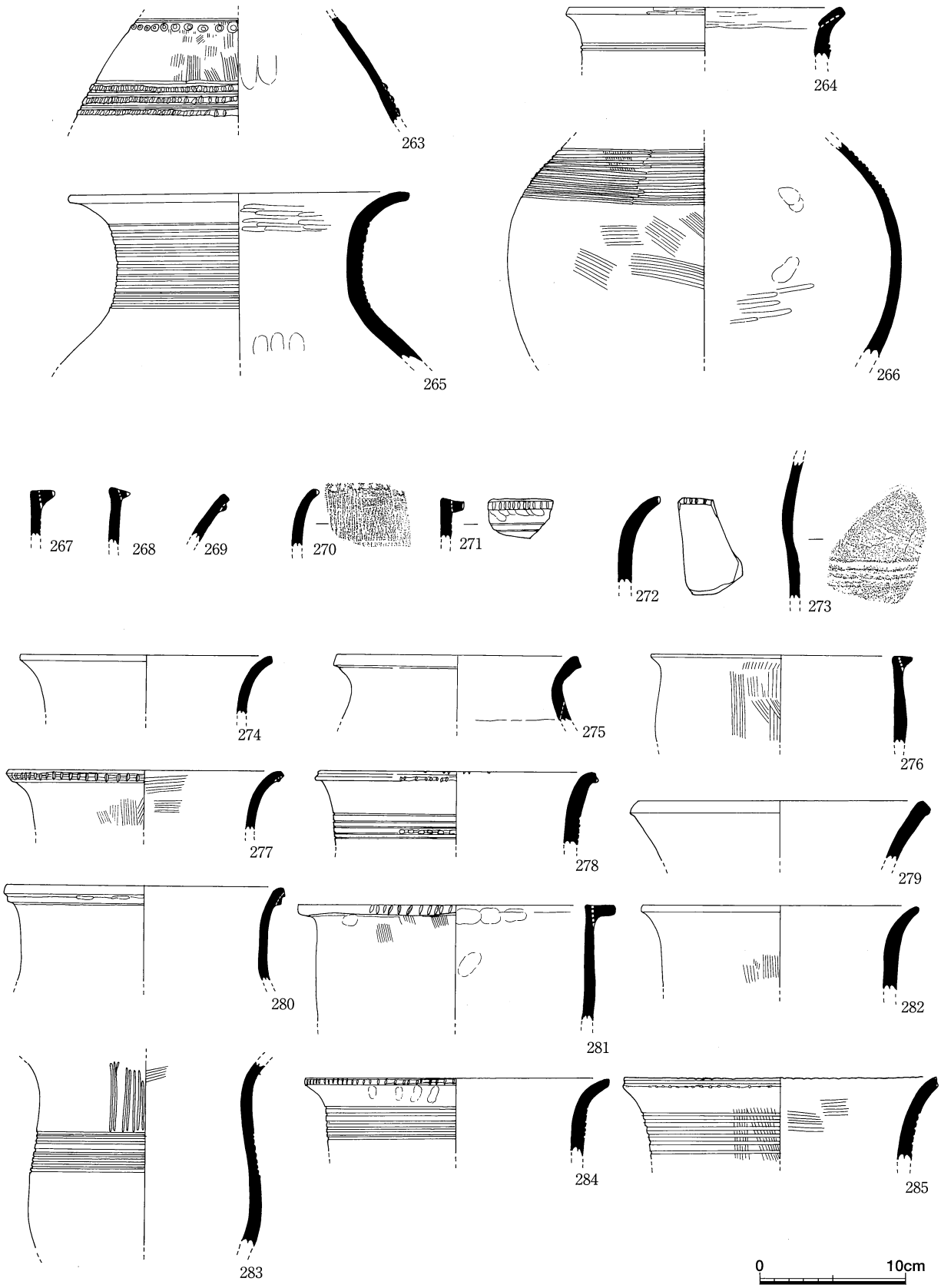


Fig.41　包含層出土遺物（2）

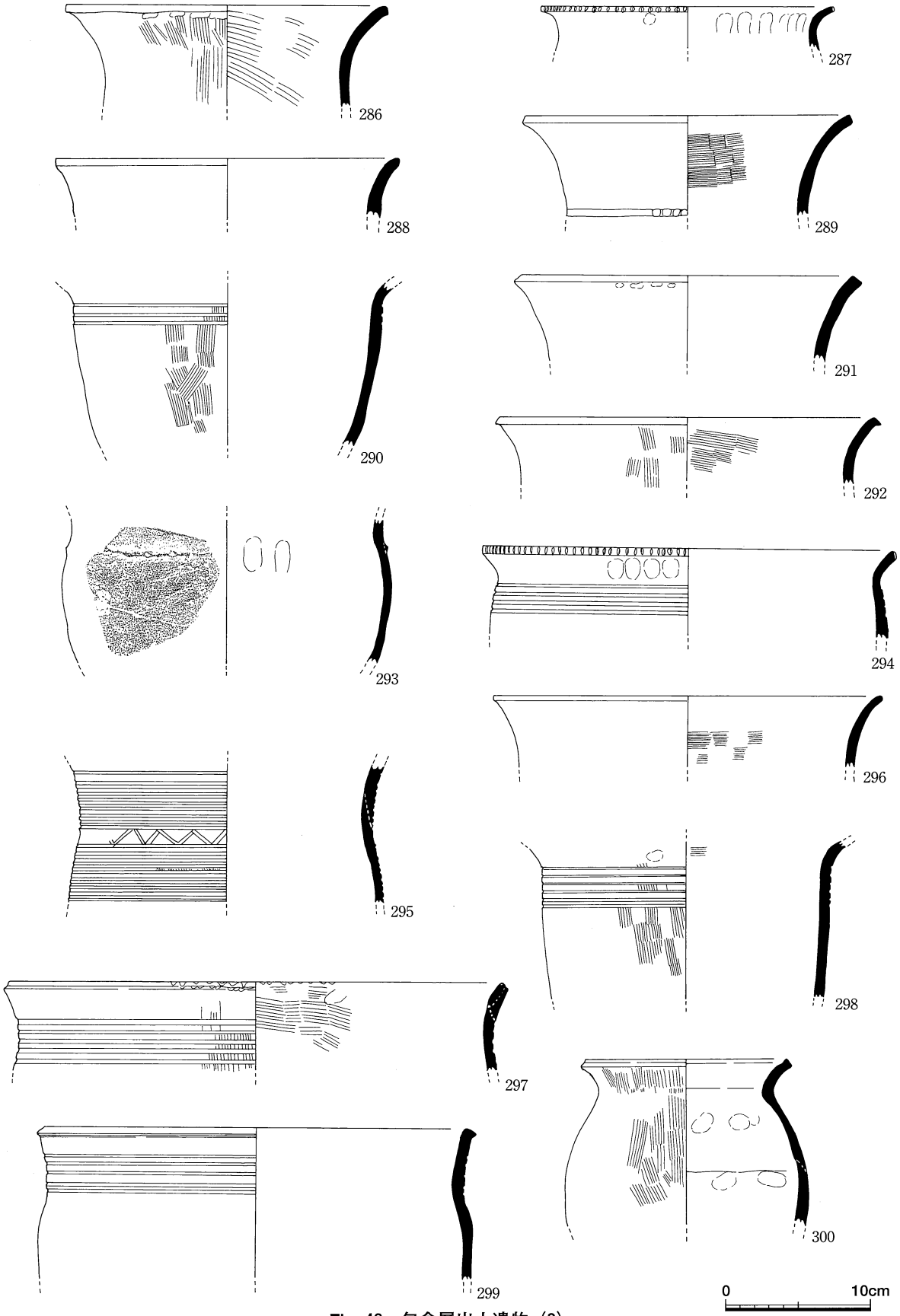


Fig.42　包含層出土遺物（3）

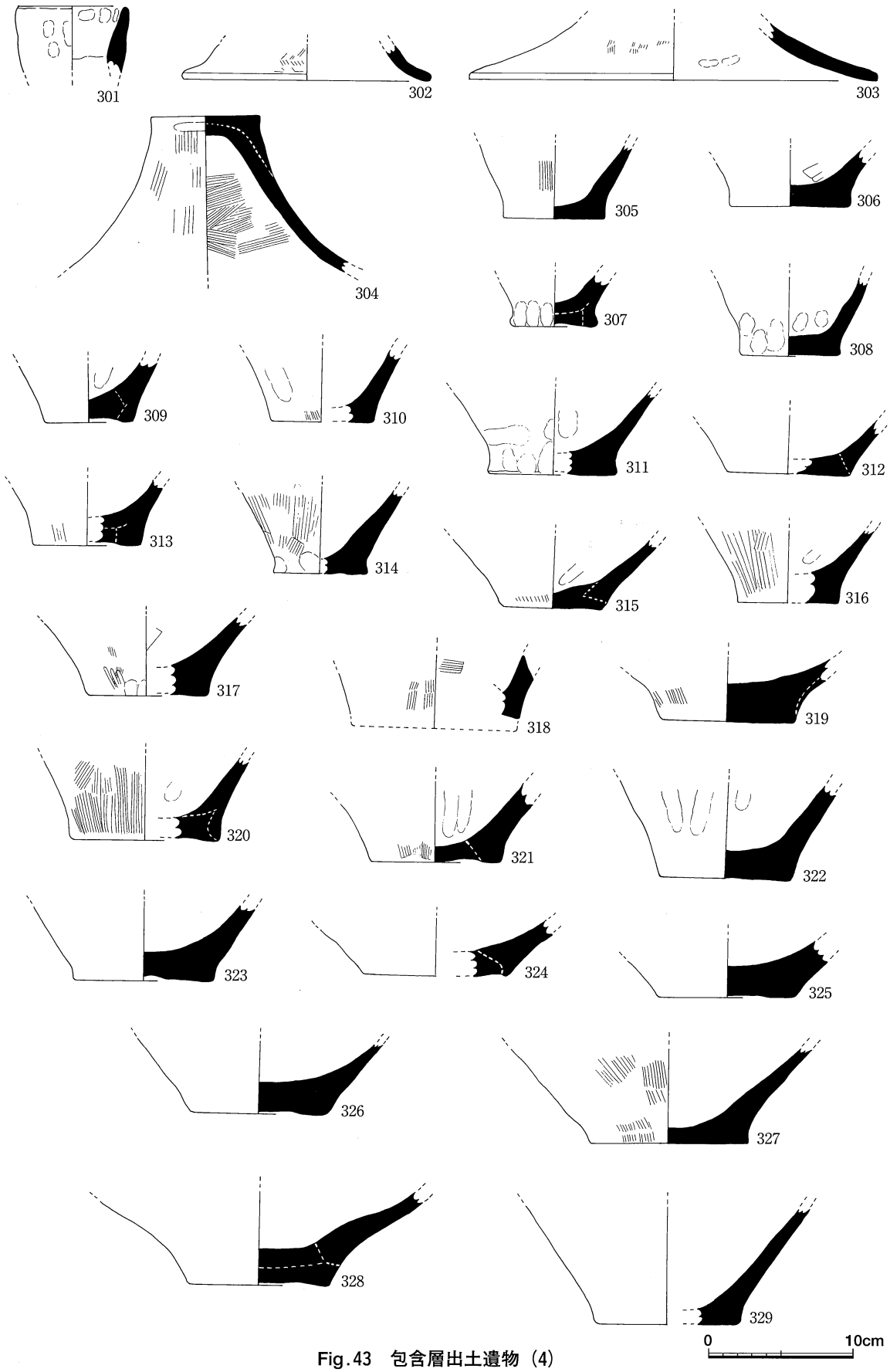


Fig.43　包含層出土遺物（4）

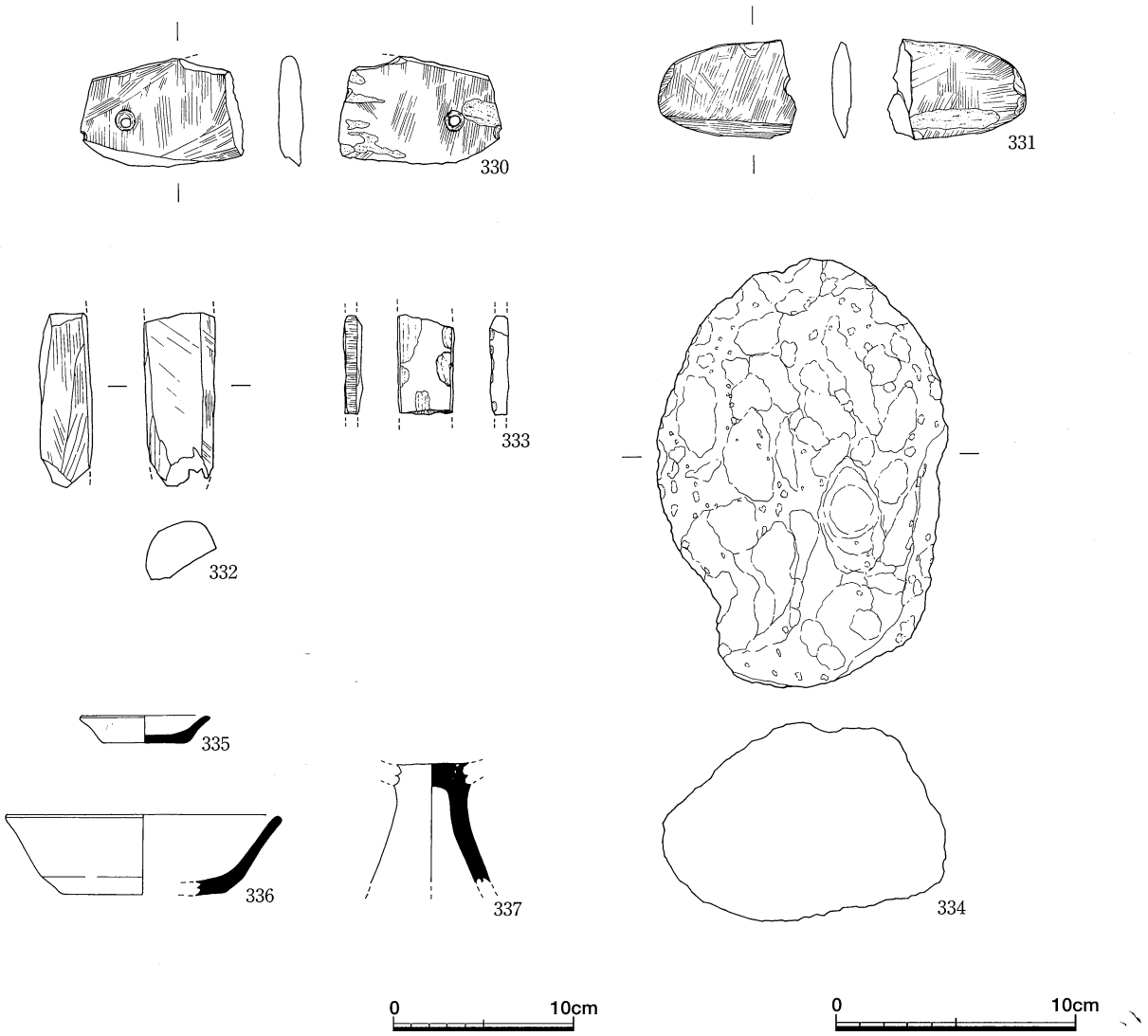


Fig.44　包含層出土遺物（5）

第Ⅳ章　まとめ

上岡遺跡の時期は、大きく分けて弥生時代と平安時代末～鎌倉時代初頭頃である。

その中でも、弥生時代前期～後期までの弥生期の遺物が多量に出土しており、２棟の竪穴住居や土坑、溝等を検出し大きな成果となった。

平成８年度の試掘調査TR１では、遺構の確認はできなかったが、包含層より多量の遺物が出土した。その中でも、弥生時代前期の土器が１m以上積み重なるように出土、TR１の北側に設定したTR７においても同様に遺物が集中して出土している。

また、TR１の北側に位置する性格不明遺構SX１からも、弥生時代前期末～中期の土器が多量に出土している。SX１はSD２に切られており、平面形は卵形を呈し、遺構検出時には竪穴住居と考え調査を行い精査したが、性格は不明であった。

TR１、TR７、SX１の関連は不明であるが、調査区南西側の上岡山裾野部に前期末～中期の土器が集中して出土していることは興味深い。

弥生時代後期の遺構として捉えられるのは、後期前半のSK12、後期中葉ではST１、ST２があげられる。また、後期中葉以降ではSD２、集石遺構２、３があげられ、後期後半ではSK13があげられる。後期の中でも詳細な時期が不明なものにSK11、SK22がある。

後期中葉に捉えることのできるST１とST２は、ほぼ同時期と考えられ、盛土によって成形したと考えられるベッド状遺構を有する竪穴住居である。ST１は北東壁に壁溝が竪穴の側壁に沿って部分的に巡らされているのが確認できた。

ST２の南西側に隣接する、P50とP21には壷棺が置かれてあり、P21の壷棺は、高坏坏身を蓋にして壷の口にかぶせた状態で出土している。

SD２は調査地の形状に沿うような形で、半円を描くように延びており、ST１を切っている。出土遺物は前期末～中期初頭の土器が出土しているが、ST１との切り合い関係から、後期中葉以降であると考えられる。また、集石遺構２、３は、SD２埋没後につくられたものである。詳細な時期は不明であるが、集石３は、石が比較的均等に散在しており、中央部に石のない空間部分が認められる。意味は不明であるが祭祀行為に関係する遺構の可能性も指摘できる。

次に平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構であるが、調査区西部に掘立柱建物２棟を検出した。SB１とSB２は切り合っているが前後関係は不明である。

SB２は桁行４間×梁間３間で、総柱の南北棟と考えられ、SB２を構成する、柱穴P256の掘方床面より、土師器小皿の完形品がうつ伏せの状態で出土している。この事は、柱を建てる際の祭祀行為に関連するものであると考えられる。

また、弥生期のSD２がSB２付近で消滅をしているが、この時期に削平を受け消滅したものと考えられる。

上岡遺跡は物部川の左岸、上岡山の東裾野に立地しており、北側には下ノ坪遺跡が隣接している。下ノ坪遺跡は、弥生時代後期前葉～中葉にかけての集落であることが判っており、上岡遺跡とは密

接な関係を有していたと考えられ、当該期の物部川流域における、田村遺跡を中心とした周辺の遺跡として、また、野市町の物部川左岸部に立地する、下ノ坪遺跡、深渕遺跡、深渕北遺跡等との関連も重要であり、今後の研究の重要な資料として活用していきたい。

遺物観察表

遺物観察表（土器）1

Fig. No	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
5	1	TR 1	甕	13.2	(4.2)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面胴部叩き＋ハケ。内面口縁部横ハケ。器表の荒れが激しい。	
〃	2	〃	壷	14.8	(5.0)			チャートの小礫を多く含む。橙色。外面縦ハケ。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	3	〃	壷	16.2	(5.3)			砂粒をほとんど含まない。橙色。口唇部、内外面口縁部強い横ナデ。外面頸部縦ハケ、内面横ナデ。内傾接合。	
〃	4	〃	壷頸部		(6.4)			チャートの細・粗粒を含む。橙色。外面縦ハケ＋横ヘラ磨き。２条の太い突帯を貼付、爪状原体による上下２段の圧痕を認める。内面横ハケ＋横ヘラ磨き。	
〃	5	〃	甕	20.7	(4.2)			チャート、他の粗粒を含む。橙色。口唇部つまみ上げて強い横ナデで凹状を呈し、下端に深い刻目。外面口縁部縦ハケ。口縁部下に断面三角の突帯を貼付し指頭でつまむ。その際生じた爪圧痕が突帯下の器表につく。内面横ハケ。	
〃	6	〃	甕	14.3	(6.3)			チャートの粗粒を含む。黄茶色。口唇部、外面口縁部強い横ナデ。胴部縦ハケ。内面口縁部強い横ナデ。上胴部に布目圧痕。	外面煤ける。
〃	7	〃	甕	22.0	(6.0)			チャートの粗粒を含む。橙色。外面口縁部横ナデ、胴部縦ハケ。６条のヘラ描沈線帯を確認。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ磨き。	
6	8	〃	壷頸部		(5.0)			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。外面細い原体による沈線、沈線間に刻目突帯を貼付。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	9	〃	壷	11.0	(7.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ。頸部にヘラ描沈線帯を10条、その間に刺突文と扁平な粘土帯で貼付する。内外面口縁部横ナデ。内面ナデ。	
〃	10	〃	壷	10.0	(8.5)			長石、チャートの粗粒砂を含む。橙色。口唇部内側に刻目。外面肩部にヘラ描沈線帯を施し、扁平な粘土帯を貼付する。肩部に列点文を施す。擬口縁。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	11	〃	壷	12.4	(6.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。灰黄色。ヘラ描沈線帯を施し、扁平な粘土帯を貼付。	
〃	12	〃	壷頸部		(6.1)			チャートの粗粒を多く含む。灰桃色。外面に７本以上のヘラ描沈線帯を施し、ヘラ描沈線帯間に３本の扁平な刻目突帯を埋め込むように貼付。	
〃	13	〃	壷	11.0	(10.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。内外面口縁部横ナデ。外面頸部縦ハケ、11条のヘラ描沈線帯＋刻目突帯を貼付。外面胴部縦ハケ＋縦ヘラ磨き。	
〃	14	〃	壷	16.4	(6.0)			チャート、赤色風化礫の砂粒を含む。橙色。外面頸部に櫛描直線文をめぐらし、直線文間に５条の扁平な刻目突帯を貼付。内面口縁部、扁平な刻目突帯を２条、突帯間には9個単位の刺突文を認める。	
〃	15	〃	壷		(9.5)			チャートの粗粒砂を含む。黄茶色。外面縦ハケ＋ヘラ磨き。外面頸部に12条のヘラ描沈線帯を施す。	
〃	16	〃	壷	17.4	(7.0)			チャートの粗粒を多く含む。黄灰色。外面口縁部横ナデ、頸部縦ハケ。上から３条のヘラ描沈線帯、その下に長楕円の区画文をつくり、その中に１条のヘラ描沈線帯を施す。内面ナデ。	
〃	17	〃	壷	17.6	(9.1)			チャートの粗・小礫を多く含む。橙色。外面、ヘラ描沈線帯10条と扁平な突帯を貼付し指頭で押圧。内外器表の荒れが激しい。	
〃	18	〃	壷		11.4		4.0	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ。頸胴部境に４条のヘラ描沈線帯を施す。	下胴部に大きな黒斑あり。
〃	19	〃	壷		9.0			チャートの細粒砂を含む。淡茶色。外面、上から櫛描直線文＋同波状文＋同直線文＋同波状文＋同直線文＋同波状文＋同簾状文を配す。	
〃	20	〃	壷	13.4	(10.8)			チャートの粗粒を含む。橙色。外面縦ハケ。21条のヘラ描沈線帯、ヘラ描沈線帯間に３条の扁平な刻目突帯を埋め込むように貼付。内面横ハケ。	赤彩か。
〃	21	〃	壷	22.0	(3.0)			赤色風化礫を多く含む。チャートをほとんど含まない。黄茶色。外面口縁部1.5cm幅の貼付口縁。口唇部指頭圧痕列。内面口縁部２本のヘラ描沈線帯＋列点文を認める。	
〃	22	〃	壷胴部		(7.1)			チャートの小礫を含む。茶色。外面に3条の断面三角の太い刻目突帯を貼付、突帯の上下にヘラ描沈線帯を施す。外面縦方向のハケ調整。内面ヘラ磨き。	
〃	23	〃	壷胴部		(24.5)	23.0	7.6	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ＋横ヘラ磨き。胴部中位にヘラ描沈線帯を３条、下と中段の間に双線による山形文、上段の沈線帯には２条の扁平な刻目突帯を貼付している。内面ナデ。底部は上げ底。	外面赤彩。
7	24	〃	甕	20.2	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部ハケ状原体でしっかりした刻目。頸部に太いヘラ描沈線帯３条を施す。	
〃	25	〃	甕	24.8	(4.2)			チャートの小礫を多く含む。橙色。口唇部刻目。内外面口縁部横ナデ、口縁を強く折り曲げる。内面胴部横ハケ。	外面煤ける。
〃	26	〃	甕	20.4	(9.0)			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。口唇部刻目、外面口縁部横ナデ、胴部右下りのハケ。上胴部に３条のヘラ描沈線帯を施す。内面口縁部横ナデ、胴部ハケ＋ヘラ磨き。	
〃	27	〃	甕	25.0	(4.9)			長石細粒、チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部刻目。内外面口縁部強い横ナデ。外面胴部縦ハケ、内面ナデ。ヘラ描沈線帯を３条施す。	
〃	28	〃	甕	21.8	(5.6)			長石細粒を少量、雲母、チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。口唇部刻目。口縁が水平に近く屈曲する。	
〃	29	〃	甕	27.0	(7.0)			チャートの小礫、粗粒砂を含む。黄茶色。口唇部刻目。外面縦ハケ。上胴部に８条のヘラ描沈線帯、沈線帯下に刺突文を施す。内面ヘラ磨きか。	
〃	30	〃	甕	20.0	(3.4)			チャート、赤色粒子を含む。黄色。口唇部強い横ナデ。内外面ナデ。	

遺物観察表（土器）2

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
7	31	TR 1	甕	32.4	(6.1)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面口縁部横ナデ、胴部縦ハケ。内面口縁部ヘラ磨き、胴部横ハケ＋横ヘラ磨き。	外面の一部に赤彩。
〃	32	〃	甕					チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。黄茶色。口縁部横ナデ、上面はヘラ磨き、逆L口縁。外面ヘラ描沈線帯9条、沈線帯下に列点文、沈線帯にも1列の刺突文を配す。外面胴部縦ハケ、内面横ヘラ磨き。	外面胴部煤ける。
〃	33	〃	甕	21.3	(5.6)			チャートの粗、小礫を含む。橙色。口唇部刻目。外面口縁部横ナデ、頸部縦ハケ。8条までヘラ描沈線帯を認める。内面ナデ。	
〃	34	〃	甕	21.4	(11.5)			チャート他小礫を含む。橙色。上胴部にヘラ描沈線帯10条、間隔をあけて7条のヘラ描沈線帯、その間に双線による山形文を配す。調整不明。	外面胴部煤ける。
〃	35	〃	甕	21.7	(8.0)			チャート他の小礫、粗粒砂を含む。茶黄色。口唇部下端刻目。外面口縁部縦ハケ＋横ナデ、上胴部に11条のヘラ描沈線帯、その下に列点文を施す。内面口縁部横ハケ。指頭圧痕顕著。	
〃	36	〃	甕	23.5	(7.9)			チャート、赤色風化礫の粗粒を含む。橙色。外面縦ハケ。内面横ハケ＋横ヘラ磨き。口縁部に指頭圧痕が認められる。	
〃	37	〃	甕	22.6	(7.8)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。口唇部太い刻目。外面頸部・胴部境にヘラ描沈線帯を施す。外面縦ハケ。内面横ハケ。	外面煤ける。
〃	38	〃	甕	21.0	(19.3)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面頸部下半に4条のヘラ描沈線帯、部分的に細い原体によって山形文を配す。外面頸部縦ハケ、内面横ハケ。外面胴部は荒い横ナデ。剥離が激しい。	外面胴部煤ける。
8	39	〃	甕	14.0	(9.5)			チャート他の粗粒砂を含む。橙色。外面口縁部部分的に肥厚。外面頸部横ナデ＋横ハケ。外面胴部縦ハケ。	
〃	40	〃	甕	18.0	(3.0)			チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。橙色。外面口縁部に4条の隆帯を貼付。外面ナデ調整。内面ハケ。	
〃	41	〃	甕	19.0	(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。灰茶色。外面口唇部刻目、頸部に半截竹管状工具による垂下糸線を配す。	
〃	42	〃	甕	18.0	(5.7)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。口縁端部をつまみ出して強く横ナデ。内外面ナデか。	
〃	43	〃	甕	15.4	(8.2)			長石の細粒砂、チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。橙色。外面頸部は双線による垂下条線、上胴部に4条までヘラ描沈線帯を認める。外面ナデ調整。	
〃	44	〃	甕	19.0	(7.2)			チャートの小礫、粗粒を多く含む。灰茶色。外面口縁部・頸部縦ハケ＋横ヘラ磨き。内面口縁部・頸部横ハケ＋横ヘラ磨き。外面頸部・胴部間に段を有する。	
〃	45	〃	甕	24.1	(9.7)			チャートの粗・細粒を多く含む。橙色。口縁端部を下方につまみ出し横ナデ。外面口縁部・頸部縦ハケ。頸部・胴部境に断面三角突帯を貼付、指頭でつまんだ後横ナデ。外面胴部磨き。内面口縁部・頸部横ハケ。	外面煤ける。
〃	46	〃	甕	10.0	(6.8)			チャートの粗粒を含む。橙色。口唇部刻目。口縁部つまみ出し強い横ナデ。内外面頸部横ハケ。外面胴部縦ハケ。	
〃	47	〃	甕	23.0	(19.5)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。頸部・胴部境に3条の突帯を貼付し、上下から指頭でつまむ。外面頸部縦ハケ、胴部荒いナデ。内面横方向のハケ。	外面胴部煤ける。
〃	48	〃	甕	19.4	(13.7)			チャートの粗粒を含む。橙色。外面口縁部横ナデ、頸部縦ハケ＋ナデ、胴部縦ハケ。頸部・胴部境に、上下から粘土をつまみ寄せるように3本の隆帯を有し、爪圧痕が付着。	
〃	49	〃	甕	19.0	(24.2)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面頸部双線による垂下条線と弧文。上胴部に6本のヘラ描沈線帯を施す。内外面口縁部横ナデ。外面胴部縦ハケ。器表の荒れが激しい。	
〃	50	〃	甕	22.0	(27.2)			チャートの砂粒を含む。橙色。外面頸部縦ハケ、内面上半は横ハケ、下半はヘラ磨き。外面胴部右下りのナデ～擦痕。上胴部に4条の隆帯を貼付し指頭でつまむ。	胴部中位煤ける。
9	51	〃	甕底部		(5.5)		4.8	チャートの粗粒、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	52	〃	甕底部		(5.5)		(8.0)	チャート、他の小礫を多く含む。橙色。	
〃	53	〃	甕底部		(5.5)		7.0	チャートの粗粒、小礫を多く含む。橙色。外面縦ハケ＋指ナデ。内面指ナデ。	
〃	54	〃	甕底部		(9.0)		6.2	チャートの粗粒、小礫を含む。橙色。外面縦ハケ、下部にのみ右下りのヘラ磨き。内面ナデ。	外面被熱赤変。
〃	55	〃	甕底部		(8.3)		8.8	チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	56	〃	壷底部		(6.9)		7.5	チャートの小礫を多く含む。橙色。外面縦ハケ＋ヘラ磨き。内面ナデ。	下胴部に大きな黒斑あり。
〃	57	〃	壷底部		(5.9)		11.2	チャートの小礫を多く含む。橙色。外面木理の荒いハケ。	
〃	58	〃	壷底部		(5.5)		10.7	チャート、他の小礫、粗粒砂を含む。黄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	大きな黒斑あり。
〃	59	〃	壷底部		(7.2)		9.0	チャートの小礫を多く含む。橙色。外面縦ハケ＋横ヘラ磨き。内面ヘラミガキ。	
〃	60	〃	壷底部		(6.5)		5.5	チャートの粗粒を多く含む。灰茶色。外面、底部も含めて縦ハケ＋横ヘラ磨き。内面ナデ。	
〃	61	〃	壷底部		(8.4)		9.2	チャート、頁岩の粗、細粒砂を含む。茶色。内面黒色物塗付。	外面被熱赤変。
〃	62	〃	壷底部		(13.0)		7.2	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。淡灰茶色。外面ハケ＋ヘラ磨き。内面ナデ。	下胴部に大きな黒斑あり。
〃	63	〃	甕	28.0	25.0			チャートの小礫を含む。淡茶色。外面口頸部縦ハケ、内面横方向のハケ。頸胴部境に7条の太いヘラ描沈線帯を施す。外面胴部右下りのハケ。	外面胴部煤ける。

遺物観察表（土器）3

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
9	64	TR 1	甕底部		(16.1)		8.4	チャート、結晶変岩の粗粒を多く含む。橙色。外面縦ハケ、胴中位黒色物が付着。底部ヘラ磨き。内面ナデ。	
〃	65	〃	壷底部		(17.0)		8.0	チャート、他の粗粒砂を多く含む。茶黄色。内面ナデ。表面の剥離が激しい。	
10	66	〃	鉢	7.7	3.9			チャート、赤色風化礫を多く含む。橙色。	外面底部に黒斑あり。外面被熱赤変。
〃	67	〃	鉢	15.5	(4.1)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。内面横ヘラ磨き。外面器表の剥離が激しい。	
〃	68	〃	蓋					チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面ハケ調整。内面ヘラ磨き。外面被熱し剥離が激しい。	
〃	70	〃	蓋					チャートの粗粒を含む。桃茶色。外面ハケ調整。	
〃	71	〃	蓋		2.9		23.8	チャートの小礫を多く含む。橙色。内面口縁部横ハケ＋ナデ。	内外面被熱赤変。
〃	72	TR 7	甕	22.0	5.4			チャート、赤色風化礫の小礫を含む。橙色。口縁部ハケ原体による刻目、内外面横ナデ。上胴部に4条のヘラ描沈線帯を施す。	
〃	73	〃	壷底部		(4.0)		12.0	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。橙色。外面ヘラ磨き。内面剥離。	外面下胴部、底部に大きな黒斑あり。
〃	74	〃	壷					チャートの小礫、粗粒砂を含む。黄灰色。口縁部に径５㎜の焼成前穿孔を２個有する。外面櫛描か。内面ナデ。	
〃	75	〃	壷	15.3	(5.3)			チャート、他の細粗粒を含む。灰黄色。口唇部ナデで面取り。口縁部と頸部境に貼付突帯を施す。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
〃	76	〃	甕	21.0	4.0			チャート、他の粗粒砂を含む。黄茶色。口唇部強い横ナデ。内外面口縁部横ナデ。外面頸部縦ハケ。	
〃	77	〃	甕	18.5	(5.7)			チャートの粗粒を含む。黄茶色。口唇部の刻みは浅い。内外面口縁部強い横ナデ。上胴部に７条のヘラ描沈線帯を施す。	
〃	78	〃	甕	25.2	(3.5)			チャートの粗粒を含む。橙色。外面口縁部に２条の微隆起帯を貼付する。内外面横ナデ。	
〃	79	〃	甕	16.0	(4.4)			チャートの粗粒を含む。橙色。内外面口縁部横ナデ。上胴部に５条のヘラ描沈線帯を施す。	
〃	80	〃	甕	18.4	(4.2)			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。口唇部面取り。外面頸部縦ハケ。	
〃	81	〃	壷	16.0	4.1			チャート、他の粗粒砂を含む。橙色。口縁部に２～４㎜の焼成後の穿孔を有する。内外面ナデ。	
〃	82	〃	甕	24.8	11.0			チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。橙色。上胴部に４条のヘラ描沈線帯を施す。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	83	〃	甕	23.0	8.5			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面上胴部に３条のヘラ描沈線帯を施す。内外面調整不明。	頸部内面に小さな黒斑あり。
11	84	〃	甕					チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部強い横ナデ。外面口縁部に隆帯を貼付し指頭でつまむ。外面縦ハケ。	
〃	85	〃	甕	24.0	(5.0)			チャートの砂粒を多く含む。茶灰色。口唇部刻目。内外面口縁部強い横ナデ。上胴部に７条以上のヘラ描沈線帯、１条の刻目を施す。内面胴部横ナデ。	
〃	86	〃	甕	19.8	(5.4)			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。黄茶色。口唇部面取り。外面口縁部２条の隆帯貼付し指頭でつまみ、下端に爪形の圧痕列を残す。外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	
〃	87	〃	甕	20.5	(5.3)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。内外面口縁部強い横ナデ。	
〃	88	〃	甕	21.0	5.4			チャートの粗粒砂を含む。黄茶色。口唇部棒状工具によるにぶい圧痕。外面口縁部縦ハケ＋横ナデ。	
〃	89	〃	壷	14.1	(8.5)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面口縁部・胴部縦ハケ＋横ヘラ磨き。頸部に４条のヘラ描沈線帯を施す。	
〃	90	〃	壷底部		(5.7)		9.6	チャートの小礫、粗粒砂を含む。外面、白黄色。内面、橙色。内外面ナデか。	外面下胴部に黒斑あり。
〃	91	〃	甕底部		(5.7)		7.1	チャート、砂岩、頁岩の小礫を含む。橙色。内面ナデ。外面器表剥離。	
〃	92	〃	甕底部		(2.3)		7.0	チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面縦ハケ。内面ナデ。	外面煤ける。
〃	93	TR 8・10	小坏	7.5	1.7			赤色風化礫の粗粒を含む。橙色。内外面横ナデ。器表の荒れが激しい。	
〃	94	TR 7	坏	14.4	4.5		7.4	チャート、他の細粒を多く含む。白黄色。内外面横ナデ。底部糸切り。	
〃	95	TR 9	坏		4.6		3.6	長石、赤色風化礫の細粒を含む。茶色。内外面横ナデ。底部糸切り。	
〃	96	TR 8	坏	13.0	3.5			赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。橙色。内外面横ナデ。内外面摩耗が激しい。	
〃	97	〃	白磁Ⅳ類	16.0	3.9			灰白色。丸縁状口縁。外面胴部過半は露胎。白磁Ⅳ類。	
15	98	ST 1 P2-2		11.0	(2.0)			チャート、赤色風化礫を多く含む。桃色。外面口縁部に1.5cm幅の粘土帯を貼付。	
〃	99	ST1	鉢	13.0	(4.0)			チャート、他の粗粒砂を含む。橙色。内外面ナデ。	
〃	100	〃	甕	15.8	(2.4)			チャートの粗粒砂を含む。薄茶色。外面頸部縦ハケ。内面口縁部横ハケ。	
〃	101	〃	壷	22.4	(2.5)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。口唇部、内外面口縁部横ナデ。	
16	102	ST 1 P1-3	高坏脚部		2.5		16.0	チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面縦ハケ。外面裾部横ナデ。	

遺物観察表（土器）4

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
16	103	ST 1	高坏脚部		(2.0)		13.5	チャート、他の細粗粒砂を含む。薄茶色。外面ナデ。内面横ハケ。	
〃	104	〃	高坏	(14.0)	(3.0)			チャート、赤色風化礫を多く含む。充填部剥離。	
〃	105	〃	高坏	22.0				チャート、長石の細・粗粒砂を含む。暗茶色。内外面横ナデ。	
〃	106	〃	高坏					チャートの粗粒を含む。茶色。外面脚部に焼成後の不貫通刺突を認める。	
〃	107	〃	甕底部		(5.7)		5.8	チャートの粗粒を多く含む。桃色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	108	〃	甕底部		(7.0)		6.2	チャートの粗粒を多く含む。外面橙色。内面灰色。外面縦ハケ＋ナデ。内面ナデ。	
〃	109	〃	壷底部		(5.7)		8.6	チャートの粗粒を多く含む。外面橙色。内面黒色。外面縦ハケ＋縦ヘラ磨き。	底部付近に黒斑あり。
17	111	ST 2	壷		23.5	17.0	5.2	チャートの小礫、粗粒砂を含む。淡茶色。内面に粘土の接合痕が認められる。	胴部下半に被熱赤変。外面底部に黒斑あり。
〃	112	〃	甕	14.8	(3.0)			チャートの細粒砂を多く含む。橙色。内外面口縁部横ナデ。外面胴部縦ハケ。	被熱赤変。
〃	113	〃	鉢	11.5	(3.3)			チャートの細・粗粒砂を多く含む。灰褐色。外面縦ハケ＋ナデ。内面縦ハケ。	内面煤ける。
〃	114	〃	甕	20.4	(8.5)			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙色。外面胴部縦ハケ。	外面煤ける。
〃	115	〃	甕底部		(6.5)		4.6	チャートの小礫、粗粒砂を含む。外面桃色。内面黒色。外面縦ハケ＋ナデ。内面ナデ。	底部付近に黒斑あり。被熱赤変。
〃	116	〃	壷底部		(4.0)			チャート、砂岩の粗粒砂を含む。外面橙色。内面黒色。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	117	〃	高坏	24.0	(2.7)			チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。接合部で剥離。器表の荒れが激しい。	
〃	118	〃	高坏	25.7	(2.7)			チャート、赤色風化礫を多く含む。橙色。接合部で剥離。器表の荒れが激しい。	
〃	119	〃	高坏脚部		(2.8)		14.0	チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。外面ナデ。内面横ハケ。	
19	122	SK11	鉢	13.0	6.7			チャートの粗粒を含む。薄茶色。内外面ナデ。	外面に大きな黒斑あり。
〃	123	〃	壷底部		5.2		7.0	チャートの細粗粒砂を含む。橙色。内外面ナデ。	
〃	124	〃	壷底部		3.0		7.0	チャート、長石の粗粒砂を含む。外面橙色。内面黒色。外面縦ハケ。	
20	125	SK12	壷	15.5	6.8			チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。内外面ナデ調整か。	
〃	126	〃	壷	16.2	9.5			チャートの小礫を含む。橙色。口唇部強い横ナデ。内外面口縁部横ナデ。外面頸部・胴部縦ハケ。	
〃	127	〃	甕	16.0	12.5			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。内外面口縁部横ナデ。外面胴部縦ハケ、内面下→上方向のヘラ削り。	頸部以外強く煤ける。胴部に大きな黒斑あり。
〃	128	SK13	甕	14.2	9.0			チャートの小礫を多く含む。橙色。外面胴部叩き。内面指ナデ。指頭圧痕が認められる。	外面煤ける。
〃	129	SK12	壷	8.4	(15.0)			チャートの粗粒砂を含む。外面橙色。内面濃茶色。外面ヘラ磨き。内面ナデ。外面剥離が激しい。	
〃	130	〃	甕	12.0	26.0			チャート、赤色風化礫、他の粗粒砂を含む。橙色。口唇部面取り。外面胴部ナデ、内面下→上方向のヘラ削り。削りは頸部直下に及ぶが頸部付近はナデ消す。	外面煤ける。
〃	131	〃	高坏					チャート、他の細粒を含む。白桃色。外面脚部縦ハケ＋磨き。	
21	132	SK21	甕底部		4.5		10.0	チャートの粗粒、雲母細粒を含む。黄茶色。外面縦ハケ。	
22	133	SD 1 P 6	ミニチュア	5.2	4.0			チャート、赤色風化礫の粗粒を多く含む。橙色。	
〃	134	SD 1	甕	13.0	3.8			チャートの細粒を含む。橙色。口唇部強いナデにより面取り。外面口縁部縦ハケ＋ナデ、内面横ハケ＋横ナデ。	
〃	135	〃	壷底部		(5.0)		5.5	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。外面橙色。内面黄褐色。外面縦ハケ。内面下→上方向の削り。	
23	136	SD 2	壷					チャート、結晶変岩、雲母を含む。茶色。多条の沈線＋双線による山形文を配す。	
〃	137	〃	壷					チャートの砂粒を多く含む。黄茶色。櫛描直線文、波状文を配す。	
〃	138	〃	壷					チャート、他の粗・細粒砂を含む。黄茶色。４条のヘラ描沈線帯と２条の扁平な刻目突帯を施す。内面ヘラ磨き。	
〃	139	〃	壷					チャートの小礫、粗粒砂を含む。茶色。ヘラ描沈線帯４条まで認める。内外面ナデ。	
〃	140	〃	壷					チャートの粗粒砂を含む。外面黄白色。内面黄茶色。外面縦ハケ＋ナデ。ヘラ描沈線帯２条を認める。	
〃	141	〃	甕					チャート、赤色風化礫を含む。薄茶色。上胴部に微隆起帯３条貼付。外面頸部丁寧なナデ。外面胴部粗雑なナデ。内面横方向のナデ。	頸部に大きな黒斑あり。
〃	142	〃	甕					チャートの粗粒を多く含む。桃色。ヘラ描沈線帯を２条まで認める。逆Ｌ字口縁。	
〃	143	〃	壷底部		(2.8)		7.2	チャートの粗粒、小礫を多く含む。橙色。内外面ナデ。	
〃	144	〃	甕底部		4.0		9.0	チャートの粗粒砂を多く含む。茶色。内外面ナデ。	
〃	145	〃	甕底部		(4.4)		7.4	チャートの小礫を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。	

遺物観察表（土器）5

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
23	146	SD 2	甕底部		(5.3)		7.2	チャートの小礫～粗・細粒砂を含む。茶色。外面縦ハケ。	
〃	147	〃	壷底部		(4.2)		11.1	チャートの小礫を多く含む。黄橙色。外面縦ハケ＋ナデ。内面ナデ。	
〃	148	〃	甕底部		(5.0)		7.2	チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ。	外面煤ける。被熱赤変
〃	149	〃	壷底部		(6.3)		(10.6)	チャート、頁岩の砂粒を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ＋ナデ、底部付近削り。内面指頭による横ナデ。	
〃	150	〃	壷					チャート細・粗粒を含む。橙色。ヘラ描沈線帯7条まで認める。	
〃	151	〃	壷					チャート、他の細・粗粒砂を含む。橙色。断面三角の小突帯を貼付。櫛描波状文を配す。	
〃	152	〃	壷					チャートの粗粒、赤色風化礫、雲母を含む。黄茶色。頸部に5条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	153	〃	壷					チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。断面三角小突帯を貼付。内外面ナデ。	
〃	154	〃	壷					チャートの粗粒砂を含む。外面茶色。内面薄茶色。外面3条のヘラ描沈線帯を認める。内外面ナデ。	
〃	155	〃	甕	24.0	(4.8)			チャートの粗・細粒を含む。橙色。口縁部下端をつまみ出して横ナデ、突帯状を呈す。口縁部下端に刻目。外面胴部縦ハケ。	
〃	156	〃	壷	18.0	2.2			チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。口唇部横ナデして面取り。外面口縁部縦ハケ、内面横ハケ＋ナデ。	口頸部に黒斑あり。
〃	157	〃	甕	19.0	(6.7)			チャート、赤色風化礫の小礫を多く含む。橙色。外面縦ハケ。頸部・胴部境にヘラ描沈線帯2条を認める。	
〃	158	〃	甕底部		(2.8)		5.9	チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。内外面ナデ。	
〃	159	〃	甕底部		(3.1)		7.4	チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	160	〃	壷底部				11.4	チャートの粗・細粒砂、雲母細粒を多く含む。橙色。内外面ナデ。	
〃	161	〃	壷底部		(4.0)		8.0	チャート、結晶変岩の粗粒砂を多く含む。白桃色。内外面ナデ。	
〃	162	〃	壷底部		(5.8)		10.2	雲母細粒、チャート、頁岩の粗粒、赤色風化礫の粗粒を多く含む。黄桃色。内外面ナデ。	
〃	163	〃			(4.3)		9.5	チャート、赤色風化礫の砂粒を多く含む。桃色。内外面ナデ。	
24	164	SD 5	甕	18.0	(2.5)			チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。黄茶色。内外面ナデ。	
25	165	SX 1	壷					チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。橙色。外面櫛描直線文＋扁平な刻目突帯を貼付。	
〃	166	〃	壷					チャートの粗粒砂を多く含む。茶色。外面6条のヘラ描沈線帯を認める。外面横ハケ。内面ナデ。	
〃	167	〃	壷	12.1	(3.5)			チャート、他の粗粒砂を含む。茶色。口唇部横ナデ、上下に刻目。頸部に2条のヘラ描沈線帯とその下に扁平な刻目突帯を1条認める。口縁部内→外に刺突文。内面口縁部には扁平突帯の剥離痕を認める。内外面横ナデ。	
〃	168	〃	壷	13.0	(2.8)			チャートの粗粒を含む。薄茶色。外面縦方向のハケ。内面横方向のハケ。	
〃	169	〃	壷	11.3	(7.9)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。口縁部つまみ出し強い横ナデ。外面に多条沈線と2列の刺突列点文を有する。	
〃	170	〃	壷	16.0	(3.6)			チャートの粗粒を多く含む。灰茶色。外面に扁平な粘土帯を埋め込むように貼付し指で押さえる。	
〃	171	〃	甕	20.0	(3.5)			チャートの粗粒砂を多く含む。茶色。内外面口縁部横ナデ。口縁部下にヘラ描沈線帯を1条確認。	
〃	172	〃	壷	17.3	(6.0)			チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ＋ナデ。内面口縁部横ハケ。	
26	173	〃	壷	20.2	(10.8)			チャートの粗粒砂、長石細粒砂を多く含む。橙色。外面に11条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	174	〃	壷	16.3	(18.0)			チャート、赤色風化礫を多く含む。黄茶色。外面頸部に多条沈線と扁平な刻目突帯貼付。外面胴部縦ハケ。	
〃	175	〃	甕					チャートの細粒砂を含む。橙色。外面縦ハケ。ヘラ描沈線帯を3条認める。	
〃	176	〃	甕					チャート、他の細・粗粒砂を含む。黒色。上胴部に4条の微隆起帯を貼付。	
〃	177	〃	甕					チャート、長石の細・粗粒を含む。薄茶色。外面縦ハケ。上胴部に3条までヘラ描沈線帯、頸部に双線の垂下線を認める。	
〃	178	〃	甕					チャートの粗粒砂を含む。外面暗茶色。内面エビ茶色。上胴部に微隆起帯を2条貼付し指で押さえる。外面文様帯の上下で調整が異なる。	
〃	179	〃	甕	18.2	(3.8)			チャートの粗粒砂、長石の細粒砂を含む。橙色。外面口縁部に断面三角の小突帯を貼付し指頭でつまむ。内傾接合。接合部で剥離。	
〃	180	〃	甕					チャートの粗粒砂を含む。黄茶色。上胴部に3条の小突帯を貼付し指で押さえる。外面文様帯の上胴部縦ハケ、下胴部横ナデ。	外面煤ける。
〃	181	〃	甕	19.7	(6.7)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。口唇部ハケ状原体による刻目。外面口縁部横ハケ＋指押さえ、上胴部にヘラ描沈線帯を7条認める。胴部縦ハケ。内面口縁部横ハケ＋ナデ。	
〃	182	〃	甕	19.2	(5.9)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ。外面に7条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	183	〃	甕	21.1	(5.0)			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。口唇部刻目。外面口縁部強い横ナデ。外面頸部に8条の垂下条線を配す。外面縦ハケ。	

遺物観察表（土器）6

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
25	184	SX 1	甕	22.7	(7.9)			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。薄茶色。口縁部下端つまみ出して強い横ナデ。外面口頸部右下りの丁寧なナデ、胴部横方向の荒いナデ。内面横ハケ。	
〃	185	〃	甕	18.4	(4.5)			チャートの粗粒、雲母を含む。茶黄色。外面縦ハケ。	外面煤ける。
〃	186	〃	甕	32.0	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。内外面器表の荒れが激しい。	内外面煤ける。
〃	187	〃	甕	23.0	13.0			チャートの粗粒砂を多く含み、雲母、石英粒を含む。橙色。口縁部下に突帯。突帯下に4条までヘラ描沈線帯を認める。	
〃	188	〃	甕	27.5	(9.0)			チャートの細粗粒砂を含む。桃色。口縁部下に1条の微隆起帯を貼付。	
〃	189	〃	甕	30.0	(2.2)			チャートの細粒砂を多く含む。桃色。逆L字口縁。	
27	190	〃	高坏脚部		(3.0)		12.7	チャートの粗粒を含む。黄茶色。外面縦ハケ。	
〃	191	〃	甕底部				3.6	チャート細・粗粒砂を含む。薄茶色。内面ナデ。	外面煤ける。被熱赤変。
〃	192	〃	甕底部		(5.0)		5.8	チャート、赤色風化礫の粗粒を含む。茶色。外面縦ハケ。底部は台形。	外面煤ける。
〃	193	〃	甕底部		(5.0)		7.8	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ。	外面被熱赤変。
〃	194	〃	壷底部		(4.8)		9.0	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。	
〃	195	〃	甕底部		(6.0)		8.2	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ、底部磨き。	外面被熱赤変。
〃	196	〃	壷底部		(6.0)		10.7	チャート、赤色粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	197	〃	甕底部		(6.4)		10.1	チャート、赤色風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。茶色。調整不明。	外面煤ける。内面底から5cm程上から煤ける。
〃	198	〃	甕底部		(5.8)		8.3	チャートの細・粗粒砂、雲母、長石の細粒砂を多く含む。灰茶色。外面縦ハケ。	
〃	199	〃	壷底部		(6.5)		6.8	チャートの粗粒砂を含む。茶色。外面縦ハケ＋ヘラ磨き。	
〃	200	〃	壷底部		(5.9)		9.8	チャート、赤色風化礫の小礫・粗粒を多く含む。薄茶色。内外面調整不明。	
〃	201	〃	壷底部		(6.2)		10.6	チャートの細・粗粒砂を含む。黄茶色。外面底部に叩き痕を認める。	内外面わずかに煤ける。
28	204	P21	壷			33.0	9.0	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面叩き、大半を縦ハケで消す。内面上部に横ハケ、中位以下は指ナデ。	外面胴部付近に大きな黒斑あり。
29	205	P50	高坏	27.5	8.6			チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。内外面口縁部横ヘラ磨き。外面坏部縦方向のヘラ磨き。	
〃	206	〃	壷	19.0	40.2			チャート、他の粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部面取り。口縁部は強い横ナデ。外面口縁部下に段部、頸部下端に太い刺突文を有する。外面縦ハケ。内面上胴部横ハケ、下胴部縦ハケ。	
30	207	P221	壷					チャートの細・粗粒砂を含む。薄茶色。外面に櫛描直線文と扁平な刻目突帯を貼付。	
〃	208	P234	壷					チャートの砂粒を多く含む。黄茶色。外面に6条のヘラ描沈線帯と扁平な刻目突帯を1条認める。内外面ナデ。	
〃	209	P217	壷					チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。櫛描直線文と扁平な刻目突帯を貼付。	
〃	210	P225	甕					チャート、赤色風化礫を含む。薄茶色。上胴部に2条の微隆起帯を貼付。	
〃	211	P234	壷					チャート、赤色風化礫を含む。薄茶色。小突帯を2条貼付。内外面ナデ。	
〃	212	P225	壷					チャートの砂粒を多く含む。灰茶色。ヘラ描沈線帯を3条まで認める。外面横ハケ。	
〃	213	P234	壷	17.0	(4.0)			チャートの細・粗粒砂を多く含む。橙色。内面口縁部に太い断面三角突帯を貼付。内外面ナデ。	
〃	214	P177	甕					赤色風化礫の粗粒、雲母を多く含む。薄茶色。上胴部に4条のヘラ描沈線帯を認める。外面磨き。	外面胴部黒斑あり。
〃	215	P234	甕	23.7	(7.7)			チャート、長石、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。薄茶色。外面口縁部強い横ナデ。外面ナデ。内面横ハケ。	
〃	216	P221	甕底部		(4.0)		6.5	チャート、赤色風化礫の粗粒を含む。薄茶色。外面縦ハケ。	外面煤ける。
〃	217	P267	甕底部		(5.0)		5.7	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ。	外面被熱赤変。
〃	218	P290	壷底部		(4.0)		7.2	チャートの粗粒を多く含む。内面黄茶色。	外面被熱赤変。
〃	219	P169	壷底部		(5.9)		7.4	チャート、赤色風化礫、頁岩の粗粒砂を含む。橙色。器表の荒れが激しい。	底部外面に黒斑あり。
31	220	集石 2	壷					チャートの細・粗粒砂を含む。桃色。断面三角の小突帯2条貼付。稚拙な櫛描波状文を有する。	
〃	221	〃	壷底部		(2.4)		5.4	チャート、頁岩粗粒を多く含む。茶色。内外面ナデ。	
〃	222	〃	壷底部		(5.0)		(7.0)	チャートの粗・細粒砂を多く含む。外面淡桃色。内面黒色。	被熱赤変。
32	223	集石 3	壷					チャートの粗・細粒砂を多く含む。黄灰色。外面7条のヘラ描沈線帯と1条の扁平な刻目突帯が認められる。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	224	〃	壷					チャート、赤色風化礫の粗粒を多く含む。橙色。断面三角のしっかりした突帯を貼付、棒状工具で深く刻む。ヘラ描沈線帯を7条まで認める。	
〃	225	〃	壷					チャート、雲母の細・粗粒砂を含む。茶色。7条のヘラ描沈線帯をはさんで、上下に双線による山形文を配す。	
〃	226	〃	甕	18.5	(3.5)			チャート、長石、赤色風化礫の粗粒を含む。橙色。外面口縁部幅2cmの粘土帯を貼付して指で押さえる。	

遺物観察表（土器）7

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
32	227	集石３	壷	14.0	5.6			チャート、他の細・粗粒砂を含む。橙色。口唇部細いヘラ描沈線帯。外面口縁部縦ハケ＋磨き、指頭圧痕を認める。内面強い横ナデ。擬口縁。	
〃	228	〃	壷	16.0	4.8			チャートの小礫～細粒砂、結晶変岩を含む。薄茶色。口唇部１条のヘラ描沈線帯＋刻目。外面口縁部縦ハケ＋部分的な磨き。内面横ナデ。	
〃	229	〃	甕	22.0	3.1			チャートの粗粒砂を含む。薄茶色。口唇部刻目。内外面口縁部横ハケ＋ナデ。１条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	230	〃	壷底部		(4.0)		7.5	チャート、赤色風化礫の粗細粒砂を含む。黄茶色。	
〃	231	〃	甕底部		(5.0)			チャートの小礫、頁岩粗粒砂を多く含む。黄橙色。	
〃	232	〃	壷底部		4.3		9.0	チャート、雲母砂粒を含む。外面桃茶色。内面黒色。外面縦ハケ＋縦ヘラ磨き。	
〃	233	〃	壷底部		4.5		8.6	チャートの砂粒、雲母細粒、赤色風化礫砂粒を多く含む。橙色。内外面ナデ。	
〃	234	〃	甕底部		(4.0)		7.2	赤色風化礫、チャートの砂粒を多く含む。橙色。外面縦ハケ。	
〃	235	〃	甕底部		(6.2)		12.9	雲母細粒、チャート、赤色風化礫の粗・細粒砂を含む。橙色。内外面ナデ。底部円盤剥離。	
34	236	SB２ P256	土師器小皿	9.0	1.5		6.0	チャート、雲母細粒を含む。薄茶色。底部糸切り。	
35	237	SK14	高坏	22.5	(5.1)			チャートの細・粗粒、雲母を少し含む。橙色。外面口縁部横ハケ＋ナデ、体部横ハケ。内面ヘラ磨き。	
〃	238	〃	高坏	28.0	(5.0)			チャート、赤色風化礫の粗・細粒砂を含む。薄茶色。外面口縁部横ナデ、内面ヘラ磨き。外面体部磨きか。内面縦ハケ。	
36	240	SD4	瓦器火鉢	11.0	6.5			灰色。精緻な胎土。	
〃	241	SX3	土師器坏	16.0	(3.3)			チャートの細粒砂を含む。白桃色。外面轆轤横ナデ痕が認められる。	
40	242	包含層	壷					チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。口唇部は面取り。口縁端部をわずかに下方に拡張。内面口縁部に断面三角の太い突帯を貼付。外面にヘラ描沈線帯を１条認める。外面わずかにヘラ磨き。	
〃	243	〃	壷					チャート、赤色風化礫を多く含む。黄茶色。２条の隆帯を貼付し指頭でつまむ。	
〃	244	〃	壷					チャート、頁岩の粗粒砂を含む。橙色。太いヘラ描沈線帯を４条認める。外面横方向ハケ。	
〃	245	〃	壷					チャートの粗粒を多く含む。灰茶色。ヘラ描沈線帯の間に双線による山形文を配す。	
〃	246	〃	壷					長石を少量、石英粗粒を多く含む。淡茶色。上下に２～３条のヘラ描沈線帯を施し、その間に扁平な刻目突帯を貼付。搬入品の可能性がある。	
〃	247	〃	壷					チャート、風化礫の細粒を多く含む。橙色。外面に多条の沈線、沈線間に刺突列点文を配す。	
〃	248	〃	壷	18.0	(3.5)			チャートの粗・細粒砂を含む。黄茶色。外面ヘラ描沈線帯を１条認める。内外面横ナデ。	
〃	249	〃	壷	11.5	(6.0)			チャートの粗粒砂、赤色風化礫を含む。橙色。頸部に７条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	250	〃	壷	14.0	7.5			チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。口縁部に４～５㎜の小孔をめぐらし、その外側に小突帯を貼付。外面頸部ヘラによる多条の沈線と扁平な刻目突帯を埋め込むように貼付する。外面縦ハケ。	
〃	251	〃	壷	14.7	(5.0)			チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。淡茶色。外面縦ハケ。内面横ハケ＋ナデ。	
〃	252	〃	壷	15.0	(6.5)			チャートの粗粒砂を多く含む。茶黄色。頸部にヘラ描沈線帯を５条認める。内外面ナデ。	
〃	253	〃	壷	12.0	(8.5)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。頸部にヘラ描沈線帯を17条認める。外面ハケ調整。	
〃	254	〃	壷					チャートの粗粒砂を多く含む。淡黄色。外面６条のヘラ描沈線帯の下に刺突文。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
〃	255	〃	壷	12.8	9.2			チャート、赤色風化礫、長石の粗・細粒砂を含む。橙色。口唇部強い横ナデ。内外面口縁部強い横ナデ。外面頸部縦ハケ。内外面指頭圧痕がみられる。	
〃	256	〃	壷	18.0	(6.0)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面縦ハケ＋ナデ。内面右下りのハケ。	
〃	257	〃	壷		(4.2)			チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。外面に櫛描直線文＋４条の扁平な刻目突帯＋山形文を配す。外面縦ハケ。赤彩か。	胴部に大きな黒斑
〃	258	〃	壷	17.0	(10.0)			赤色風化礫、チャートの砂粒を多く含む。黄茶色。外面頸部に５条の扁平な粘土帯、土器胎土と粘土帯の粘土は異なる。粘土帯間には沈線が施されているが摩耗が激しく単位不明。内面口縁部に１条の扁平突帯と刺突文列を有する。	
〃	259	〃	壷					チャート、赤色風化礫を多く含む。淡茶色。外面に２条の刻目突帯、刻目に布圧痕を認める。その下に４条のヘラ描沈線帯を施す。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
〃	260	〃	壷		(6.7)			チャートの細・粗粒砂を含む。黄茶色。外面にヘラ描沈線帯を２条認める。沈線帯間に円形浮文を配す。外面赤彩。	
〃	261	〃	壷		(9.3)			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面に14条までヘラ描沈線帯、扁平な刻目突帯１条を認める。	

遺物観察表（土器）8

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
40	262	包含層	壷	22.0	(12.8)			チャート、頁岩の粗粒砂を含む。橙色。内面口縁部に断面三角の突帯。外面に14条のヘラ描沈線帯を施し、１条の扁平な刻帯を貼付。	
41	263	〃	壷					チャート、他の細・粗粒砂を多く含む。黄茶色。上胴部に櫛描直線文＋円形浮文。胴部中位に１条のヘラ描沈線帯＋扁平刻目粘土帯＋櫛描直線文＋扁平刻目粘土帯＋櫛描直線文＋扁平刻目粘土帯を配する。外面縦ハケ＋ナデ。	
〃	264	〃	壷	18.8			(3.5)	チャート、他の粗粒砂を含む。橙色。口唇部、外面口縁部横ナデ、頸部に２条のヘラ描沈線帯を認める。内面口縁部ヘラ磨き。内面口縁部に粘土帯を貼付。	
〃	265	〃	壷	23.5	(11.5)			チャート、他の粗粒砂を多く含む。橙色。外面頸部に15条のヘラ描沈線帯を施す。外面縦ハケ。内面横ヘラ磨き。	
〃	266	〃	壷					チャートの粗粒砂を多く含む。赤茶色。上胴部に12条のヘラ描沈線帯、沈線に重なり部分がある。外面上部縦方向、下半横方向を基調とするハケ調整。内面ヘラ磨き。内面に黒色物が付着する。	外面被熱赤変。
〃	267	〃	甕					チャート、長石の細粒砂を含む。逆Ｌ字口縁。口唇部刻目。外面にヘラ描沈線帯を３条まで認める。	外面煤ける。
〃	268	〃	甕					チャートの粗粒を多く含む。淡茶色。逆Ｌ字口縁。口唇部刻目。	口唇部煤ける。
〃	269	〃	甕					チャートの粗粒を多く含む。橙色。断面三角の突帯を貼付し指頭でつまむ。	
〃	270	〃	甕					チャートの粗粒砂を多く含む。灰黄色。口唇部ハケ状原体による刻目。内外面口縁部横ナデ、以下縦ハケ。外面に垂下条線を認める。内面横ハケ。	
〃	271	〃	甕					石英、チャート、長石の粗・細粒砂を含む。茶灰色。逆Ｌ字口縁。口唇部刻目。外面にヘラ描沈線帯を２条まで認める。	口唇部煤ける。
〃	272	〃	甕					チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部刻目。外面ナデ。内面横ハケ。	外面煤ける。
〃	273	〃	甕					チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。上胴部は爪状原体の連続圧痕により３条の隆帯をつくり出している。外面上半は丁寧なナデ、下半は荒いナデ。	
〃	274	〃	甕	17.4	(4.0)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。口唇部面取り。外面縦ハケ。内面横ハケ。	外面被熱赤変。
〃	275	〃	甕	16.6	(4.5)			チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面口縁部強い横ナデ。内外面ナデ。	
〃	276	〃	甕	18.0	(6.0)			チャートの粗粒を含む。黄茶色。逆Ｌ字口縁。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	277	〃	甕					赤色風化礫を含む。淡茶色。口唇部刻目。外面口縁部に刻目突帯。外面縦ハケ。内面横ハケ。	外面煤ける。
〃	278	〃	壷	19.0	5.0			チャート、風化礫を含む。橙色。口唇部上下に刻目。外面上胴部にヘラ描沈線帯＋扁平な刻目突帯を施す。	
〃	279	〃	壷	19.7	(4.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。内外面横ナデ。	
〃	280	〃	甕	19.0	(6.5)			チャート、風化礫、他の粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部下に２条の小隆帯を貼付。内外面ナデ調整。	
〃	281	〃	甕	21.8	(8.0)			チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。橙色。逆Ｌ字口縁。口唇部刻目。口縁部が接合部で剥離、下地にハケ調整がある。外面縦ハケ。	
〃	282	〃	甕	17.0	(5.0)			チャート、他の細・粗粒砂を含む。茶色。内外面口縁部横ナデ。外面頸部縦ハケ。内面横ナデ。	
〃	283	〃	甕					チャート、風化礫の粗粒を多く含む。橙色。外面頸部に双状原体による垂下条線、上胴部に８条のヘラ描沈線帯を認める。	外面煤ける。
〃	284	〃	甕	20.8	(5.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。上胴部にヘラ描沈線帯を６条認める。外面胴部縦ハケ。	
〃	285	〃	甕	21.6	(5.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部上下細い刻目。外面頸部にヘラ描沈線帯を６条まで認める。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
42	286	〃	甕	22.4	7.0			チャートの粗粒を含む。橙色。口唇部上端に細い刻目、下端はつまみ出し。外面縦ハケ。内面右下りハケ。	
〃	287	〃	甕	12.7	(3.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部刻目。内面指ナデ。	
〃	288	〃	甕	24.0	(4.3)			チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。灰黄色。内外面ナデ調整。	
〃	289	〃	甕	22.6	(7.0)			チャートの粗粒を多く含む。茶色。外面ナデ。内面横ハケ。	外面煤ける。
〃	290	〃	甕					チャート、頁岩を多く含む。黄茶色。外面上胴部に棒状工具による３条のヘラ描沈線帯を認める。外面縦ハケ。	外面煤ける。
〃	291	〃	甕	23.0	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口唇部面取り。口縁部は下方につまみ出す。内外面ナデ。	
〃	292	〃	甕	26.0	(4.7)			チャート、他の粗粒砂を含む。桃色。口唇部下端つまみ出し＋横ナデ。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
〃	293	〃	甕					チャート、他の細粒を含む。茶色。外面頸部・胴部境に小突帯を貼付し指頭でつまむ。外面頸部ナデ、胴上部横ハケ、中位以下弱い擦痕＋ナデ。	外面胴部煤ける。
〃	294	〃	甕	28.4	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。淡茶色。口唇部刻目。外面口縁部指頭圧痕。上胴部にヘラ描沈線帯を４条認める。	
〃	295	〃	甕		(9.7)			チャート、赤色風化礫粗粒砂を含む。橙色。外面にヘラ描沈線帯を18条まで認める。沈線間には双線の山形文を配す。外面縦ハケ。	
〃	296	〃	甕	17.0	(5.0)			チャートの粗粒を含む。桃色。口唇部ナデ。外面口縁部横ナデ。内面横ハケ。	

遺物観察表（土器）9

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
42	297	包含層	甕	34.4	6.1			チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。橙色。口唇部に沈線と上下に刻目を有する。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
〃	298	〃	甕		11.0			チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。外面上胴部に6条のヘラ描沈線帯を認める。外面縦ハケ。内面口縁部横ハケ。	外面煤ける。
〃	299	〃	甕	29.3	(10.9)			チャート、風化礫を多く含む。茶灰色。口唇部は下端をつまみ出し横ナデ。外面に5条のヘラ描沈線帯を認める。	
〃	300	〃	甕	14.0	(11.5)			チャート、赤色風化礫を多く含む。橙色。口唇部強い横ナデ。外面縦ハケ。	外面煤ける。
43	301	〃	手づくね	7.4	(4.5)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。内外面指頭圧痕。	
〃	302	〃	蓋		(1.5)		17.0	チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ＋ナデ。	
〃	303	〃	蓋		(4.0)		28.0	チャートの粗粒を含む。橙色。外面縦ハケ。内面ナデ。	内面口縁部は環状に煤ける。
〃	304	〃	蓋	7.4	(11.0)			チャート、他の粗粒砂を多く含む。外面橙色。内面濃茶色。天井部水平。外面縦ハケ。内面横ハケ。外面は変色。	内外面激しく煤ける。
〃	305	〃	甕底部		(5.0)		7.0	チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。	
〃	306	〃	甕底部		(4.0)		8.0	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。	外面煤ける。
〃	307	〃	甕底部		(3.5)		5.9	チャートの粗粒を多く含む。桃色。底部に指頭圧痕。	
〃	308	〃	甕底部		(5.5)		6.6	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。底部脇に指頭圧痕顕著。	
〃	309	〃	甕底部		(4.0)		6.0	チャートの細・粗粒砂を多く含む。黄茶色。	底部に黒斑あり。
〃	310	〃	甕底部		(5.0)		7.0	チャート、他の粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。	外面被熱赤変。
〃	311	〃	甕底部		(6.0)		8.8	チャート、赤色風化礫を多く含む。薄茶色。内外面ナデ。外面指頭圧痕顕著。	外面被熱赤変。
〃	312	〃	甕底部		(3.9)		8.5	チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。	外面煤ける。
〃	313	〃	甕底部		(4.6)		7.2	チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む。橙色。外面縦ハケ。	
〃	314	〃	甕底部		(4.8)		6.4	チャートの粗粒を多く含む。橙色。外面縦ハケ。	
〃	315	〃	壷底部		5.0		6.5	チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。外面縦ハケ＋ナデ。	
〃	316	〃	甕底部		(5.0)		7.0	チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	317	〃			5.0		8.0	チャート、他の粗粒砂を多く含む。外面桃色。内面黄茶色。外面縦ハケ＋ヘラ磨き。内面ナデ。	外面被熱赤変。
〃	318	〃	壷底部		(3.0)		11.3	チャートの粗粒を含む。茶色。外面縦ハケ。内面横ハケ。底部は接合部で剥離。	
〃	319	〃	壷底部		(4.4)		9.0	チャートの細・粗粒砂を含む。外面茶色。内面暗灰色。外面縦ハケ。	
〃	320	〃	甕底部		(5.7)		10.0	チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	321	〃	甕底部		(5.0)		9.0	チャートの粗粒砂を多く含む。外面薄茶色。内面灰色。外面縦ハケ。内面ナデ。	外面被熱赤変。
〃	322	〃	壷底部		(6.7)		8.8	チャート、赤色風化礫の粗・細粒を多く含む。橙色。内外面指ナデ。	下胴部から底部にかけて大きな黒斑あり。
〃	323	〃	壷底部		(5.3)		9.4	チャートの粗粒砂を多く含む。外面橙色。内面灰茶色。	外面の一部被熱赤変。
〃	324	〃	壷底部		(4.0)		10.0	チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ＋ヘラ磨き。	
〃	325	〃	壷底部		(3.9)		9.4	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面ヘラ磨き。内面ナデ。	下胴部に黒斑あり。
〃	326	〃	壷底部		(5.0)		9.0	チャート、頁岩、他の砂粒を多く含む。薄茶色。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	327	〃	壷底部		(6.5)		10.7	チャート、赤色風化礫を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。内面ナデ。	
〃	328	〃	壷底部		(6.5)		9.5	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。橙色。内外面ナデか。	
〃	329	〃	壷底部		(8.0)		9.5	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。橙色。内外面器表の荒れが激しい。	
44	335	〃	小坏	7.2	1.5			精選された胎土。橙色。底部糸切り。	
〃	336	〃	坏	15.4	(4.4)			赤色風化礫の細粒砂を多く含む。明茶色。内外面横ナデ。	
〃	337	〃	高坏					長石、雲母の細粒、チャートの粗粒砂を多く含む。暗茶色。内外面ナデか。	

遺物観察表（石器）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				全長	全幅	全厚	重量		
10	69	TR 1	石鏃	1.2	1.3	0.2	0.32g	サヌカイト。凹基式。先端部欠損。裏面に大きな主剥離面あり。	
16	110	ST 1	叩石	11.0	8.1	3.5	495g	一方の主面の中央と側縁の一部に使用痕が認められる。	
18	120	ST 2	石包丁	3.2	9.9	1.5	78.72g	頁岩。両側抉り。一方の主面は研磨がみられるが、他方の主面は自然面や剥離面を多く残す。刃部は摩耗している。	
〃	121	〃	石包丁	7.3	4.7	0.8	35.92g	一方の側縁に抉り。刃部は細な剥離。背部は荒い剥離。	
27	202	SX 1	石包丁	6.2	10.4	1.6	109.61g	頁岩。未製品での欠損。両主面は研磨され、中央部に叩打痕が認められる。	
〃	203	〃	叩石	9.8	6.8	1.4	120.0g	砂岩。外縁部に使用痕が認められる。	
35	239	SK14	石包丁	5.4	8.5	1.0	61.17g	頁岩。両端に弱い抉りが認められる。刃部中央部にコーングロス顕著。	
44	330	包含層	石包丁	4.5	6.8	1.0	51.61g	結晶変岩。両主面研磨。7～8㎜の円孔を両側から穿孔。背部丸味をもつ。刃部片刃。	
〃	331	〃	石包丁	5.8	4.1	0.8	22.23g	頁岩。孔の一部が認められる。片刃。背面は丸味をもつ。	
〃	332	〃	太形蛤刃石斧	7.2	2.9	1.8	73.96g	結晶変岩。側縁と刃部の一部が残る。器表は丁寧な研磨。	
〃	333	〃	柱状片刃石斧	3.2	2.3	0.8	13.84g	結晶変岩。	
〃	334	〃		17.9	11.8	8.2	370g	軽石。	

写真図版

調査区全景

TR 1 西壁

TR 1 遺物検出状況

TR 1 遺物検出状況

TR 3 南壁

TR 4 西壁

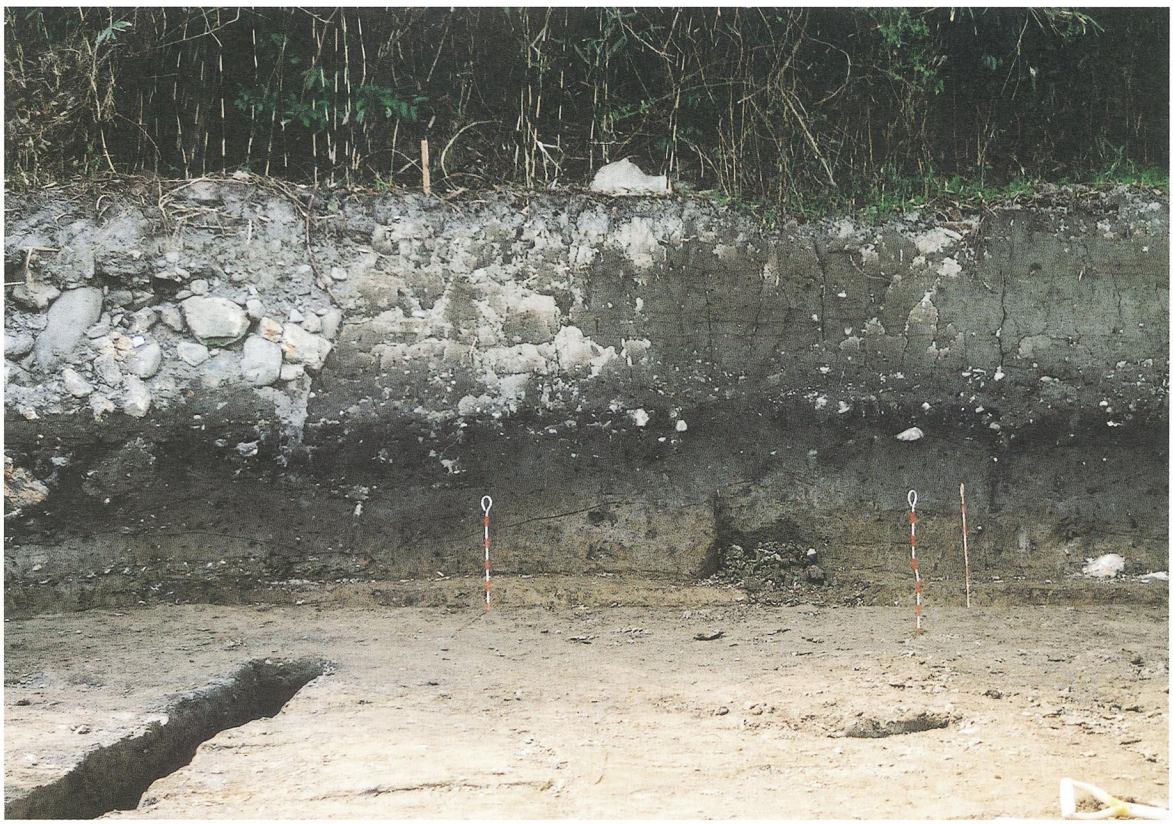
TR 7 遺物検出状況

TR 8 南壁

TR 9 遺構検出状況

TR 9 遺物検出状況（SK12）

本調査北壁



本調査西壁

ST 1 検出状況

ST 1 完掘状況

ST 2 検出状況

ST 2 完掘状況

SD 2 検出状況

SD 2 完掘状況

SX 1 掘削状況

SX 1 完掘状況

調査区西側遺構全景

集石３遺構検出状況

調査区西側遺構（SB２）

SB２・P256遺物出土状況

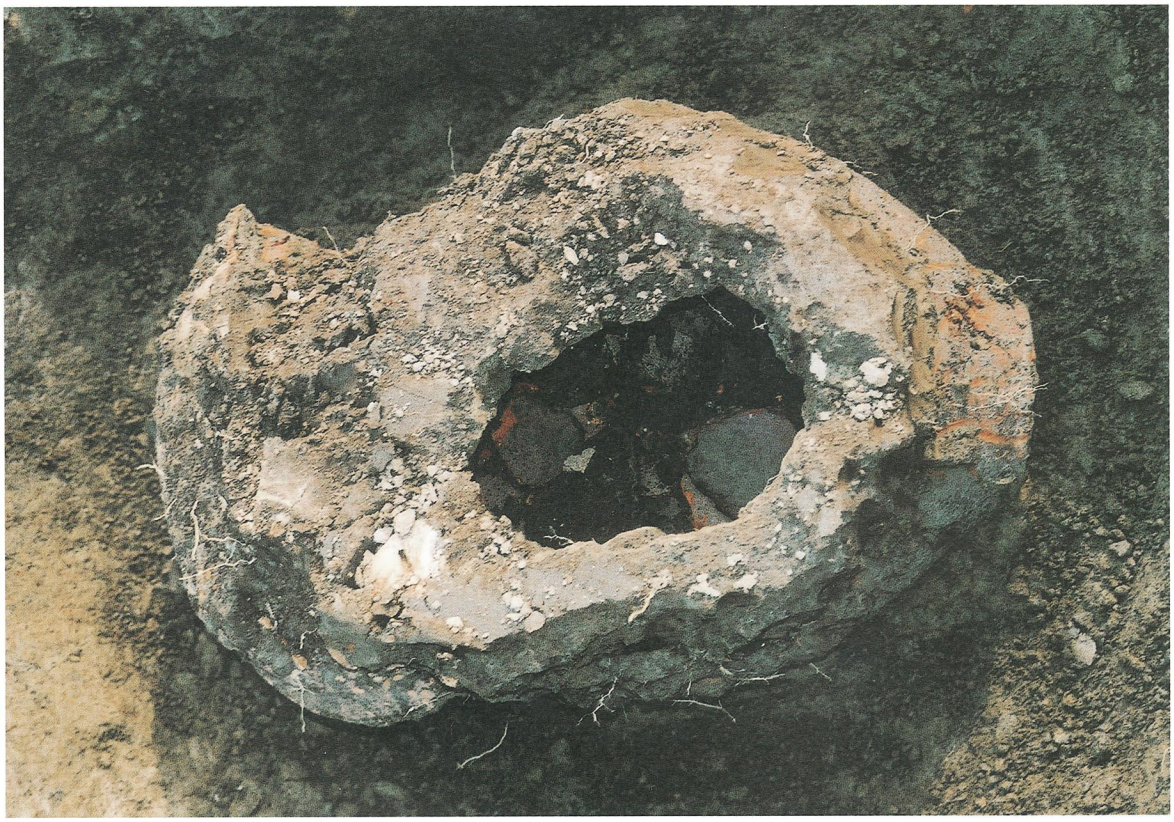
調査区北側遺構全景（東より撮影）

調査区北側遺構全景（西より撮影）

調査区南東側遺構全景

集石２検出状況

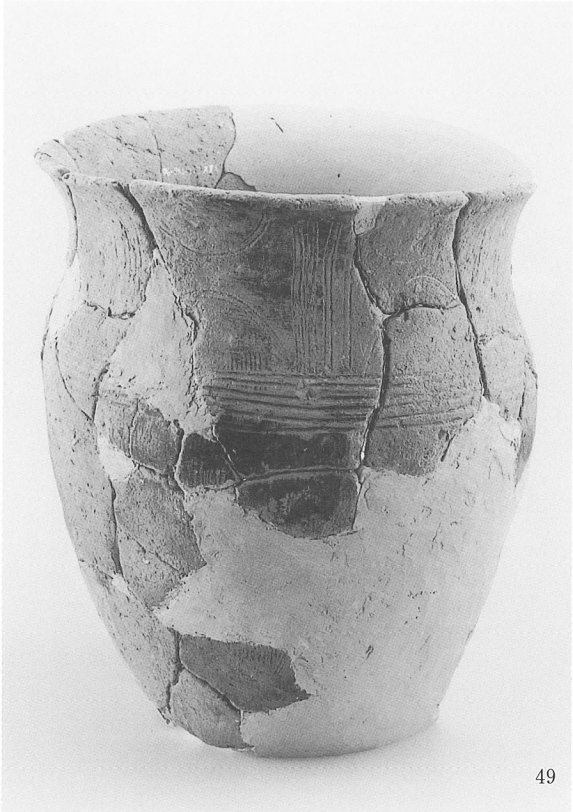
P50遺物検出状況



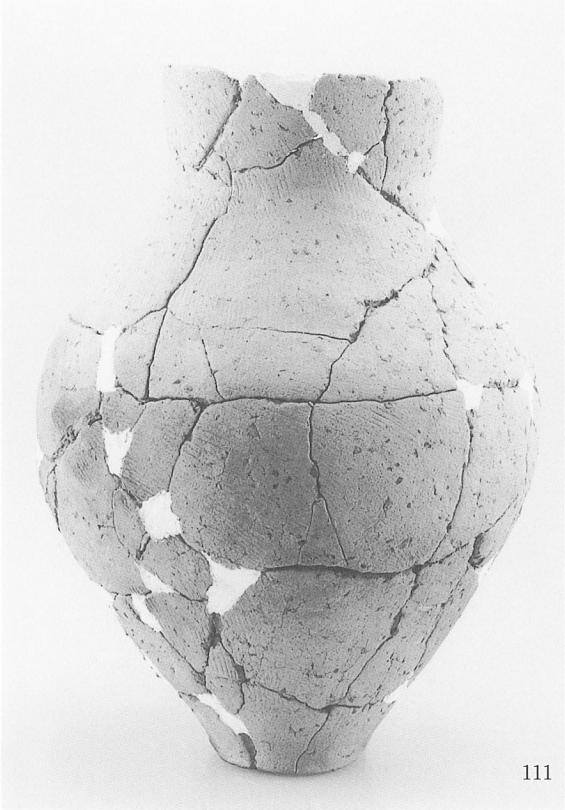
P21遺物検出状況

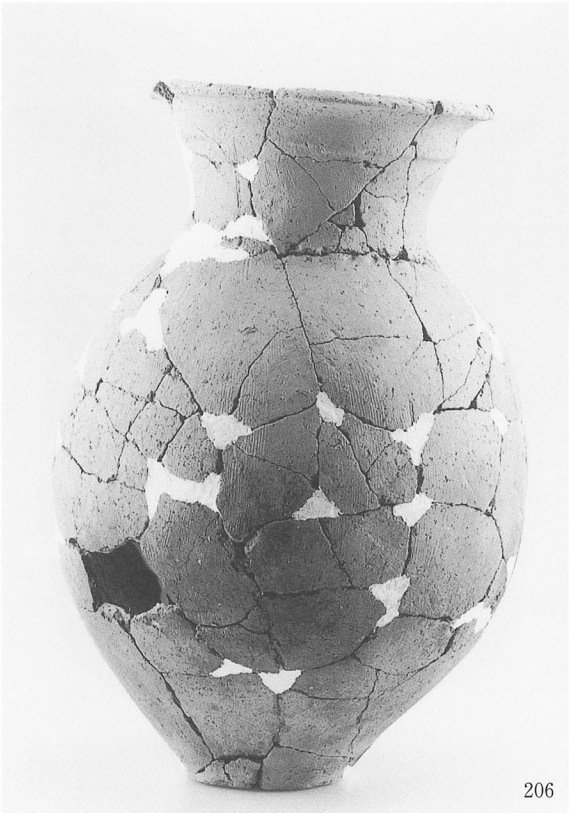
ST 2 床面遺物検出状況

調査風景



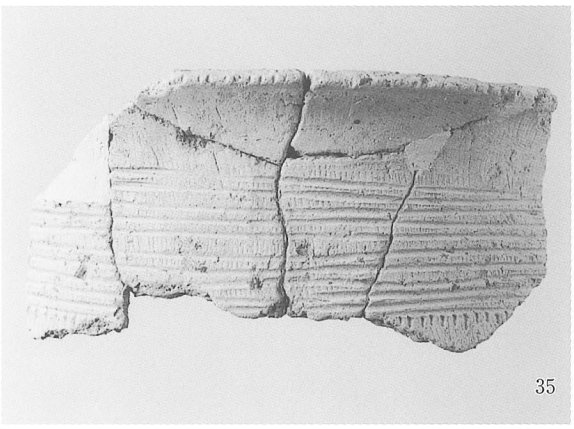
SK12(127・130), TR 1 (49・50) 出土遺物

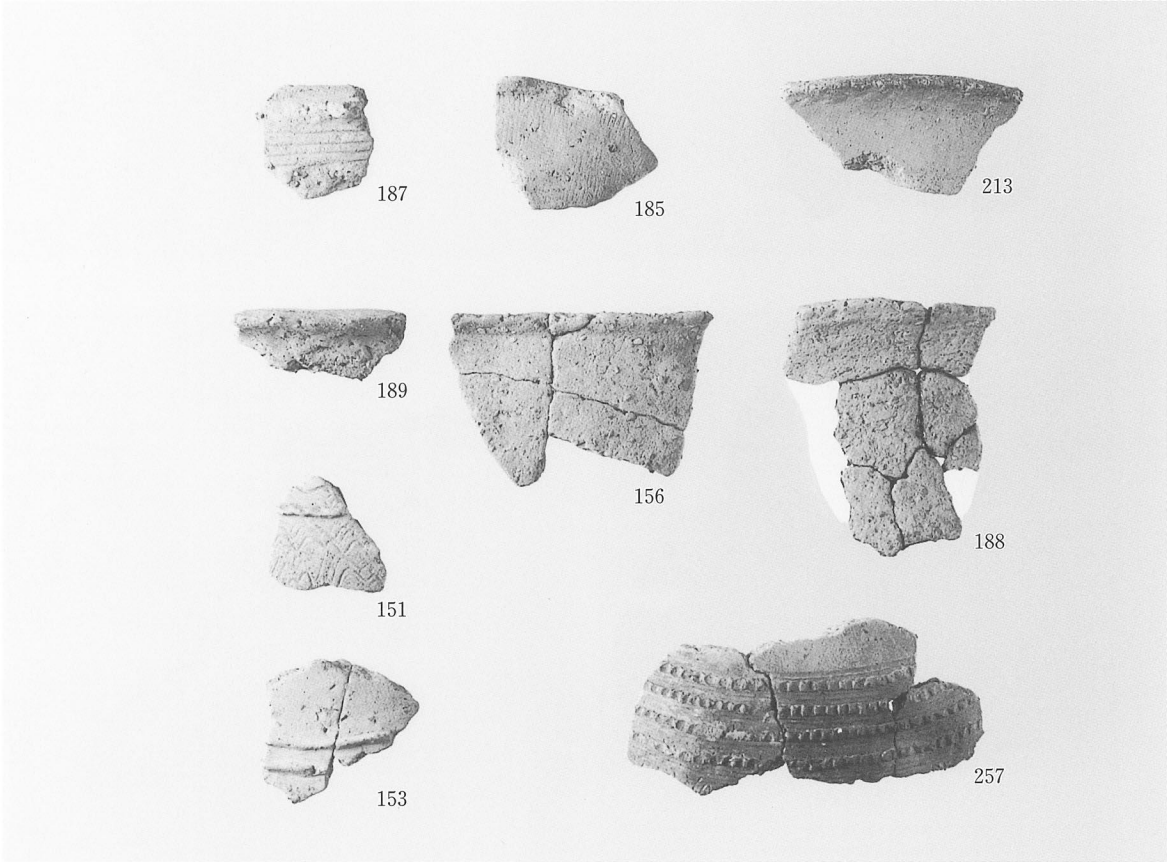




ST 2 (111), SK12(129), P21(204), P50(206) 出土遺物

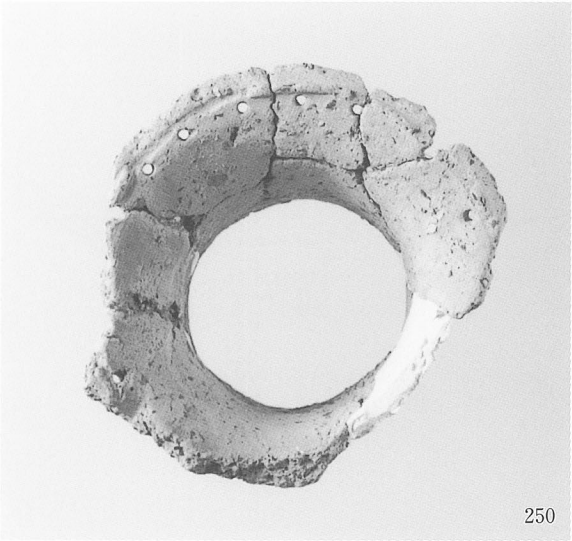
SK13(128)，SX 1 (174)，TR 1 (34・45・63)，包含層(281) 出土遺物

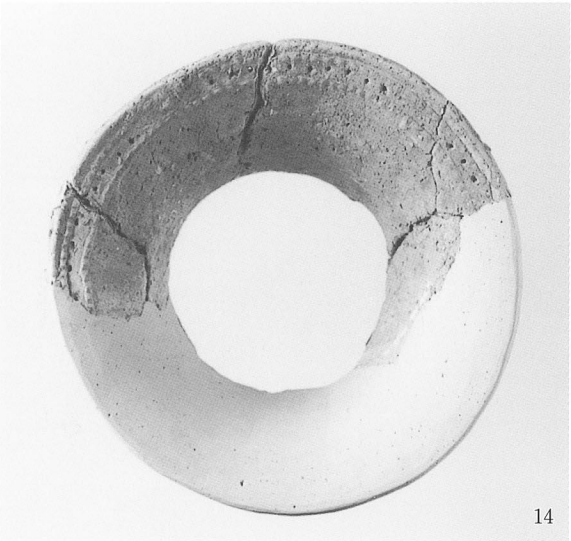




SK12(125・126・131), TR 1 (35), SD 2 (151・153), SX 1 (185・186・187・188・189), P234(213), 包含層(257) 出土遺物

TR 1 (10・11・13・14・20)，包含層(250) 出土遺物

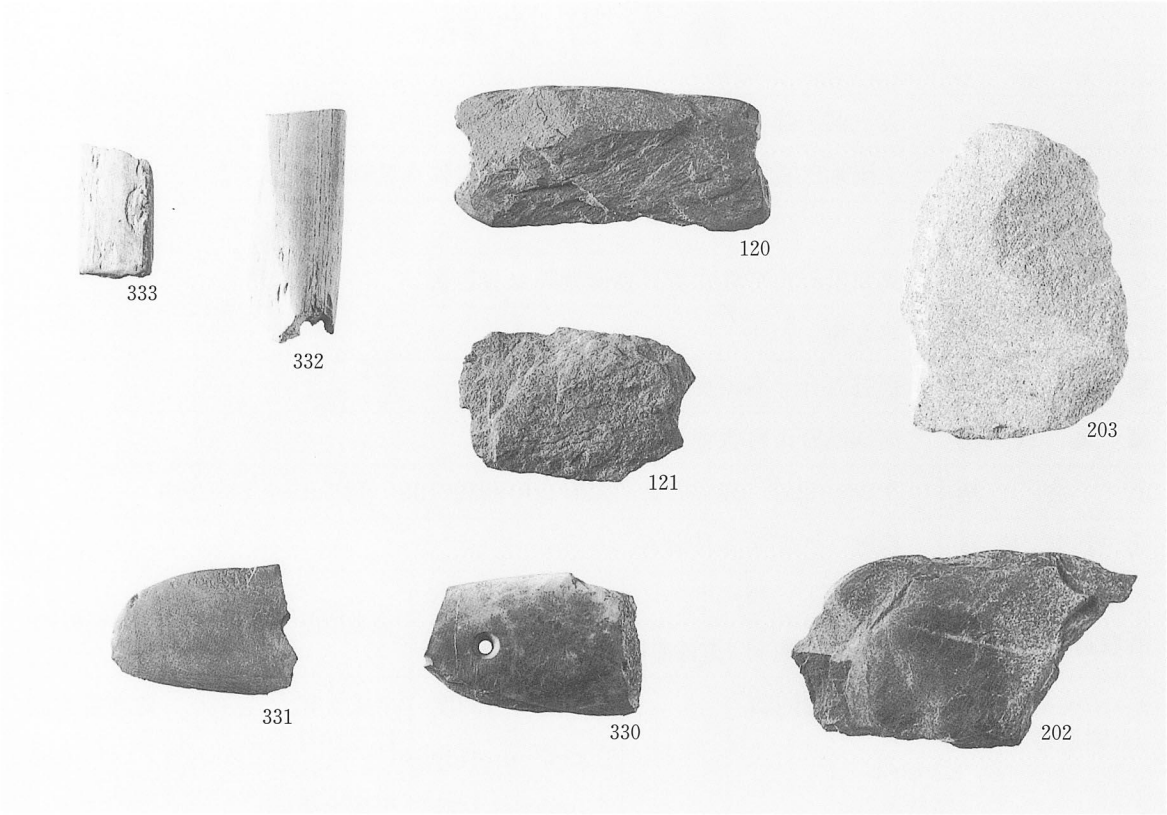




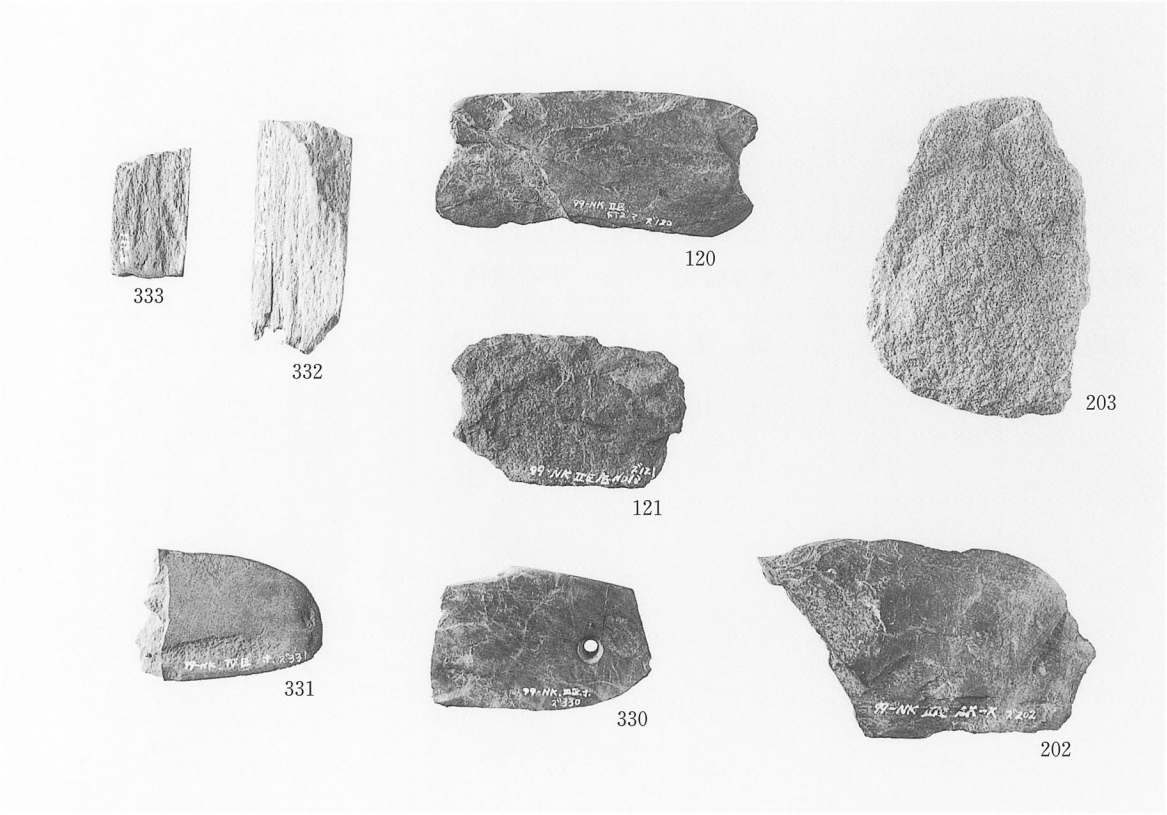
TR 1 (14・17・18・23・89)，包含層(250) 出土遺物

TR 1 (38・39・47)，TR 8 (97)，包含層(300・304) 出土遺物

SB 2，P256(236)，P50(205)，TR 1 (66)，TR 7 (94)，TR 8 (96)，TR 8 -10(93)，
TR 9 (95)，包含層(335) 出土遺物



ST 2 (120・121), SX 1 (202・203), 包含層(330・331・332・333) 出土遺物



同上裏面

報告書抄録

ふりがな	かみ おか い せき
書名	上 岡 遺 跡
副書名	上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書
巻次	1
シリーズ名	高知県野市町教育委員会発掘調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	更谷大介・溝渕真紀
編集機関	高知県野市町教育委員会
所在地	〒781-5292 高知県香美郡野市町西野2706 TEL0887-56-3910
発行年月日	西暦 2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かみおかいせき 上岡遺跡	〒781-5234 こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 のいちちょう 野市町 かみおか 上岡	39324		33度 33分 19秒	133度 41分 15秒	平成8年 12月16日 〜 平成9年 2月25日 平成11年 12月1日 〜 平成12年 3月22日	1,100	処理場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上岡遺跡	集落跡	弥生 古代	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	弥生土器 土師器	

上　岡　遺　跡

－上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書－

（野市町埋蔵文化財発掘調査報告書　第８集）

2005年３月

発　行　　高知県野市町教育委員会
高知県香美郡野市町西野2706
電話（0887）56－3910

印　刷　　川北印刷株式会社